

議第 4 号

飯田都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について

平成26年11月 5 日提出
長野県都市計画審議会長

26都第280号
平成26年10月22日

長野県都市計画審議会長 様

長 野 県 知 事

飯田都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について

このことについて、都市計画法第21条第2項の規定において準用する同法第18条第1項の規定により、次のように審議会に付議します。

飯田都市計画

(飯田市)

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

(案)

長野県

変更理由書

「飯田都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」は、平成20年8月に都市計画区域の拡大にあわせて一部改訂を行っているが、平成16年5月の策定以降、約10年が経過しており、今日、人口減少化社会や少子高齢化社会の進行、中心市街地の空洞化、地球温暖化問題や東日本大震災を契機とした防災への関心の高まり、グローバル化の進展等、飯田都市計画区域（以下、本区域という。）をとりまく社会経済情勢も大きく変化している。

また、本区域では、三遠南信自動車道が概ね整備されているほか、平成25年9月にリニア中央新幹線長野県駅（仮称）の位置が公表され、高速交通体系の整備により、飯伊圏域の中心都市として新たな都市の発展が期待されている。

こうした背景を踏まえ、地形的条件、生活・文化圏、市街地の連たん等、一体的な都市圏として飯伊圏域全体の将来を見据えた広域的な観点からの見直しが必要となっている。

こうしたことから、平成15年に策定した「飯伊圏域都市計画マスタープラン」及び平成23年度に実施した「都市計画に関する基礎調査」の結果等を踏まえ、飯伊圏域全体に共通する課題等を明らかにしたうえで、当該都市の発展の動向、当該都市計画区域における人口、産業の現状及び将来の見通し等を勘案し、主要な土地利用、都市施設等についておおむねの配置、規模等を示し、一体の都市として整備、開発及び保全を図るため、次のとおり変更するものである。

なお、リニアを見据えた地域づくりの指針「長野県リニア活用基本構想」（平成26年3月）における「伊那谷交流圏構想」や「リニア3駅活用交流圏構想」などの実現に向け、現在、関係機関において検討が進められていることから、リニア中央新幹線新設に伴う土地利用の方針や都市施設の整備に関する都市計画の決定の方針などは、今後、計画が具体化した時点で再度マスタープランの見直しを行う予定である。

目 次

1. 飯伊圏域の現状と課題.....	1
(1) 圏域の現状.....	1
(2) 圏域の主要課題.....	8
2. 飯伊圏域の都市計画の目標.....	11
(1) 圏域の基本理念.....	11
(2) 圏域の将来都市構造.....	13
3. 都市計画の目標	18
(1) 飯田都市計画区域の現状と課題.....	18
(2) 飯田都市計画区域の範囲と目標年次.....	18
(3) 都市づくりの基本理念.....	19
(4) 地域毎の市街地像.....	20
4. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針.....	24
(1) 区域区分の決定の有無.....	24
(2) 区域区分の方針.....	25
5. 主要な都市計画の決定の方針.....	26
(1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針.....	26
(2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針.....	30
(3) 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針.....	34
(4) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針.....	34
6. 附図	38

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように変更する。

1. 飯伊圏域の現状と課題

(1) 圏域の現状

飯伊圏域は長野県の南に位置し、静岡県、愛知県、岐阜県と接しており、飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村の14市町村で構成されている。

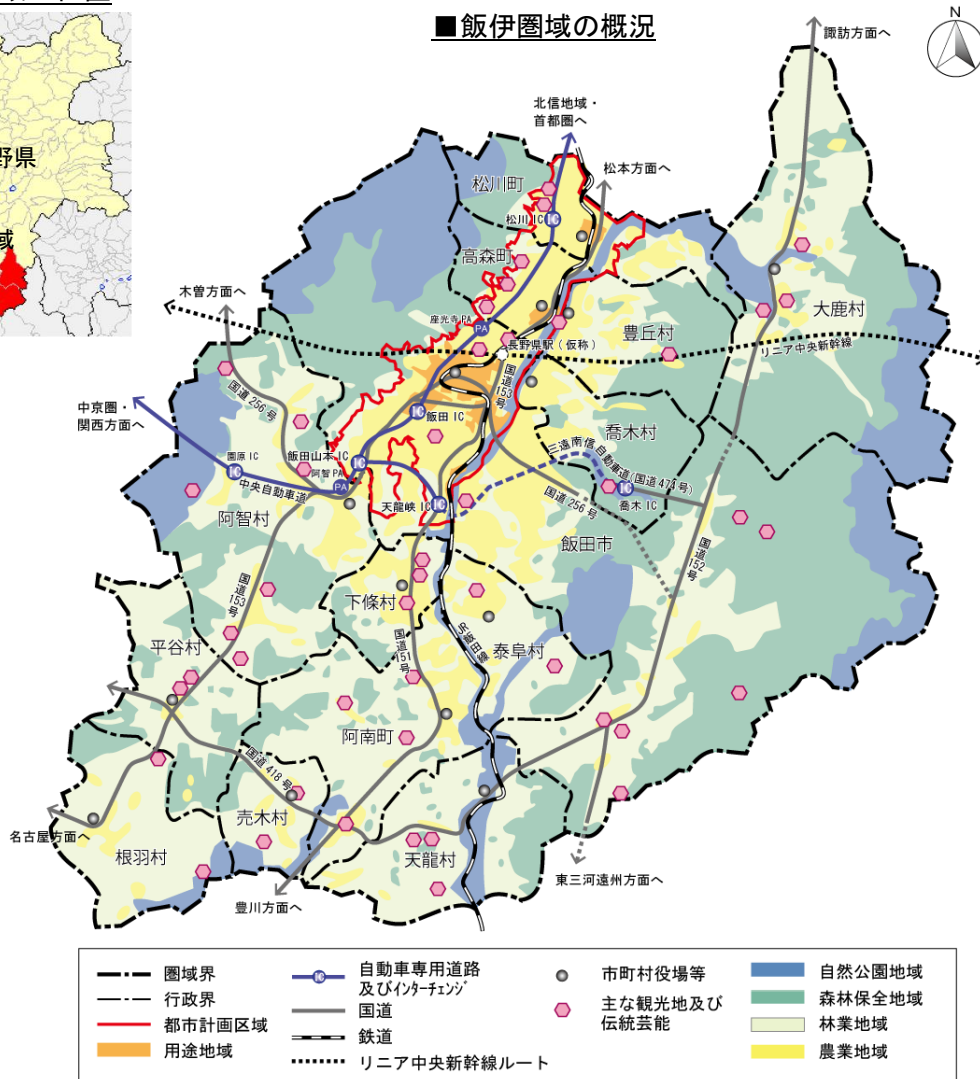
東を南アルプス（赤石山脈）、西を中央アルプスに挟まれ、ほぼ中央を南北に天竜川が流れ、大きく飯田盆地、南部高原、赤石溪谷の3つの地形で構成されている。

市街地や集落地は、天竜川沿いの平坦地に形成されており、飯伊圏域の北部には3つの都市計画区域（飯田都市計画区域、松川都市計画区域、高森都市計画区域）が指定され、一体的な都市圏を形成している。

■飯伊圏域の位置



■飯伊圏域の概況



ア 人口の動向

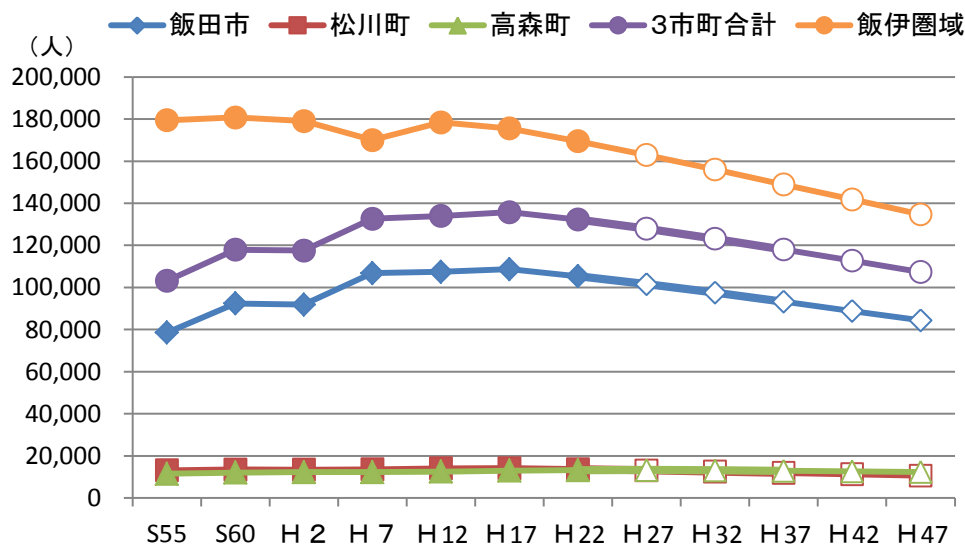
飯伊圏域の人口及び世帯数は、169,504 人、58,544 世帯（平成 22 年国勢調査）で、過去の推移をみると、昭和 60 年をピークに年々減少傾向にある。

都市計画区域が指定されている飯田市及び松川町は減少傾向にあり、高森町は平成 22 年までは増加傾向にあったが、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）では、飯伊圏域内の各市町村とも、人口の減少が予測されている。

平成 23 年 10 月現在の年少人口及び高齢者人口の割合は、それぞれ 13.9%、29.6% となっており、特に高齢化率は、全国平均(23.0%)、県平均（26.5%）（数値はいずれも平成 22 年国勢調査）と比べて高い比率となっている。

また、飯伊圏域内では天龍村や大鹿村等、高齢化率が 40%を超える町村も多くみられる。

■飯伊圏域の人口動向



■飯伊圏域の人口動向

	国勢調査実績値(人)							将来推計人口(人)				
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
飯田市	78,515	92,401	91,859	106,772	107,381	108,624	105,335	101,555	97,558	93,253	88,844	84,353
松川町	13,108	13,511	13,422	13,617	14,070	14,117	13,676	13,099	12,502	11,883	11,252	10,607
高森町	11,488	12,022	12,232	12,252	12,528	12,976	13,216	13,244	13,101	12,895	12,645	12,367
3市町合計	103,111	117,934	117,513	132,641	133,979	135,717	132,227	127,898	123,161	118,031	112,741	107,327
飯伊圏域	179,462	180,763	179,038	170,014	178,392	175,523	169,504	162,924	156,042	148,924	141,799	134,698
長野県	2,083,934	2,136,927	2,156,627	2,193,984	2,215,168	2,196,114	2,154,695	2,090,658	2,018,822	1,937,623	1,851,124	1,760,905
全国	117,060	121,049	123,611	125,570	126,926	127,768	128,057	126,597	124,100	120,659	116,618	112,124

※資料：実績値は国勢調査、推計人口は国立社会保障人口問題研究所のコーホート推計値。
全国値の単位は千人。

イ 市街化の動向

飯伊圏域の市街地は、飯田市、松川町、高森町の用途地域を中心に形成されており、J R 飯田駅周辺に飯伊圏域の核となる中心市街地が形成されている。

都市計画区域が指定されている飯田市、松川町、高森町では、全体的に、用途地域外の人口が増加傾向にある。特に飯田市においては用途地域内の人口が減少し、用途地域外で増加する人口の逆転現象が生じており、用途地域外での農地転用も増加傾向にある。

また、飯伊圏域の核となっている飯田中心市街地においては人口減少が進んでおり、車社会の進展に伴い、近年は一般国道 153 号等の主要な幹線道路沿道において沿道型店舗等の立地が進行している。

■用途地域内外の人口の推移

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
飯田市	用途地域内人口	51,633	49,972	47,957	46,277	45,488	43,901
	用途地域外人口	32,741	34,622	40,030	43,024	43,265	47,847
	人口密度(人/ha)	35.4 (7.3)	34.2 (7.7)	47.3 (9.8)	30.4 (8.5)	29.9 (8.6)	28.9 (7.3)
	DID区域人口	35,838	41,281	39,743	38,597	36,512	34,695
松川町	用途地域内人口	3,749	3,789	3,971	4,242	4,249	－
	用途地域外人口	8,907	8,814	8,957	9,137	9,233	－
	人口密度(人/ha)	22.8 (3.7)	23.1 (3.7)	24.2 (3.7)	25.8 (3.8)	25.9 (3.8)	－
高森町	用途地域内人口	3,323	3,555	3,412	3,468	3,595	－
	用途地域外人口	8,699	8,677	8,840	9,060	9,381	－
	人口密度(人/ha)	19.5 (3.4)	18.7 (3.4)	18.0 (3.5)	18.3 (3.6)	31.1 (4.4)	－

※資料：都市計画基礎調査

※人口密度：上段は用途地域内、下段（）は用途地域外の人口密度

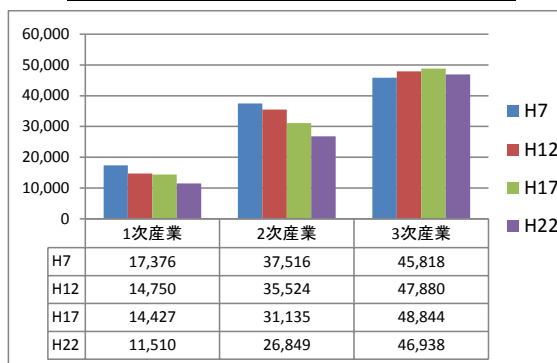
ウ 産業の動向

(ア) 産業別人口の推移

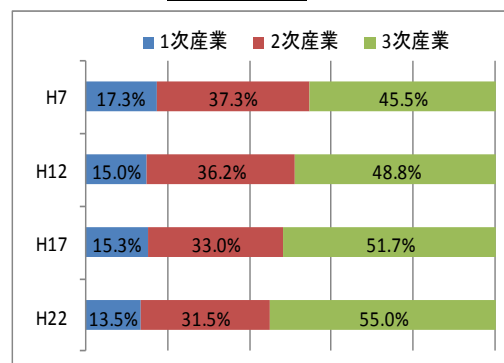
平成 22 年現在、飯伊圏域の産業従事者は約 8 万 5 千人で、第 3 次産業が 55.0%、第 2 次産業が 31.5%、第 1 次産業が 13.5%の割合となっており、近年、第 2 次産業の減少が目立っている。

都市計画区域が指定されている 3 市町は、近年、産業別人口はいずれも減少傾向にあり、特に第 2 次産業の減少が目立っている。

■飯伊圏域の産業別従業者数の推移



■同構成比



■産業別人口の推移（３市町）

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
飯田市	第1次産業	10,051	8,022	7,581	6,535	6,415	4,837
	第2次産業	23,539	24,022	23,250	22,233	19,682	16,879
	第3次産業	27,209	28,878	31,833	31,703	31,490	30,313
	計	60,838	61,549	62,721	60,530	58,036	55,280
松川町	第1次産業	2,910	2,472	2,332	2,158	2,056	1,807
	第2次産業	2,887	2,877	2,867	2,922	2,579	2,239
	第3次産業	2,175	2,484	2,910	3,197	3,421	3,339
	計	7,976	8,081	8,118	8,279	8,064	7,410
高森町	第1次産業	2,259	1,934	1,840	1,691	1,575	1,257
	第2次産業	2,359	2,531	2,591	2,451	2,262	2,138
	第3次産業	2,373	2,662	2,913	3,210	3,564	3,700
	計	7,001	7,129	7,350	7,376	7,413	7,119

資料：都市計画基礎調査、国勢調査

(イ) 産業別の動向

a 農業

飯伊圏域の農業は、温暖な気候と標高差を活かし、多種多様な作物が生産されている。農業生産額は、果樹・畜産が生産額の約5割を占めており、農産物の加工やグリーンツーリズム等、農業・農村資源を活用した取り組みが進められ、地域の特色となっている。

しかし、農家数、農業生産額も年々減少しており、農業従事者の高齢化に伴う担い手の確保等が大きな課題となっている。

b 工業

飯伊圏域の工業は、「精密機械・食料」を中心としており、製造品出荷額では、飯田市が圏域全体の7割以上を占めている。

企業数、従業者数、製造品出荷額とも近年は減少傾向にあり、工場立地件数も近年は年数件程度の低い水準にとどまっている。

また、飯伊地域の水引・凍豆腐・半生菓子・漬物等の特色ある地場産業は、国内の高いシェアを占めている。

c 商業

飯伊圏域の商業は、商店数、従業者数、商品販売額とも平成11年以降、年々減少が続いている。

飯伊圏域の商品販売額の約8割を飯田市が占め、松川町、高森町を含めると9割以上となり、飯伊圏域全体が飯田市を中心とする第1次商圈に包括されている。

なお、店舗面積1,000㎡超の大規模小売店舗は、平成26年1月末現在で39店舗となっている。

d 林業

飯伊圏域の森林率は86%で、県平均の78%を大きく上回っている。

森林資源は、建築用材、土木用材、木質バイオマス燃料として利用されており、根羽スギや遠山スギとしてブランド化された木材もある。また、マツタケをはじめとするキノコ等の特用林産物も、林業生産額の多くを占めている。

エ 都市整備の状況

(7) 道路・交通施設の状況

a 幹線道路網

飯伊圏域の主な幹線道路網としては、中央自動車道、三遠南信自動車道をはじめ、一般国道6路線（うち1路線は三遠南信自動車道(一般国道474号)）、主要地方道13路線、一般県道36路線があり、地域の骨格を形成している。一般国道・県道等、県管理分の改良率は平成24年3月末現在、約50%となっており、県平均の65%に比べ低い水準となっている。その主な理由として、飯伊圏域の急峻な地形により、橋りょう、トンネル等の構造物が多く必要となることがあげられる。

なお、三遠南信自動車道は、飯田山本インターチェンジ～天龍峡インターチェンジ間が平成20年4月に開通し、現在、天龍峡インターチェンジ～喬木インターチェンジ間及び青崩峠道路の整備が進められている。

b 鉄道

JR飯田線は、飯伊圏域の主要な公共交通機関で地域住民の重要な交通手段となっているが、その利用は年々減少しており、特に飯伊圏域の主要駅であるJR飯田駅の減少が著しい。

なお、飯田市にリニア中央新幹線長野県駅（仮称）の設置が公表され、駅及び駅周辺の機能、施設のあり方に関する検討が本格化する予定である。

(イ) 都市計画施設の整備状況

a 都市計画道路

都市計画道路は、3市町の都市計画区域内で計51路線あり、平成25年3月末現在、総延長の約5割が改良済みとなっている。

b 都市公園

都市計画公園は、3市町の都市計画区域内で、49カ所、面積208.2haが計画決定されているが、そのうち、平成25年3月末現在、45カ所、面積159.3haが開設済みとなっている。

都市計画決定されていないその他の都市公園を含めた開設済み都市公園の面積は都市計画区域の人口1人あたり14.2㎡/人となっている。

c 下水道

生活排水の処理は公共下水道、合併処理浄化槽、農業集落排水等によって行われており、平成 25 年 3 月末現在、これら長野県全体の普及率は 96.6%となっている。

このうち飯伊圏域の公共下水道の普及率は、飯田市 82.1%、松川町 41.8%、高森町 53.5%となっている。

d その他の都市計画施設

飯田市では、ごみ焼却場、汚物処理場、火葬場等の都市計画施設が計画決定されており、整備済みとなっているが、現在、関係市町村による一般廃棄物の広域処理を担う新たなごみ処理施設が計画されている。

また、高森町では新たな火葬場の設置が予定されている。

オ 観光の動向

飯伊圏域は、豊かな自然、温泉、地域固有の民俗芸能や祭り、観光レクリエーション施設等、多様な観光資源を有しているが、平成 15 年以降、観光客数、消費額とも減少傾向が続いている。

平成 24 年の観光客数は、約 384 万人で県外客が約 7 割を占めているが、日帰り客が約 8 割を占める通過型の観光地となっている。

飯伊圏域内の観光客数が多い上位 5 件の観光地は、昼神温泉、下條温泉郷親田高原、園原の里、松川高原・まつかわ温泉清流苑、天龍峡・天竜川下りの順となっている。

カ 自然環境

飯伊圏域は、南アルプスや中央アルプスに囲まれ、飯伊圏域の約 86%を占める森林、高原や溪谷等、豊かな自然環境に恵まれている。

景勝地の多くは、南アルプス国立公園、天竜奥三河国定公園、中央アルプス県立公園、天竜小渋水系県立公園、県自然環境保全条例に基づく郷土環境保全地域に指定されている。

また、豊かな水資源は県民共有の貴重な財産であり、将来にわたって保全を図るため、「長野県水環境保全条例」に基づく水道水源保全地区の指定をはじめ、名水百選・信州の名水・秘水の選定など、水資源の保全に努めている。

キ 災害の危険性

飯伊圏域は急峻で複雑な地形、脆弱な地質にあり、県内の他と比べて年間降水量の多い地域であることから、これまで天竜川等の河川の氾濫、土石流、地すべり等の自然災害に見舞われており、昭和 36 年、昭和 58 年には大規模な災害が発生し甚大な被害を受けている。

特に、中山間地域では急峻な地形であることから、各所に土砂災害防止法に基づく

土砂災害警戒区域及び特別警戒区域が指定されている。

また、飯伊圏域内では、地震防災に関する対策を強化する必要がある地域として、飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、下條村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村の11市町村が「東海地震に係る地震防災強化地域」に指定されている。

ク 環境対策

地球温暖化対策に関する取り組みとして、長野県地球温暖化防止活動推進員の設置等が行われているほか、飯田市では、国の環境モデル都市に選定され、「飯田市環境モデル都市行動計画」に基づき、太陽光市民共同発電事業等、地元企業・市民・NPOによる先進的な環境政策を展開している。

（２）圏域の主要課題

前述の飯伊圏域の現状を踏まえるとともに、近年の都市を取り巻く社会経済情勢の変化を踏まえ、飯伊圏域全体における広域的・共通的な主要課題を次のように整理する。

ア 中心市街地空洞化への対処

飯田市の中心市街地や松川町・高森町の既存商店街等では、近年の車社会の進展や郊外部の宅地化の進行に伴って、居住人口の減少、高齢化の進行、空き店舗の増加や商業活動の停滞など、中心市街地の空洞化が生じていることから、次のような課題への対応が必要である。

- 中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進等
- アクセスしやすい交通体系の整備・交通環境の充実
- 市街地周辺等における無秩序な宅地化の抑制、コンパクトな市街地の形成等
- 健康・医療・福祉、子育て等の生活支援機能の充実、生活環境の充実等

イ 地域間の連携

これからの地域づくりは、圏域を構成する市町村や地域が自立し、個性を発揮するとともに、広域的な役割分担の中で多様性を認め合いながら互いに支え合うことが必要である。

飯伊圏域全体の活力と魅力を高めていくため、次のような課題への対応が必要である。

- 広域連携の強化（圏域外都市との連携）
- 中心都市飯田市との連携の強化（医療、教育、商業機能の集積する飯田市との連携など）
- 地域間の連携の強化（産業・観光の振興、医療機関のアクセス確保・救急医療、冬期積雪の交通確保など）
- 公共交通など生活の足の確保（日常生活に必要不可欠なバス路線の維持・確保など）

ウ 人口減少・高齢化に対応した地域活性化

飯伊圏域 14 市町村のうち、7 町村が過疎町村となっており、飯伊圏域の高齢化率は県平均を上回り、高齢化傾向が顕著である。

今後は、人口減少社会・高齢化社会を見据えた地域活性化に向け、次のような課題への対応が必要である。

- 過疎地域への対応（歴史文化を活かした観光交流の推進、グリーンツーリズム等による交流人口の拡大等）
- 高齢化社会への対応（高齢者をはじめ誰もが安心して住み続けられる住環境づくりなど）

- 観光振興への対応（自然や温泉等、圏域の優れた観光資源を活かした魅力ある観光地づくりなど）
- 地域産業の育成・活性化への対応（農業、商業、工業等）

エ 環境の保全と活用

（7）豊かな自然環境・水資源・生物多様性の保全への対応

飯伊圏域は、南アルプス、中央アルプスに囲まれ、雄大な山岳景観、森林や高原、溪谷等の優れた自然環境に恵まれており、自然公園地域に指定されている。

こうした地域のかげがえのない自然資源を保全し、未来へと引き継ぐため、良好な自然環境の保全とレクリエーションへの利用促進、豊かな水資源の保全、生物の生息環境の保全等、生物の多様性に配慮した都市づくりなどの取り組みが必要である。

（イ）計画的な土地利用への対応

近年、飯田市及び高森町の市街地周辺（用途地域外）や幹線道路周辺において宅地化が進行し、良好な田園景観や営農環境への影響が懸念されている。

アルプスの山並みに抱かれた良好な田園景観を維持保全するため、優良農地や森林の保全、適切な宅地化の誘導など計画的な土地利用の推進を図る必要がある。

オ リニア中央新幹線等の整備を見据えた都市づくり

リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備により、飯伊圏域の新たな都市の発展が期待されていることから、早期の整備促進を図るとともに、国際空港等へのアクセス向上によるグローバル化への対応、交流人口の拡大、適切な土地利用の誘導、長野県の南の玄関口及び広域交通の結節点としての機能強化、豊かな自然環境や伝統芸能・生活文化の保全と活用など、これらの整備効果を最大限に活かした都市づくりが求められている。

カ 災害に備えた都市づくりへの対応

飯伊圏域は、中山間地域をはじめ、地形・地質的に災害が発生しやすい地域で、自然災害の危険性が指摘されている。また、飯伊圏域 11 市町村が東海地震の地震防災強化地域に指定されていることから、東日本大震災をはじめ、今後の発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等を踏まえ、地震・火災・水害・土砂災害に対する総合的な防災・減災対策の強化が必要である。

こうしたなか、三遠南信自動車道は、巨大地震が発生した場合の緊急輸送道路としての役割を有していることから、早期の整備促進が求められている。

キ 低炭素型都市づくりへの対応

地球温暖化問題への関心が高まるなか、その主な要因となっている温室効果ガスの削減は都市づくり分野においても大きな課題となっている。

今後は、「都市の低炭素化の促進に関する法律」や「長野県環境エネルギー戦略～第三次長野県地球温暖化防止県民計画～」等に基づき、県民、事業者、市町村、関係団体等の役割による取組みや連携により、持続可能で低炭素な環境エネルギー地域社会（経済は成長しつつ、温室効果ガス総排出量とエネルギー消費量の削減が進む経済・社会構造）の構築に向けた都市づくりが求められている。

2. 飯伊圏域の都市計画の目標

(1) 圏域の基本理念

飯伊圏域の主要課題を踏まえ、飯伊圏域が一体として圏域づくり・都市づくりに取り組むにあたって、飯伊圏域の将来像と基本理念を次のように設定する。

【将来像】

個性の連携、元気あふれる「イアンバイ南信州」

～自立した地域が連携し、多彩な自然と共生しつつ、活力ある南信州づくりを目指す～

【基本理念】

ア 自然豊かな人にやさしいまちづくり

- 豊かな自然環境、水資源、森林資源、美しい田園景観の保全
- 生物の多様性の維持・保全に配慮した都市づくり
- 計画的な土地利用の推進、優良農地の維持・保全
- 自然環境と共生した美しい農山村づくり

イ 生きがいや誇りの持てる安全・安心な都市圏の創造

- 高齢者や障がい者、子どもたち等に対する医療・福祉・教育・文化等の生活支援施設の充実
- 少子高齢化に対応した、安全・安心に暮らせる人にやさしい都市づくり・生活環境の充実
- ユニバーサルデザインによる施設空間、歩行空間の確保
- 中山間地域の過疎対策の推進

ウ 地域特性を活かした活力ある都市圏の創造

- 地域固有の歴史文化や文化財等の地域資源の保存継承と観光等の都市づくりへの活用
- 中心市街地の活性化（中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進等）
- 地域の拠点や観光交流拠点の魅力づくりと活力の向上
- 観光・農業・商業・工業等の地域産業の振興

エ 多様なふれあいのある文化交流都市圏の創造

- 飯伊圏域内外の交流・連携を支える交通体系や情報ネットワークの整備の推進
- 地域の多様な拠点間の連携強化（都市拠点、近隣都市拠点、広域交通・地域振興拠点、観光交流拠点、文化交流拠点）

オ 個性と創造力に満ちた元気ある都市圏の創造

- 行政と住民等の協働による元気ある自立した都市づくりの推進
- 広域的な機能分担と連携による一体的な都市づくりの推進

カ リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備を見据えた都市圏の創造

～整備効果を最大限に活かした都市づくり（守るべきものを守り、備えるべきものは備える）～

- グローバル化に対応した都市づくり
- 交流人口の拡大（移住・交流を促進する情報発信や受け入れ体制の整備）
- 適切な土地利用の誘導
- 長野県の南の玄関口及び広域交通の結節点にふさわしい都市づくり
- 豊かな自然環境、歴史遺産、伝統芸能及び生活文化の保全並びに景観や緑の保全とこれらを活かした都市づくり
- 道路交通・情報ネットワークの強化（リニア中央新幹線長野県駅（仮称）や高規格幹線道路インターチェンジなどへのアクセス強化）

キ 災害に強い都市圏の創造

- 地震、水害、土砂災害等に対する防災・減災対策の強化等
- 地域における防災都市づくりの推進

ク 低炭素型社会の実現に向けた都市圏の創造

- 地球温暖化対策に応え、持続可能な地域づくりとするための低炭素型都市づくり（集約型都市構造への転換、太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用など）

（２）圏域の将来都市構造

飯伊圏域は飯田市を中心とする都市地域、段丘地域に広がる田園地域、豊かな自然と伝統文化を持つ中山間地域と３つの特色ある地域で構成されている。

恵まれた自然環境、歴史文化、産業等地域の特性を最大限に活かしながら自立した一体的な都市圏の形成を図るため、飯伊圏域の将来都市構造を次のように設定する。

ア 拠点

飯伊圏域では、都市拠点（飯田中心市街地）を核に、飯伊圏域内の多様な拠点がそれぞれの役割に応じた機能分担がなされ、それらが有機的に連携した「拠点ネットワーク型都市構造」の構築をめざす。

（７）都市拠点

飯伊圏域の主要な都市機能が集積する飯田中心市街地については、都市拠点として位置づけ、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進、都市機能の強化と都市空間の魅力づくり等を図る。

（イ）近隣都市拠点

飯伊圏域の飯田市、松川町、高森町の都市部において、行政文化施設や学校、商業施設等が集積し、生活の中心となっているところについては近隣都市拠点として位置づけ、公共施設や身近な商業施設、生活利便施設の充実やまちなみ環境の向上を図る。

（ウ）広域交通・地域振興拠点

飯田市に予定されているリニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺については、広域交通・地域振興拠点として位置づけ、各拠点の機能が相互に高まるよう連携を図るとともに、適切な土地利用を検討する。

（エ）交流拠点

a 観光交流拠点

飯伊圏域内の主要な観光地や観光・文化交流施設周辺については、観光交流拠点として位置づけ、観光交流機能の強化や魅力づくりを図るとともに、拠点の相互の有機的な連携を促進する。

b 文化交流拠点

飯伊圏域内の祭り、伝統芸能、工芸品等、代表的な歴史文化資源のある箇所を文化交流拠点と位置づけ、歴史文化資源の保全とまちづくりへの活用及び相互の連携を促進する。

イ 交流・連携軸

飯伊圏域内外の交流・連携を促進するため、次のような交流・連携軸の強化を図る。

(7) 広域連携軸

～高規格・骨格幹線道路ネットワーク（交流・連携を促進する交通ネットワークの整備）～

県内外の各地域との交流・連携の拡大や物流の効率化を図るため、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備に併せて骨格幹線道路の整備推進を図る。

(イ) 地域連携軸

～地域の拠点を結ぶ主要幹線道路（地域の拠点間や中山間地とを結び地域づくりを支援）～

地域の拠点間や中山間地域との交流・連携の促進や時間・距離の短縮を図るため、住民生活に密着した主要な幹線道路の計画的・効率的な整備促進を図る。

(ウ) 骨格的連携軸

都市地域における骨格的な交流・連携を図るため、都市地域を連携する道路や、広域交通・地域振興拠点と都市拠点等を結ぶ骨格道路の整備促進を図る。

ウ 土地利用

飯伊圏域を次の4つの土地利用ゾーンに区分し、各々の地域特性に応じた都市づくりを推進する。

(7) 市街地ゾーン（中心市街地ゾーン、周辺市街地ゾーン）

a 中心市街地ゾーン

- ・飯伊圏域の拠点として都市的利便性や快適性を享受しつつ、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進、多様で高度な都市サービス機能の充実、整備を図る。
- ・都市的な賑わいをはじめ、高齢化社会に対応した居住環境の整備や緑地空間が一体となったゆとりとうるおいのある都市的空間の形成を図る。

b 周辺市街地ゾーン

- ・隣接する田園空間との共生を図りつつ、計画的な市街地形成を図る。また、補完的な都市サービス機能を充実すると共に、うるおいのある居住環境の形成を図る。

(イ) 段丘田園ゾーン

- ・「市街地ゾーン」を囲む地域として、緑豊かな美しい景観や自然環境との調和を図りつつ、里山田園景観と共生した良好な居住環境の整備を図る。また、地域の特性を生かしつつ、個性ある農業の振興と良好な農村景観の保全を図る。

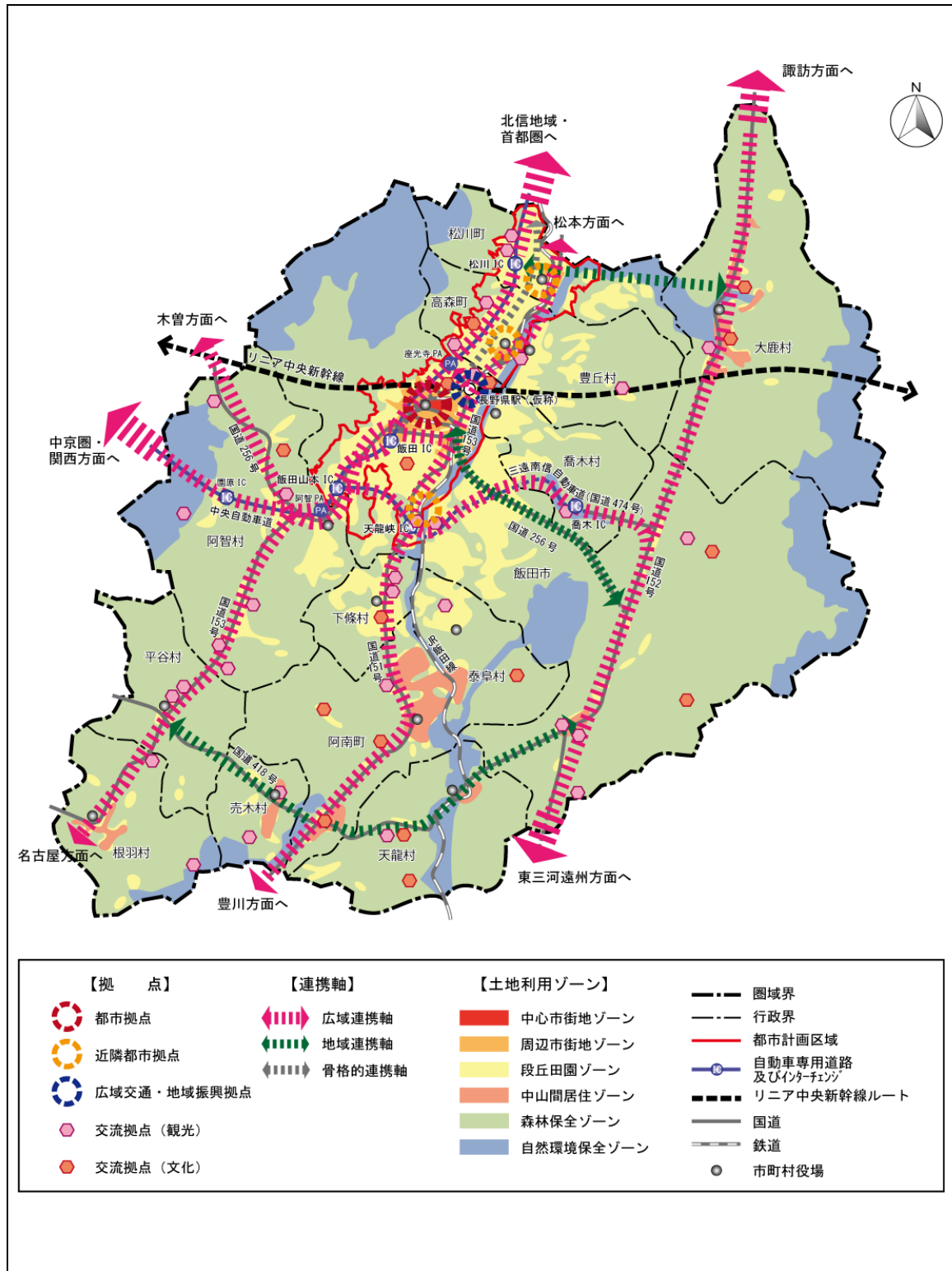
(ウ) 中山間地域ゾーン（中山間居住ゾーン、森林保全ゾーン、自然環境保全ゾーン）

- ・「段丘田園ゾーン」を囲む地域として、雄大な南アルプスや中央アルプスに代表される豊かな緑と、清らかな水環境等の自然環境の保全を図る。
- ・雄大な山岳観光資源や、豊富な森林資源、個性ある民俗芸能等を活かしつつ、農林産業、観光産業や屋外レクリエーション機能を充実し、交流人口の拡大や地域活性化を促進する。

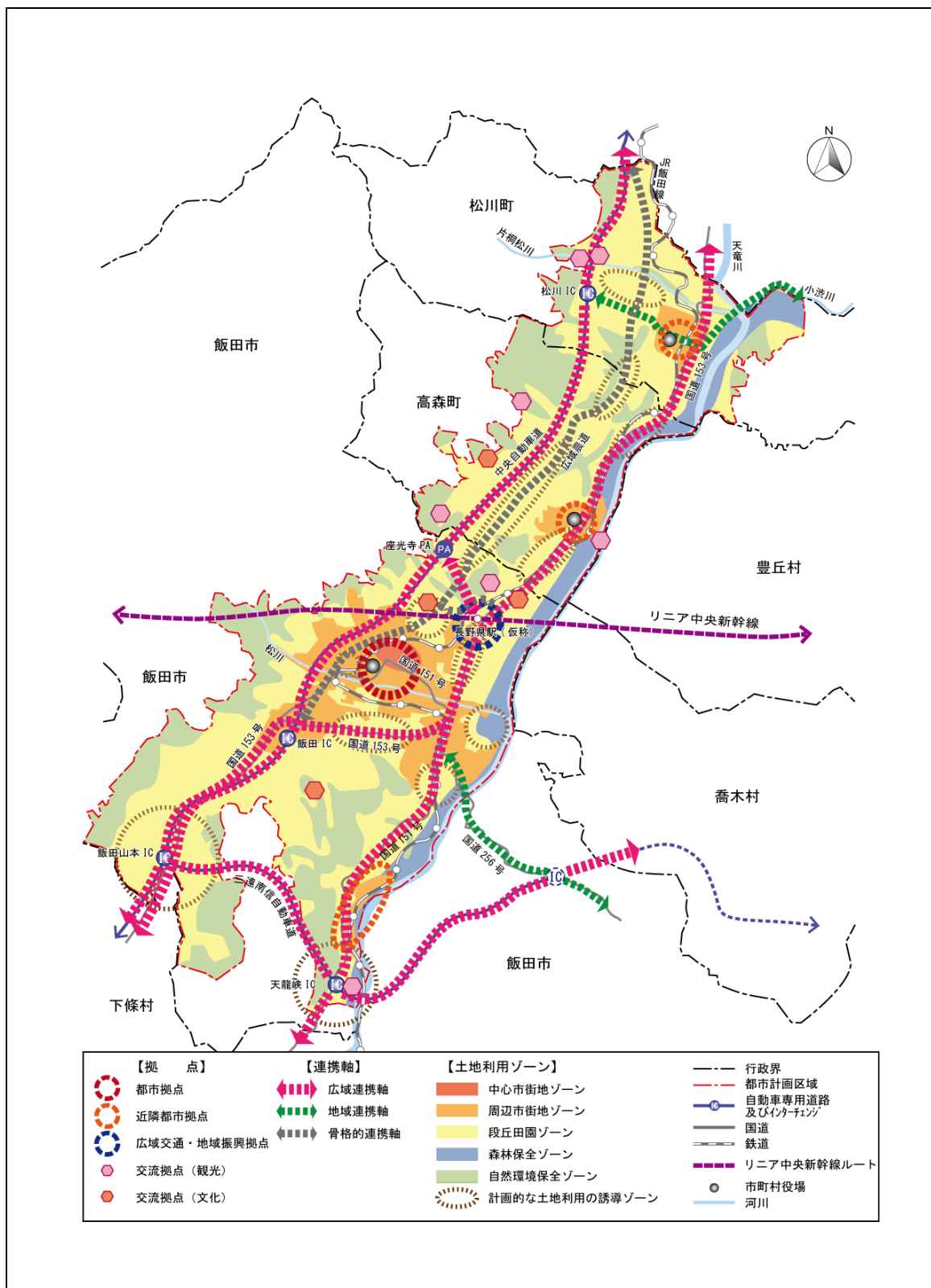
(エ) 計画的な土地利用の誘導ゾーン

- ・白地地域や幹線道路沿道地域については、適切な土地利用の誘導を図る。

■飯伊圏域の将来構造図（圏域全体）



■都市計画区域の将来構造図（飯田、松川、高森）



3. 都市計画の目標

(1) 飯田都市計画区域の現状と課題

本区域が位置する飯田市は、東に南アルプス、西に中央アルプスを望み、豊富な水量を誇る天竜川や豊かな森林に囲まれるなど、豊かな自然環境に恵まれている。

また、古くから交通の要衝、飯田城の城下町として栄え、産業、行政文化等の主要な都市機能が集積する飯伊圏域の中心都市として発展し続けてきた。

しかしながら、今日、人口減少社会、少子高齢化社会の進行、地球温暖化問題、中心市街地の空洞化、地域産業の停滞など、本区域をとりまく社会経済情勢も大きく変化しており、また、東日本大震災を教訓とした災害に強い都市づくりへの対応、市街地の拡散を抑制したコンパクトな都市づくりなど、これらの課題に対応した持続可能な安全で活力ある都市づくりが求められている。

さらに、今後、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備により、新たな都市の発展が期待されており、これらの整備効果を最大限に活かした都市づくりが求められている。

こうした本区域を取り巻く情勢と本区域の広域的な位置づけを求められるなかで、都市計画の目標とその実現に向けた基本的な方針を以下に示す。

(2) 飯田都市計画区域の範囲と目標年次

ア 都市計画区域の範囲

都市計画区域の名称 : 飯田都市計画区域
対 象 市 町 村 : 飯田市
範 囲 : 飯田市の一部

イ 目標年次

おおむね 20 年後の都市の姿を展望した上で、おおむね 10 年間の都市計画の基本的方向を定めるものとする。

都市計画の基本的な方向 : 平成 42 年

都市施設などの整備目標 : 平成 32 年（中間年：平成 27 年）

(3) 都市づくりの基本理念

本区域の都市づくりにあたっての基本理念としては、飯伊圏域全体を捉え、

個性の連携、元気あふれる「イアンバイ南信州」

～自立した地域が連携し、多彩な自然と共生しつつ、活力ある南信州づくりを目指す～

とし、その実現のための方針としては、次のとおりとする。

ア 自然豊かな人にやさしいまちづくり

本区域においては、周辺部の自然環境の保全と市街地の立体的都市景観の活用に配慮するものとする。

イ 生きがいや誇りの持てる安心なまちづくり

本区域においては、高齢化社会に対応し、誰もが暮らしやすいまちづくりに配慮するものとする。

ウ 地域特性を活かした活力あるまちづくり

本区域においては、地域固有の歴史文化や文化財等の地域資源を保存継承し、観光等の都市づくりへ活用する。特に、中心市街地が地域の個性創出に果たしてきた歴史的役割と依然としてその空洞化が進みつつある現状とを踏まえ、既存の都市集積を活かした居住者の回帰や特色ある商業の再構築施策、或いは新たな都市基盤整備などによる再構築に努め、住民主体の賑わいと活力のあるまちづくりに配慮するものとする。

エ 多様なふれあいのあるまちづくり

本区域においては、飯伊圏域の中心都市として、圏域全体に亘る人々の産業経済活動や文化活動、或いはその他日常生活における交流と連携を深める役割を担うことが必要である。そのため、その中核となる飯田市市街地における都市の計画的な整備・更新に努めるとともに、それらを支える交通基盤の整備を、隣接する町村との調整を図りながら推進するものとする。

オ 個性と創造力に満ちた元気あるまちづくり

本区域においては、飯伊圏域の中心都市として人やモノ或いは情報などの交流の場を提供することによって培われてきた特色ある文化を中心に都市の個性が形づくられてきた。これら歴史の伝承を図る中で都市の賑わいと輝きを高め、風土に根ざした飯田らしい雰囲気を感じることできる市街地を整備するとともに、都市の個性を高める新しい文化の創造を支援するものとする。

カ リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備を見据えたまちづくり

本区域においては、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備を見据え、「守るべきものを守り、備えるべきものは備える」という理念のもと、長野県の南の玄関口の役割を担う都市として、グローバル化への対応、交流人口の拡大、適切な土地利用の誘導、道路交通・情報ネットワークの強化、豊かな自然環境や歴史遺産、伝統芸能・生活文化並びに景観や緑の保全と活用など、整備効果を最大限に活かした活力あるまちづくりを推進するものとする。

キ 災害に強いまちづくり

本区域においては、地形構造や地質的に自然災害の危険性が指摘されていることから、東日本大震災等の大規模災害を教訓に、地震、火災、水害、土砂災害等に対する防災・減災対策を強化し、災害に強いまちづくりを推進するものとする。

ク 低炭素型社会の実現に向けたまちづくり

本区域においては、「都市の低炭素化の促進に関する法律」や「長野県環境エネルギー戦略～第三次長野県地球温暖化防止県民計画～」等を踏まえ、集約型都市構造への転換、車依存型社会からの脱却、太陽光発電等の自然エネルギーの活用等によるCO2排出量の削減を図るなど、低炭素型社会の構築に向けた都市づくりをめざす。

特に、飯田市は、国の環境モデル都市に選定されていることから、引き続き「飯田市環境モデル都市行動計画」に基づき、市街地の低炭素化の推進をめざすものとする。

(4) 地域毎の市街地像

ア 地域毎の市街地像

(7) 中心市街地地域（橋北・橋南・東野）

いわゆる「丘の上」に広がる中心市街地は、飯伊圏域全体を対象とする公共・公益的施設や地域の風土に育まれた特色ある商業・業務の集積地である。今後ともストックを生かして賑わいと活力のある安全で快適な地域とするために、商業・業務・文化・医療・福祉・生活支援等の都市的機能の向上を図るとともに、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、公共交通の充実、歴史的なまち並みの保全、水や段丘崖を積極的に活用してうるおいと緑の保全に努める。更に、高齢化社会に対応し、ユニバーサルデザインによる利便性が高くしかも親しみやすい生活空間を確保することによって老若混住した居住を促進し、飯伊圏域の中心市街地にふさわしい賑わいと活力ある都市環境の創出を図る。

(イ) 北部地域（丸山・羽場）

中心市街地の北、風越山の山麓に位置する丸山・羽場地区は、元々はのどかな田園地域であったが、中心市街地の外縁部にあって早くから宅地化が進んだ地域である。

昭和 40 年代以降継続して土地区画整理事業が施行され、整然とした住宅地が整備されてきていることから、既存農業に配慮しつつも、引き続いて住宅地としての活用を図る。また、風越山から続く里山や樹林地が断続的に展開しており、生態系の保持やうるおいのある居住環境整備の観点から、これら緑の保全に努める。

(ウ) 東部地域（上郷・座光寺）

上郷地区と座光寺地区からなる東部地域は、一般国道 153 号や広域農道整備に伴い、無秩序な宅地化の進行が懸念されている地域で、都市的土地利用と農地利用の相互の環境が適切に確保されるべき地域である。

一般国道 153 号の沿道地域を沿道型土地利用エリアとして位置づけ、交通利便性を活用した現状の都市的土地利用を継続し、リニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺においては、周辺環境との調和を図りつつ、適切な土地利用を検討する。

(エ) 中部地域（鼎・伊賀良・松尾）

鼎地区は、松川の河岸段丘による変化に富んだ地形のなかにあり、東西方向の既存市街地に加え、近年一般国道 153 号バイパスとこれに連絡する南北方向の都市的土地利用展開が強く見られる地域である。流水の活用や河岸段丘・風越山の景観を活用し、変化と多様な集積のある地域として、住商工の混合する活気のあるまちづくりを図る。

伊賀良地区は、中央自動車道飯田インターチェンジに接続する一般国道 153 号飯田バイパス整備に伴って沿道の都市的土地利用が進行したほか、土地区画整理事業によって新たな住宅市街地が形成されつつある。これらの地域については、引き続いて都市的土地利用の集積を図る。

また、地区全域に広がる農業地帯の中で、中心市街地に近いところ程散発的・小規模な宅地開発が進行し、土地利用のまとまりに欠けるという課題を有するが、適切な規制・誘導により目的のはっきりしたまとまりのある地区整備を進めながら、地区全体として農業との共存を図る。

松尾地区は、一般国道 151 号沿線を中心にした商業、天竜川沿岸地域に物流・精密機械器具製造・漬物などの地場産業を中心とした工業、また、市内でも比較的温暖な気候による宅地化など、様々な機能が混在すると共に、市内で唯一の大学が立地する地域である。今後とも、これらの多様性を活かした複合的な土地利用を図る地域として整備していく。

(オ) 南部地域（川路・竜丘・山本）

川路地区は、里山と住居とが均衡した地域であり、今後ともこの地域景観が保持されるよう、土地利用に留意する。

天竜川治水対策事業によって生み出された川路・竜丘地区にまたがる天竜峡エコ

バレー地域は、両地区の伝統的な地域景観とは異なり、今後新しい視点で土地利用・地域づくりが期待される地域である。名勝天龍峡と周辺の観光資源を活かし、時代の要請でもある環境と人の営みとの調和に留意しながら、住・商・工・農の様々な機能が連関して展開するモデル的な地域づくりを推進する。

竜丘地区は、元々は養蚕などを中心とした農業地帯であったが、都市の郊外化に伴って宅地開発が進み、農・住の混在化が進んでいる他、地区内では、時又地籍から桐林地籍に商業の中心が移り、一般国道 151 号沿線の一部には商業集積が進んでいる。

今後とも、これら沿道型の商業集積が過大にならないように留意しながら、全体として農・住が均衡した低層住居系の地域景観を保持する。

山本地区は、自然的又は農業的土地利用を中心に景観にも優れた田園や里山地域を有している地区であるが、三遠南信自動車道が整備され、飯田山本インターチェンジ開設に伴うアクセス道路が整備されたことから、今後、土地利用・需要が多様化することが予想される。このため、計画的な土地利用の推進を図り、現存する良好な居住環境や自然景観の保全、農業との調和を図りながら、農・住が均衡した地域景観を保持する。

イ 将来都市構造

飯伊圏域の都市構造を踏まえ、本区域の将来都市構造を次のように位置づけ、飯田中心市街地を核に、多様な拠点が役割に応じて機能分担がなされ、相互に有機的に連携する「拠点ネットワーク型都市構造」の構築をめざす。

(7) 拠点

a 都市拠点

J R 飯田駅周辺の中心市街地を都市拠点として位置づけ、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住の促進、交通アクセスや交通環境の向上、都市機能の強化と都市空間の魅力づくり等を図る。

b 近隣都市拠点

天竜峡エコバレー地域は、近隣都市拠点として位置づけ、名勝天龍峡をはじめ豊かな地域資源を活かして観光、環境、産業、生活などの機能の強化と魅力づくりを図る。

c 広域交通・地域振興拠点

リニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺については、広域交通・地域振興拠点として位置づけ、各拠点の機能が相互に高まるよう連携を図る。

(イ) 主要な連携軸

a 広域連携軸

広域的な都市間の交流・連携を担う軸で、中央自動車道、三遠南信自動車道、一般国道 151 号、153 号を位置づける。

b 地域連携軸

地域間の交流・連携を担う軸で、国道 256 号を位置づける。

c 骨格的連携軸

都市地域における骨格的な交流・連携を担う軸で、広域交通・地域振興拠点と中心市街地等を結ぶ骨格道路などを位置づける。

(ウ) 土地利用ゾーン

主要な土地利用ゾーンとして以下のように区分し、計画的な土地利用の推進を図る。

- a 商業系（中心市街地、幹線道路沿道、J R 飯田線主要駅周辺の近隣商業地など）
- b 工業系（松尾・鼎・川路・竜丘地区等の工業集積地など）
- c 住宅系他（既成市街地やその周辺の住宅地、農業集落地など）
- d 農地系（市街地周辺に広がる農業地域）
- e レクリエーション系（大規模公園など）
- f 緑地系（本区域の北部から西部及び段丘崖線に広がる森林地域）

4. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針

(1) 区域区分の決定の有無

本都市計画に区域区分を定めない。

なお、区域区分を定めないとした根拠は、次のとおりである。

ア 県による同一基準での判断結果

県では、人口の動向、土地利用の状況等に着目し、県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性をやや高いと判断した。その概要は以下のとおりである。

- ・人口の推移は、市街地内では減少傾向、市街地外では増加傾向と逆転現象が生じており、さらに、市街地外での農地転用率は県平均値よりも高いことから、市街地外への宅地化の拡散抑制の必要性は高い。
- ・行政区域人口は10万人以上で都市の集積性は高いが、人口の伸び率は全体として減少傾向にあり、第2次・3次産業の従業者数の伸び率も県平均値を下回っていることから、市街地拡大の可能性は低い。
- ・市街地内の道路面積は、住宅地として望ましい標準的な目安を上回っているが、市街地内の都市的土地利用率は県平均より低いいため、計画的な市街地整備の必要性は高い。

イ 地域特性を考慮した区域区分の検討

本区域の市街地外においては、「農業振興地域の整備に関する法律」に定められた農用地区域、「森林法」に定められた地域森林計画対象森林、保安林などの他法令によって指定されているとともに、飯田市が制定している「飯田市環境保全条例」や「飯田市土地利用調整条例」等によって、一定の環境の保全等が図られている。また、都市計画制度による土地利用の規制・誘導を進め、用途地域を市街地整備の中心として位置付け、周囲の田園との土地利用の区分を明確にし、計画的な土地利用を推進してきた。

今後もこのような方策を継続し、自然と調和した都市づくりを進める方針であるため、急激かつ無秩序な市街化は進行しないものと考えられる。

一方、区域区分の導入については、その必要性や効果、規制内容などについて十分な説明と議論、さらに、地域住民の合意形成が不可欠である。

ウ 区域区分以外の各種都市計画手法の適用を前提として「区域区分」は行わない

本区域は、アでは区域区分の必要性をやや高いと判断されたが、イに示す地域特性や人口動向を踏まえると、今後、急激な市街化は考えにくい。

このため、当面は区域区分以外の都市計画手法による土地利用の規制・誘導を進め、必要な都市基盤の整備・充実を図るとともに、優良農地や農村環境の保全など周辺環境と調和した計画的な土地利用を図ることが適切である。

ただし、区域区分は開発許可制度と連動して、良好な居住環境や農村環境を形成するために効果的かつ体系化された法制度であることから、その活用に向けて継続的な検討及び地域への働きかけを行うものとする。

このような本区域の状況と考え方を踏まえて、以下のような方針とする。

本区域は、今後、他の法令との適切な連携のもとで、区域区分以外の各種都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現を前提として、当面、区域区分を定めない。

なお、市街地が行政区域を越えて連たんしている区域では、実質的な一体の都市としての都市計画区域の再編を検討し、一体の都市としての区域区分の有無について検討する必要がある。

(参考)

「区域区分」とは

「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」といわれている。

「区域区分」を「する」か「しない」かは、県が判断

平成12年5月の改正以前の都市計画法では、「区域区分」を「する」か「しない」かは国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。しかし、高度成長期の「都市化社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成12年5月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。

(2) 区域区分の方針

前項の記述のとおり、本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくり実現に向け、今後の人口について以下のとおり参考表記する。

ア おおむねの人口

本区域の将来におけるおおむねの人口を、次のとおり想定する。

表－1 おおむねの将来人口

年次 区分	平成17年 (基準年)	平成27年 (中間年)	平成32年 (目標年)
都市計画区域内人口	88.8千人	おおむね90.5千人	おおむね89.0千人

(注) 平成17年基準年人口は、「国勢調査」及び「都市計画基礎調査」による統計値。(山本地区(平成20年都市計画区域指定)を含まない。)

平成27年及び平成32年欄の都市計画区域内人口は、国立社会保障・人口問題研究所によるコーホート要因法により算出した行政区域人口から、回帰式による都市計画区域外人口を減じて算定。(山本地区を含む。)

5. 主要な都市計画の決定の方針

(1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針

ア 主要用途の配置の方針

(7) 商業地

a 中心市街地（通称「丘の上」）

車社会の進展や少子高齢化、或いは環境共生といった時代のニーズを満たし、将来にわたって飯伊圏域の中核業務機能や地域都市文化等の発信地としての役割を担うため、中核的商業機能をＪＲ飯田駅から中央通り、銀座等の商店街や本町の再開発地域を中心とした地域に集約・再編し、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進等を図る。

そして、その周辺に近隣住民の日常生活のための各種地域密着型サービスの提供を担う地域を整備するとともに、住環境の整備と少子高齢化社会に対応した生活支援機能を強化し、地方都市における新たな中心市街地としての集積を高めるものとする。

b 幹線道路沿道

一般国道 153 号飯田バイパス及び座光寺・上郷地区の一般国道 153 号沿道等については、自動車利用特化型のショッピングセンターや大型専門店群の集積地であり、中心市街地の商業機能を補完する広域型ないし準広域型の商業機能を担うものとして、現状の交通利便性を活用した都市的土地利用を継続するものとする。

また、竜丘地区の一般国道 151 号沿道にも準広域型の商業機能が集積しているが、これら地域については、周辺の住環境等との調和を図ることに留意する。

中央自動車道及び三遠南信自動車道インターチェンジへのアクセス道路や新たな幹線道路沿道地域については、周辺の自然環境や住環境、更には農業などとの調和を図る中で、新たな都市の郊外化に繋がることのないよう、特定用途制限地域の指定や土地利用条例等により抑制的・計画的な集積を図る。

c 近隣型商業地

ＪＲ伊那八幡駅周辺などでは、主として近隣レベルの住民の日常生活のニーズに応える最寄品を中心とした商店街を形成しており、今後とも、生活関連としての商業機能の維持増進を図る。

(イ) 工業地

既存工業集積地は、道路や企業用地内の緑化などによる環境対策をさらに進めつつ、交通拠点施設との連絡性強化など生産活動基盤の拡充を図る。

川路・竜丘地区では、天竜峡エコバレープロジェクトをはじめとして、三遠南信南信自動車道天龍峡インターチェンジからのアクセスの利便性を活かした環境関連

産業の集積を図る。

(ウ) 住宅地

a 橋北・橋南・東野・丸山・羽場地域

橋北・橋南・東野の中核的業務・商業地を除く地域は、環境への配慮や、ユニバーサルデザインによる都市型居住地域として再編する。また、中心市街地の高度利用や居住促進を図るため、計画的な再開発の促進を図る。

宮ノ上地区については、利便性の高い住宅地の形成を図る。

丸山・羽場地区の中央自動車道以西で既に宅地化が進んでいる地区等は、周囲に展開する近郊型農業との調和を図る中で、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。

羽場大瀬木線沿道部については、区画整理事業によって創出された良好な居住環境の保持に十分留意しながら沿道型住宅地の形成を図る。

丸山・羽場地区の市街地に隣接する地区は、地域住民と行政が「まちづくり」という共通の視点・目標にたって十分な議論を行い、地域のニーズに応じた協働のまちづくりを進めるものとする。

b 上郷・座光寺地域

上郷桜畑地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。

J R伊那上郷駅付近については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。

リニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺においては、周辺環境との調和を図りつつ、適切な土地利用を検討する。

c 鼎・伊賀良・松尾地域

矢高中央公園周辺の地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。

西の原地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。

大森、野池地区等については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。

松尾常盤台地区については、利便性の高い中低層住宅地の形成を図る。

松尾水城地区等については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。

d 川路・竜丘・山本地区

川路地区は、里山と住居とが均衡した地域であり、今後ともこの地域景観が保持されるよう、土地利用に留意する。

天竜川治水対策事業によって生み出された川路・竜丘地区にまたがる天竜峡エコバレー地域は、三遠南信自動車道天龍峡インターチェンジからのアクセス利便性の向上、名勝天龍峡と周辺の観光資源を活かし、緑豊かな自然環境と調和した土地利用の形成を図る。

竜丘地区は、都市化が進展しており、全体として都市と田園が調和した低層住居系の土地利用の形成を図る。

山本地区は、三遠南信自動車道飯田山本インターチェンジからのアクセス利便性を活かしつつ、良好な自然環境や田園環境と調和した計画的な土地利用の推進を図る。

イ 土地利用の方針

(7) 土地の高度利用に関する方針

「丘の上」と呼ばれる飯田市の中心市街地は、安土桃山時代の町割り以来の古い歴史を持ち、多くの商業、業務施設及び官公庁施設が集積している。近年、人口の空洞化や高齢化、郊外部での新たな商業集積が進む中で、都市活動の比重が低下しつつあるが、今なお飯伊圏域の都市拠点として市民生活を支える多様な都市サービスの提供を担っている。

引き続き飯伊圏域における都市拠点としての拠点性を維持・強化するため、土地の高度利用を図るとともに、「飯田市中心市街地活性化基本計画」に基づき、商業機能や消費サービス機能を強化していく。

その際、新しい文化の創出につながるような多様な交流を実現する施策の支援・促進に努め、都市基盤整備においてもりんご並木をはじめ特徴ある街並みと流水を活用するなどしてうるおいのある魅力的な空間を整備し、来街者の滞留とリピートを促して、賑わいと活力のあるまちづくりに努める。

また、中心市街地の衰退の原因のひとつは人口の空洞化にあることから、再開発等による都市型住宅の供給や、生活支援サービスの充実など、中心市街地での定住人口の維持及び居住の促進に努める。また高齢化社会に対応して公共空間のユニバーサルデザインに努めるとともに、安全・快適な歩行環境の整備、中心市街地へ至る公共交通体系の整備によりアクセス条件の改善にも努める。

(イ) 居住環境の改善又は維持に関する方針

老朽建物の密集する地区や生活道路などの公共施設が未整備な地区については、居住環境の向上や防災上の観点から、地域特性に応じた適切な手法により環境改善を図る。

面整備が完了した地区においては、良好な住環境の維持と良好なまちなみの形成を図る。

(ウ) 優良な農地との健全な調和に関する方針

市街地周辺から周囲の山麓部に展開する農地は、食料生産の場であると同時に、洪水防止機能、水資源涵養機能の他にも多様な動植物の生息地としても機能している。また、そこに展開する谷地水田、棚田は農民が先祖から延々と受け継いできたものであり、点在する集落をも含め美しい景観を形成するとともに、地域文化の集積として貴重な財産の一つである。

これら農地の多面的な機能を将来的にも継承し続けるため、「飯田市農業振興地域整備計画」に基づき、優良農地として保全を図る。

なお、遊休農地等の有効利活用や農業に関わる観光・レクリエーション機能の導入などについては、周辺環境への影響に十分留意しながらより計画的に対応する。

(エ) 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針

急傾斜地の崩壊、土石流、地すべりの土砂災害のおそれのある地域において、住民の生命及び身体を保護するため、建築物の立地抑制等を図る区域を「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定することにより、適切な土地利用を図る。

また、砂防法、地すべり等防止法、急傾斜地崩壊防止法により、指定された区域内及び保安林においては、土地の形質変更等、土砂災害を誘発する行為を制限する。

(オ) 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針

本区域は水と緑に恵まれた雄大な自然環境を有しており、特に自然公園に指定されている天竜川と松川の河岸段丘によって形成された独特の地形により、市全体が立体的で特徴ある景観をつくっている。

河岸段丘の傾斜地に存する斜面樹林や、多様な価値を有する里山については、良好な都市環境を維持する上でも重要な要素であることから、「生物多様性なごの県戦略」に基づき、生物多様性に配慮しながら、自然資源の保全を図る。

河川については、治水機能にも十分留意しながら水資源の確保と親水性の向上に努める。

(カ) 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針

一般国道 153 号飯田バイパスや広域農道などの幹線道路沿道を中心に都市化が進み、農地の宅地化が進んでいるが、都市的土地利用と農業地域との棲み分けによる共存のために農地の集約化や宅地化の抑制などの適切な対応が求められることから、幹線道路沿道については、計画的な土地利用の誘導を図る。

なお、土地利用制限を特に必要とする幹線道路沿道については、関係機関と調整を図りながら、必要に応じて用途地域の拡大、特定用途制限地域などの手法により、適切な土地利用の誘導を図る。

リニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺については、周辺環境との調和を図りつつ、適切な土地利用を検討する。

また、用途地域の指定のない地域についても、幹線道路沿道と同じように、用途地域の拡大や特定用途制限地域などの手法により適切な土地利用の誘導を図る。

（２）都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

ア 交通施設の都市計画の決定の方針

（７）基本方針

ａ 交通体系の整備の方針

本区域は、広域連携軸として位置づけられる中央自動車道及び現在整備が進められている三遠南信自動車道が分岐する交通要衝地であり、飯伊圏域の中心都市としての役割を担っている。

本区域内に設置が予定されているリニア中央新幹線長野県駅（仮称）と中心市街地等との交通体系を検討し、飯伊圏域の住民生活や産業活動を支えるうえで必要な各地域拠点との交流・連携を促進するとともに、飯田市街地における交通集中を解消し、スムーズな交通流動の確保と中心市街地の活性化に寄与するための総合的な交通ネットワークを構築する必要がある。

そのため、広域道路ネットワークの一環をなす一般国道 151 号及び 153 号、一般国道 153 号飯田バイパス、都市計画道路羽場大瀬木線などで構成される都市環状道路や高規格幹線道路インターチェンジへのアクセス道路を骨格的交通軸と位置づけ、計画的・重点的に整備を図る。

また、都市計画決定されてから長期間未着手となっている路線もあり、都市計画道路整備プログラムなどにより、都市計画道路網の見直しを図り、骨格的交通軸を補完し、地域の経済活動や生活を支える道路を投資効果に照らして緊急性の高い路線から計画的に整備を図る。

さらに、ＪＲ飯田線やバス交通など、通学や高齢者など車を持たない人の移動に不可欠な公共交通の利用促進と存続・拡充を図り、環境にやさしく移動利便性に優れた交通体系の整備を図る。

以上を踏まえ、本区域の交通体系の整備の方針は次のとおりとする。

- 骨格的交通軸を優先的・重点的に整備する。
- 市民の交通移動性の向上と防災機能の強化を図るため、地域道路網の整備改良を計画的に推進する。
- 地域の地形や環境に調和した、歩行者や運転者に安全で快適な、親しみとるお

いのある美しい道路づくりを推進する。

- 住民誰もが便利に使える公共交通条件の整備、確保に努めるとともに、公共交通の利用促進による環境負荷の小さい低炭素型都市づくりを促進する。
- 新たな魅力づくりを支える交通基盤整備の推進に努める。
- 長期間未着手となっている都市計画道路の見直しを図る。

b 整備水準の目標

(a) 道路

都市計画道路については、44 路線、約 80km が都市計画決定されており、平成 25 年 3 月末現在、整備率は総延長の約 56%となっている。

今後とも、計画的な道路の配置と整備の推進を図る。

(イ) 主要な施設の配置の方針

a 道路

(a) 主要幹線道路：広域的な都市間の交通流動を担う

- 中央自動車道
- 三遠南信自動車道
- 都市計画道路 3・3・4 号 羽場大瀬木線（主要地方道飯島飯田線）
- 都市計画道路 3・3・5 号 大門今宮線
- 都市計画道路 3・4・6 号 北方飯沼線（一般国道 153 号バイパス）
- 都市計画道路 3・4・7 号 中央通り線（一般国道 151 号等）
- 都市計画道路 3・3・39 号 大門座光寺線（主要地方道飯島飯田線等）
- 都市計画道路 3・3・40 号 桐林大明神原線
- リニア中央新幹線長野県駅（仮称）のアクセス道路

(b) 幹線道路：主要幹線を補完し、本区域の都市構造の骨格形成を担う

- 都市計画道路 3・4・16 号 下山妙琴原線（一般県道青木東県線）
- 都市計画道路 3・4・12 号 日之出町江戸町線
- 都市計画道路 3・4・19 号 時又中村線（一般県道時又中村線）
- 都市計画道路 3・5・22 号 小沼飯田線（一般県道市場桜町線）
- 都市計画道路 3・6・25 号 知久町中村線（一般国道 256 号等）
- リニア中央新幹線長野県駅（仮称）のアクセス道路

b 駐車場

各拠点において、今後の需要を見定めながら駐車場の整備を推進する。

(ウ) 主要な施設の整備目標

おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。

表－２ おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設

都市施設	名 称 等
道 路	●三遠南信自動車道 ●都市計画道路 3・3・4 号羽場大瀬木線（主要地方道飯島飯田線） ●都市計画道路 3・4・7 号中央通り線（一般国道 151 号） ●都市計画道路 3・4・16 号下山妙琴原線（一般県道青木東鼎線） ●都市計画道路 3・4・23 号飯田中津川線（主要地方道飯田南木曾線） ●リニア中央新幹線長野県駅（仮称）のアクセス道路

イ 下水道及び河川の都市計画の決定の方針

(7) 基本方針

a 下水道及び河川の整備の方針

これからの市街化の動向等を見据えつつ、河川等の水質保全とともに生活環境の改善を図り、健全な都市環境の形成を図る。

また、降水時の雨水等の流出を抑制し、災害の発生を未然に防止すべく、森林や農地の保全を含む総合的な流出抑制策を講ずる。

(a) 下水道

公共下水道普及率は、平成 25 年 3 月末現在 82.1%となっている。

今後も、既存施設の適正な維持管理と必要に応じた修繕や改築に努める。

(b) 河川

本区域には一級河川天竜川をはじめ、南大島川、土曾川、野底川、松川、毛賀沢川、新川、茂都計川、久米川、円悟沢川や、これらの支川がある。このため、流域内の土地利用の動向、地域社会と河川との関わり、市街地での水害に対する安全確保の状況等を踏まえた治水対策を進める。

河川の改修や施設整備にあたっては、安全確保に必要な機能を確保するとともに、区域内の利水状況、自然の河川の持つ環境保全、レクリエーション利用等の多面的な機能を活かした水辺環境の形成に留意する。

b 整備水準の目標

(a) 下水道

(汚水)

平成 25 年度末には集合処理区内の整備が概ね完了し、今後は計画的維持管理と健全経営に努める。

(雨水)

既存施設を最大限に活用するなかで、安全な都市づくりのため総合的な観点に立ち雨水排水路の整備と宅地内からの雨水排出の抑制を図る。

(b) 河川

天竜川等の一級河川の治水機能の向上を目指すとともに、その他の河川を含め、親水性の向上と周辺環境に調和した「多自然川づくり」による河川整備に努める。

(イ) 主要な施設の配置の方針

a 下水道

既存施設の適正な維持管理と必要に応じた修繕や改築に努める。

b 河川

一級河川については、河川の適正な維持管理、災害時の迅速な対応及び水防活動等への協力などに努め、民生の安定を図る。特に円悟沢川については、住民の合意形成の図られた計画での河川整備に努め、民生の安定を図る。また、松川については、既設ダムの再開発により、洪水調節と安定した水の供給を確保し、民生の安定を図る。

(ウ) 主要な施設の整備目標

おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。

表－3 おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設

種別	名称等
河 川	天竜川 円悟沢川 松川

ウ その他の都市施設の都市計画決定の方針

(7) 基本方針

高齢化社会の進展や多様化する生活様式に対応し、健康で文化的な都市生活や機能的な都市活動の確保を目標として、その他の都市施設の整備を行う。

(イ) 主要な施設の配置の方針

a ごみ焼却場

ごみ焼却場としては、南信州広域連合で運営している桐林クリーンセンターがあるが、地球温暖化対策などの時代的要請に基づき、南信州広域連合による一般廃棄物の広域処理を担う新たなごみ焼却施設の整備を図る。

b 火葬場

火葬場として飯田市斎苑を位置づけ、機能の維持及び向上を図る。

(ウ) 主要な施設の整備目標

おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。

表－4 おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設

種別	名称
ごみ焼却場	南信州広域連合による新たなごみ焼却施設

(3) 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針

ア 主要な市街地開発事業の決定の方針

(7) 土地区画整理事業

本区域で計画決定されている土地区画整理事業地区は全て完了しているが、今後も良好な市街地の形成を図るため、公共施設の整備改善など、計画的な市街地整備の促進を図る。

(イ) 市街地再開発事業

橋南地区第二地区の再開発事業は、平成 18 年 6 月に事業が完了したが、中心市街地の高度利用や居住促進を図るため、計画的な再開発の促進を図る。

(4) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針

ア 基本方針

(7) 自然的環境の特徴と現況、整備又は保全の必要性

本区域は、中央アルプス県立公園に属する風越山を背後に控え、天竜小渋水系県立公園及び天竜奥三河国定公園に属する天竜川を見下ろす水と緑に恵まれた雄大な自然環境を有している。

また、天竜川と松川の河岸段丘によって形成された独特の地形により、市全体が立体的で特徴ある景観をつくっており、さらに南アルプスの優れた眺望にも恵まれている。

河岸段丘の傾斜地などにはアカマツ林や斜面樹林が多く存在し、自然環境の重要な要素となっている。さらに山麓一体には多様な価値を有する里山が連なっている。

これらの自然環境資源については、環境保全機能をはじめ、生物多様性の保全・生態系保持機能、レクリエーション機能、防災機能、景観形成機能など様々な役割を担っている。

このような自然環境資源の機能を踏まえ、恵まれた自然環境の保全とともに、都市内で必要とされる緑地の確保については、次のように進める。

(イ) 緑地の確保目標

- りんご並木や桜並木、通り町の並木、扇町公園などの中心市街地の緑や市街地周辺に分布する農地、社寺林や屋敷林、古木・大木などの身近な緑地資源の保全に努める。
- 都市にうるおいややすらぎをもたらす緑の骨格を成す森林地帯の保全・育成、公園緑地等の整備・保全を図る。
- 市街地背後に広がる風越山を中心とした森林地帯は、水源の保全、土砂流出防備、市民等のレクリエーション機能などを充足しつつ自然環境保全を図る。
- 天竜川や松川、野底川などの河川については、貴重な水資源として捉え、治水機能にも十分留意しながら親水性の向上に努める。
- 都市化の進展等に伴って生物の多様性の減少が危惧されているなか、「生物多様性ながの県戦略」に基づき、生物多様性の保全を図る。

(ウ) 緑地の確保目標水準

本区域で都市計画決定されている公園は 42 箇所（面積 193.2ha）であり、そのうち 38 箇所（面積 144.4ha）が開設済みで、整備率は 75%となっている。（平成 25 年 3 月末現在）

また、都市公園以外にも児童遊園や農村公園、その他の公園や広場等が設置されており、公園緑地の整備水準は高い。

今後は、人口動向などによる将来的な需要を見定め、「長野県都市公園条例」等を踏まえながら、適正な公園配置を検討する。

なお、平成 32 年における緑地確保目標を 15 m²/人とする。

イ 主要な緑地の配置の方針

(7) 環境保全系統

a 森林地帯

本区域の外縁及び伊賀良から竜丘にかけての森林地帯は、景観機能はもとより、動植物の生息・生育地として、また、都市的活動による環境への負荷を軽減する場、また、観光利用を含めた市民の憩いの場としての利用など、都市を構成する骨格的緑地としてその保全・復元に努める。

b 天竜川、松川他、河川沿い

天竜川などの主要な河川及びその周辺は、水資源としての役割や治水対策などに十分留意しながら緑とともに都市にうるおいを与える水と緑の環境軸として、緑の拠点等を効果的に連携するネットワークの形成に努める。

c 松尾から座光寺にかけての段丘

松尾から座光寺にかけて連なる段丘の緑は、地域景観を構成する重要な緑地資源であり、保全に努める。

(イ) レクリエーション系統

近隣住民の憩いとふれあいの場として、居住環境の向上も期待し得る都市公園等を将来的な需要を見定めながら、適切に配置する。

また、これら都市公園は、公共公益施設や観光・レクリエーション施設などを含め、各種拠点を有機的に連携するネットワークの形成に努める。

さらに、公園の長寿命化に努めるとともに、利用ニーズの変化に対応するため、ユニバーサルデザインの導入など、誰もが使いやすいものとするよう努める。

(ウ) 防災系統

a 市街地地域

市街地内については、大規模災害時における災害対策機能（一次避難地や広域避難場所等）にも十分留意しつつ、都市公園を計画的に配置する。

b 里山部

森林は、がけ崩れ等の土砂災害はもとより、降水時等における河川への負担を軽減する貯水機能など、防災上重要な役割を果たしているため、荒廃が進みつつある民有林を含め、森林の保全・再生・創出に努める。

c 工業地等

工業用地等については、騒音や振動などの周辺部に対する環境阻害の軽減等とはもとより、水害への予防対策（地下浸透による雨水流出の抑制）の観点から、周辺環境との調和にも留意した敷地内緑化の促進に努める。

(エ) 景観構成系統

a 山並み景観

雄大な景観を有する森林地帯は、本区域の骨格的な景観資源であることから、保全に努めるとともに、雄大な南アルプス等の優れた眺望を損なわないよう配慮する。

b 農村風景

自然条件とともに風格のある民家や手入れの行き届いた果樹園など、人々の暮らしと産業の営みが、特色のある美しい農村の風景を形作っている。体験農業やグリーンツーリズムなど観光・レクリエーション機能の導入などによる多機能化にも努めながら、住民による主体的かつ持続的な取り組みにより、景観保全に努める。

c 水辺の景観

地域の独自性を顕著に示す主要な河川については、自然共生型の改修事業などにより、親水性の確保と同時に、自然環境の景観の保全、周辺環境・景観との調和に努める。

d まちなみの景観

中心市街地のシンボルとなっているりんご並木や桜並木などについては、保全を図る。

また、道路や河川、公園、官公庁施設、文化施設、学校などの公共施設をはじめ、住宅地や集落地、工場等の緑化を促進し、緑豊かでうるおいあるまちなみ景観の創出を図る。

ウ 実現のための具体の都市計画制度の方針

(7) 公園緑地等の整備目標及び配置方針

憩いとやすらぎの場、スポーツ・交流の場として、都市生活に密着した根幹的施設であるとともに、災害時における避難地等として防災機能を発揮するなど、安全でゆとりある生活の実現のため今後の人口動向や市街化の状況を勘案し、公園緑地の整備に努める。

(イ) 緑地保全地域等の決定目標及び決定方針

森林などの主要な緑地については、緑地保全に関する適正な指定を行い、保全を図る。

(ウ) 主要な緑地の確保目標

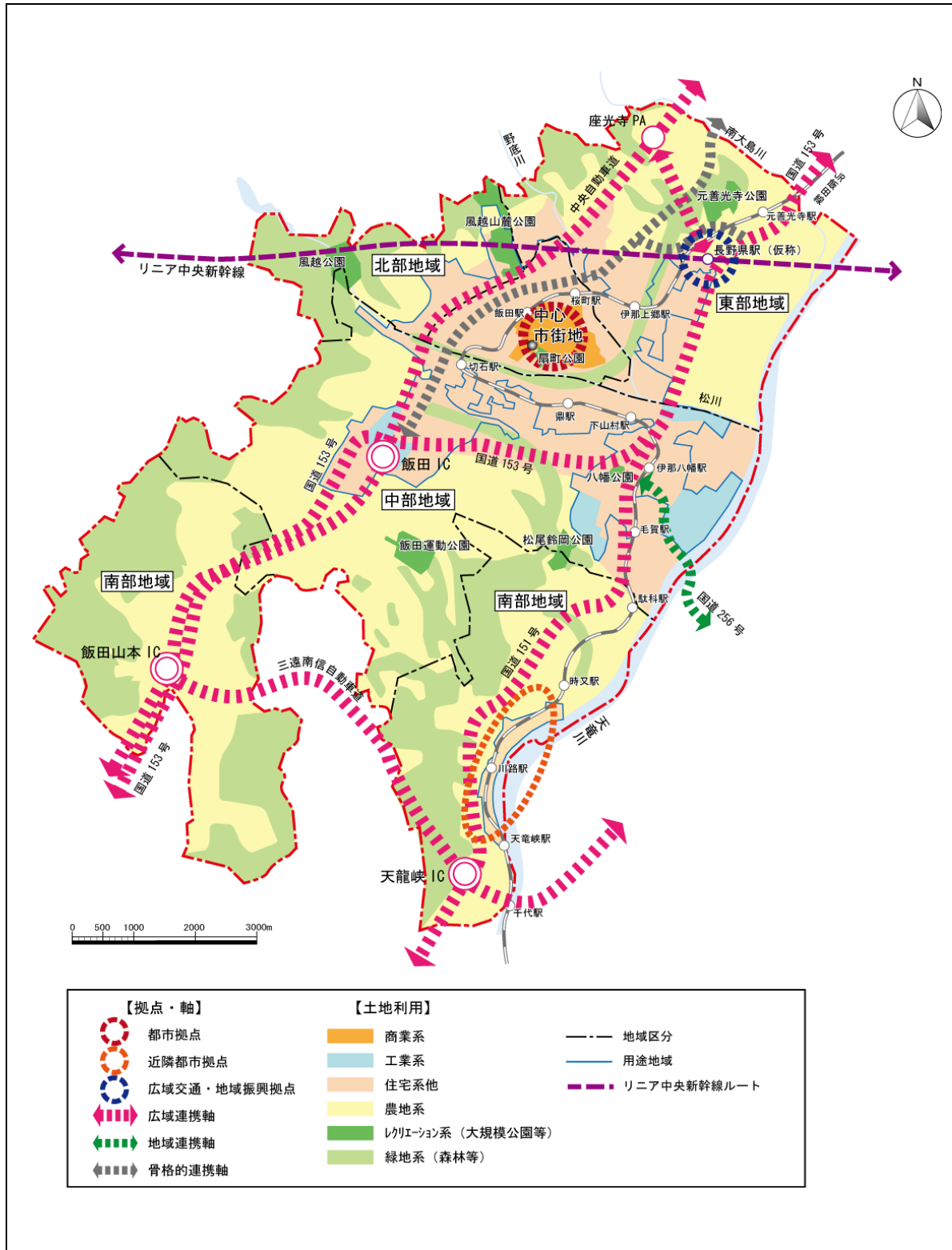
おおむね 10 年以内に整備予定の主要な公園等の公共空地は、次のとおりとする。

表－5 おおむね 10 年以内に整備予定の主要な公園等の公共空地

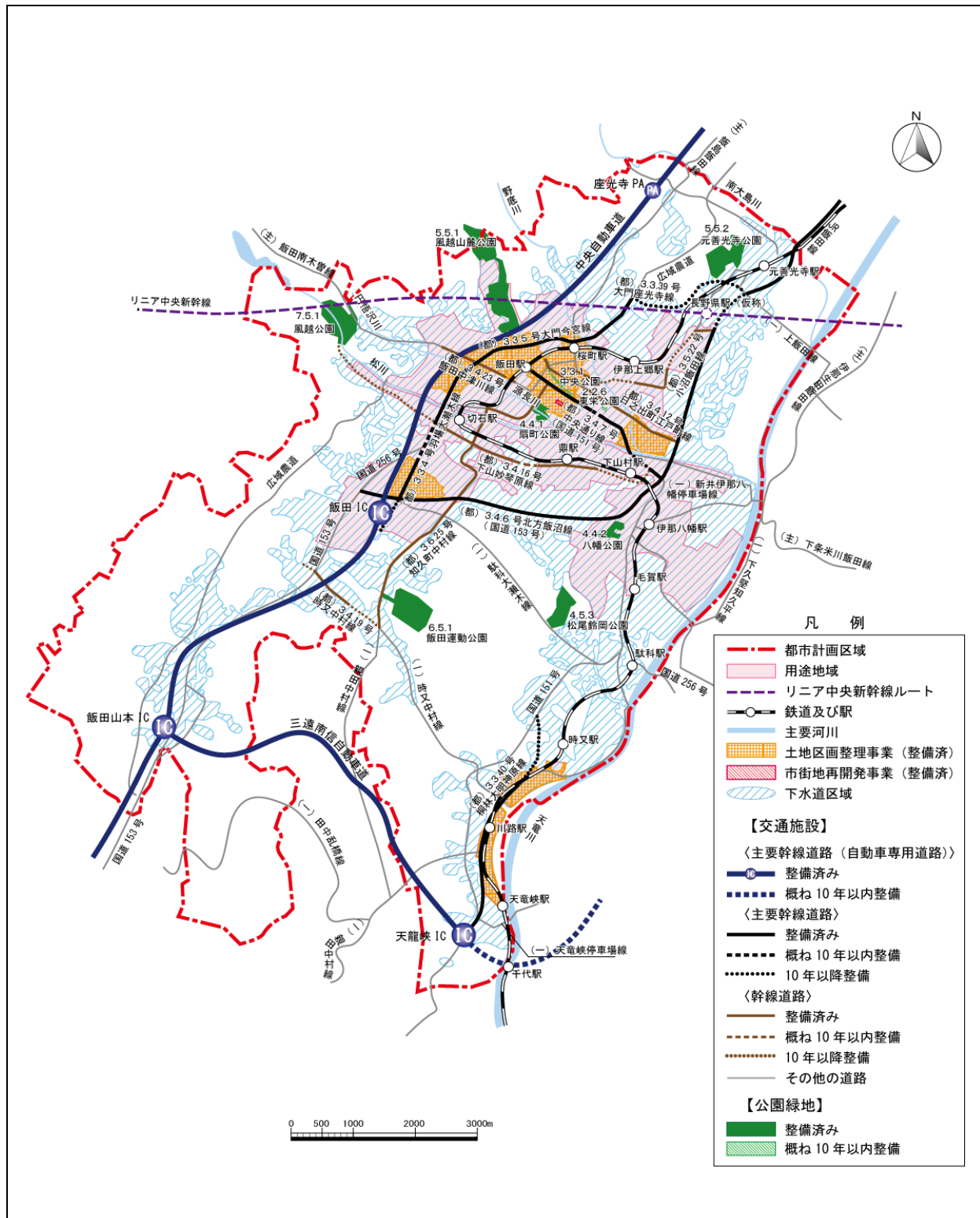
都市公園	名 称 等
街区公園	都市計画公園 2. 2. 6 東栄公園
近隣公園	都市計画公園 3. 3. 1 中央公園

6. 附図

【都市構造図（飯田都市計画）】



【都市施設等配置図（飯田都市計画）】



飯田都市計画（飯田市）

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（案）新旧対照表

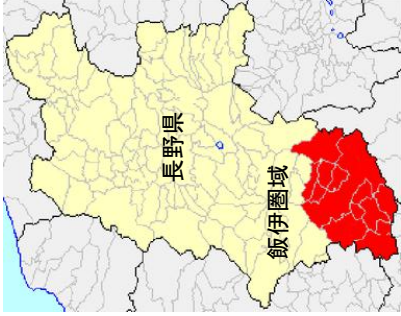
飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>変更の理由書</p> <p>三遠南信自動車道の飯田山本インターチェンジが設置される飯田市山本地区においては、交通の要衝となり都市的土地利用が進展することが見込まれる地域であり、地域が主体となった検討の結果、都市計画区域に編入することにより、秩序ある都市的土地利用を図ることとした。</p> <p>今回、この区域の拡大指定に併せ、平成 16 年 5 月 13 日に都市計画決定された本計画を、すでに公表されている「長野県都市計画ビジョン」「圏域マスタープラン」の示す方向性を踏まえつつ、山本地区など編入区域を含めた都市計画区域の現状や課題を捉え直し、県が、広域的・長期的視点から都市計画の目標とその実現に向けた都市計画の基本的な方針を変更するものです。</p>	<p>変更理由書</p> <p>「飯田都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」は、平成 20 年 8 月に都市計画区域の拡大にあわせて一部改訂を行っているが、平成 16 年 5 月の策定以降、約 10 年が経過しており、今日、人口減少社会や少子高齢化社会の進行、中心市街地の空洞化、地球温暖化問題や東日本大震災を契機とした防災への関心の高まり、グローバル化の進展等、飯田都市計画区域（以下、本区域という。）をとりまく社会経済情勢も大きく変化している。</p> <p>また、本区域では、三遠南信自動車道が概ね整備されているほか、平成 25 年 9 月にリニア中央新幹線長野県駅（仮称）の位置が公表され、高速交通体系の整備により、飯伊圏域の中心都市として新たな都市の発展が期待されている。</p> <p>こうした背景を踏まえ、地形的条件、生活・文化圏、市街地の連たん等、一体的な都市圏として飯伊圏域全体の将来を見据えた広域的な観点からの見直しが必要となっている。</p> <p>こうしたことから、平成 15 年に策定した「飯伊圏域都市計画マスタープラン」及び平成 23 年度に実施した「都市計画に関する基礎調査」の結果等を踏まえ、飯伊圏域全体に共通する課題等を明らかにしたうえで、当該都市の発展の動向、当該都市計画区域における人口、産業の現状及び将来の見通し等を勘案し、主要な土地利用、都市施設等についておおむねの配置、規模等を示し、一体の都市として整備、開発及び保全を図るため、次のとおり変更するものである。</p> <p>なお、リニアを見据えた地域づくりの指針「長野県リニア活用基本構想」（平成 26 年 3 月）における「伊那谷交流圏構想」や「リニア 3 駅活用交流圏構想」などの実現に向け、現在、関係機関において検討が進められていることから、リニア中央新幹線新設に伴う土地利用の方針や都市施設の整備に関する都市計画の決定の方針などは、今後、計画が具体化した時点で再度マスタープランの見直しを行う予定である。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
目 次	目 次
<p>1. 都市計画の目標…………… 22</p> <p>1.1 都市計画区域の範囲と目標年次…………… 22</p> <p>1.2 都市づくりの基本理念…………… 23</p> <p>1.3 地域毎の市街地像…………… 25</p> <p>2. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針…………… 29</p> <p>2.1 区域区分の決定の有無…………… 29</p> <p>2.2 区域区分の方針…………… 31</p> <p>3. 主要な都市計画の決定の方針…………… 33</p> <p>3.1 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針…………… 33</p> <p>3.2 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針…………… 38</p> <p>3.3 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針…………… 44</p> <p>3.4 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針…………… 45</p> <p>4. 附图…………… 50</p>	<p>1. 飯伊圏域の現状と課題…………… 1</p> <p>(1) 圏域の現状…………… 1</p> <p>(2) 圏域の主要課題…………… 10</p> <p>2. 飯伊圏域の都市計画の目標…………… 14</p> <p>(1) 圏域の基本理念…………… 14</p> <p>(2) 圏域の将来都市構造…………… 16</p> <p>3. 都市計画の目標…………… 22</p> <p>(1) 飯田都市計画区域の現状と課題…………… 22</p> <p>(2) 飯田都市計画区域の範囲と目標年次…………… 22</p> <p>(3) 都市づくりの基本理念…………… 23</p> <p>(4) 地域毎の市街地像…………… 25</p> <p>4. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針…………… 29</p> <p>(1) 区域区分の決定の有無…………… 29</p> <p>(2) 区域区分の方針…………… 31</p> <p>5. 主要な都市計画の決定の方針…………… 33</p> <p>(1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針…………… 33</p> <p>(2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針…………… 38</p> <p>(3) 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針…………… 44</p> <p>(4) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針…………… 45</p> <p>6. 附图…………… 50</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更</p> <p>都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように変更する。</p>	<p>飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更</p> <p>都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように変更する。</p> <p><u>1. 飯伊圏域の現状と課題</u></p> <p><u>(1) 圏域の現状</u></p> <p>飯伊圏域は長野県の南に位置し、静岡県、愛知県、岐阜県と接しており、飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村の 14 市町村で構成されている。</p> <p>東を南アルプス（赤石山脈）、西を中央アルプスに挟まれ、ほぼ中央を南北に天竜川が流れ、大きく飯田盆地、南部高原、赤石溪谷の 3 つの地形で構成されている。</p> <p>市街地や集落地は、天竜川沿いの平坦地に形成されており、飯伊圏域の北部には 3 つの都市計画区域（飯田都市計画区域、松川都市計画区域、高森都市計画区域）が指定され、一体的な都市圏を形成している。</p> <div data-bbox="448 248 480 461"> <p>■ 飯伊圏域の位置</p> </div> 

Map of the Rinnia Central New Trunk Line route. The map shows the route (solid red line) connecting various towns and villages. Key locations include Rinnia City (飯田市), Arai (阿智村), and others. The map also shows major roads (national roads, prefectural roads) and geographical features like mountains and rivers. A legend on the right explains the symbols and colors used.

Legend:

- 境界線 (Boundary Line): Solid black line
- 行政界 (Administrative Boundary): Dashed black line
- 都市計画区域 (Urban Planning Area): Red outline
- 用途地域 (Use District): Orange fill
- 自然公園地域 (Natural Park Area): Blue fill
- 森林保全地域 (Forest Conservation Area): Green fill
- 林業地域 (Forestry Area): Yellow fill
- 農業地域 (Agriculture Area): Light green fill
- 市町村役場等 (Municipal Office, etc.): Grey circle
- 主な観光地及び伝統芸能 (Main Tourist Sites and Traditional Arts): Pink hexagon
- 自動車専用道路及びインターチェンジ (Expressway and Interchange): Blue line with circle
- 国道 (National Road): Solid black line
- 鉄道 (Railway): Dashed black line
- リニア中央新幹線ルート (Rinnia Central New Trunk Line Route): Dotted black line

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧（現行計画）		新（変更計画）																																																																														
		<div>ア 人口の動向</div> <div>飯伊圏域の人口及び世帯数は、169,504 人、58,544 世帯（平成 22 年国勢調査）で、過去の推移をみると、昭和 60 年をピークに年々減少傾向にある。</div> <div>都市計画区域が指定されている飯田市及び松川町は減少傾向にあり、高森町は平成 22 年までは増加傾向にあったが、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）では、飯伊圏域内の各市町村とも、人口の減少が予測されている。</div> <div>平成 23 年 10 月現在の年少人口及び高齢者人口の割合は、それぞれ 13.9%、29.6% となっており、特に高齢化率は、全国平均（23.0%）、県平均（26.5%）（数値はいずれも平成 22 年国勢調査）と比べて高い比率となっている。</div> <div>また、飯伊圏域内では天龍村や大鹿村等、高齢化率が 40%を超える町村も多くみられる。</div> <div><div>■飯伊圏域の人口動向</div><div><table><caption>飯伊圏域の人口動向 (推計値)</caption><thead><tr><th>年次</th><th>飯田市</th><th>松川町</th><th>高森町</th><th>3市町合計</th><th>飯伊圏域</th></tr></thead><tbody><tr><td>S55</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>S60</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H2</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H7</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H12</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H17</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H22</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H27</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H32</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H37</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H42</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr><tr><td>H47</td><td>100,000</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>120,000</td><td>180,000</td></tr></tbody></table></div></div>	年次	飯田市	松川町	高森町	3市町合計	飯伊圏域	S55	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	S60	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H2	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H7	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H12	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H17	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H22	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H27	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H32	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H37	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H42	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000	H47	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000
年次	飯田市	松川町	高森町	3市町合計	飯伊圏域																																																																											
S55	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
S60	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H2	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H7	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H12	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H17	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H22	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H27	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H32	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H37	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H42	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											
H47	100,000	10,000	10,000	120,000	180,000																																																																											

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)		新 (変更計画)															
		■飯伊圏域の人口動向															
		国勢調査実績値(人)										将来推計人口(人)					
		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	平成57年	平成62年	平成67年
飯田市		78,515	92,401	91,859	106,772	107,381	108,024	105,335	101,555	97,558	93,253	88,844	84,353				
松川町		13,108	13,511	13,422	13,617	14,070	14,117	13,676	13,099	12,502	11,883	11,252	10,607				
高森町		11,488	12,022	12,232	12,252	12,528	12,976	13,216	13,244	13,101	12,895	12,645	12,367				
3市町合計		103,111	117,934	117,513	132,641	133,979	135,717	132,227	127,898	123,161	118,031	112,741	107,327				
飯伊圏域		179,462	180,763	179,038	170,014	178,392	175,523	169,504	162,924	156,042	148,924	141,799	134,688				
長野県		2,083,934	2,136,927	2,193,984	2,215,168	2,196,114	2,196,114	2,154,695	2,090,658	2,018,822	1,937,623	1,851,124	1,760,905				
全国		117,060	121,049	123,611	125,570	126,926	127,768	128,057	126,597	124,100	120,659	116,618	112,124				

※資料：実績値は国勢調査、推計人口は国立社会安全保障人口問題研究所のコーホート推計値。
 全国値の単位は千人。

イ 市街化の動向
 飯伊圏域の市街地は、飯田市、松川町、高森町の用途地域を中心に形成されてお、J R 飯田駅周辺に飯伊圏域の核となる中心市街地が形成されている。
 都市計画区域が指定されている飯田市、松川町、高森町では、全体的に、用途地域外の人口が増加傾向にある。特に飯田市においては用途地域内の人口が減少し、用途地域外で増加する人口の逆転現象が生じており、用途地域外での農地転用も増加傾向にある。
 また、飯伊圏域の核となっている飯田中心市街地においては人口減少が進んでおり、車社会の進展に伴い、近年は一般国道 153 号等の主要な幹線道路沿道において沿道型店舗等の立地が進行している。

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)

新 (変更計画)

■用途地域内外の人口の推移

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
飯田市	用途地域内人口	51,633	49,972	47,957	46,277	45,488	43,901
	用途地域外人口	32,741	34,622	40,030	43,024	43,265	47,847
	人口密度(人/ha)	35.4 (7.3)	34.2 (7.7)	47.3 (9.8)	30.4 (8.5)	29.9 (8.6)	28.9 (7.3)
	DID区域人口	35,838	41,281	39,743	38,597	36,512	34,695
松川町	用途地域内人口	3,749	3,789	3,971	4,242	4,249	-
	用途地域外人口	8,907	8,814	8,957	9,137	9,233	-
	人口密度(人/ha)	22.8 (3.7)	23.1 (3.7)	24.2 (3.7)	25.8 (3.8)	25.9 (3.8)	-
高森町	用途地域内人口	3,323	3,555	3,412	3,468	3,595	-
	用途地域外人口	8,699	8,677	8,840	9,060	9,381	-
	人口密度(人/ha)	19.5 (3.4)	18.7 (3.4)	18.0 (3.5)	18.3 (3.6)	31.1 (4.4)	-

※資料：都市計画基礎調査

※人口密度：上段は用途地域内、下段 () は用途地域外の人口密度

ウ 産業の動向

(7) 産業別人口の推移

平成 22 年現在、飯伊圏域の産業従事者は約 8 万 5 千人で、第 3 次産業が 55.0%、第 2 次産業が 31.5%、第 1 次産業が 13.5%の割合となっており、近年、第 2 次産業の減少が目立っている。

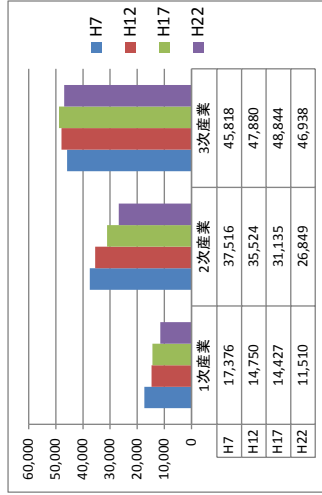
都市計画区域が指定されている 3 市町は、近年、産業別人口はいずれも減少傾向にあり、特に第 2 次産業の減少が目立っている。

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

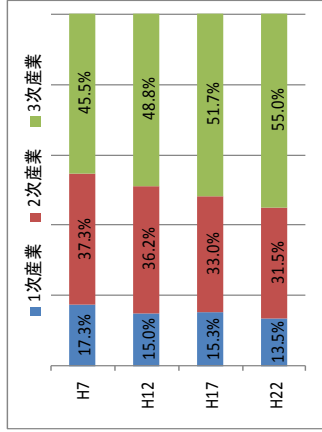
旧 (現行計画)

新 (変更計画)

■飯伊圏域の産業別従業者数の推移



■同構成比



■産業別人口の推移(3市町)

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
飯田市	第1次産業	10,051	8,022	7,581	6,535	6,415	4,837
	第2次産業	23,539	24,022	23,250	22,233	19,682	16,879
	第3次産業	27,209	28,878	31,833	31,703	31,490	30,313
	計	60,838	61,549	62,721	60,530	58,036	55,280
松川町	第1次産業	2,910	2,472	2,332	2,158	2,056	1,807
	第2次産業	2,887	2,877	2,867	2,922	2,579	2,239
	第3次産業	2,175	2,484	2,910	3,197	3,421	3,339
	計	7,976	8,081	8,118	8,279	8,064	7,410
高森町	第1次産業	2,259	1,934	1,840	1,691	1,575	1,257
	第2次産業	2,359	2,531	2,591	2,451	2,262	2,138
	第3次産業	2,373	2,662	2,913	3,210	3,564	3,700
	計	7,001	7,129	7,350	7,376	7,413	7,119

※資料：都市計画基礎調査、国勢調査

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p><u>(1) 産業の動向</u></p> <p><u>a 農業</u></p> <p>飯伊圏域の農業は、温暖な気候と標高差を活かし、多種多様な作物が生産されている。農業生産額は、果樹・畜産が生産額の約5割を占めており、農産物の加工やグリーンツーリズム等、農業・農村資源を活用した取り組みが進められ、地域の特徴となっている。</p> <p>しかし、農家数、農業生産額も年々減少しており、農業従事者の高齢化に伴う担い手の確保等が大きな課題となっている。</p> <p><u>b 工業</u></p> <p>飯伊圏域の工業は、「精密機械・食料」を中心としており、製造品出荷額では、飯田市が圏域全体の7割以上を占めている。</p> <p>企業数、従業者数、製造品出荷額とも近年は減少傾向にあり、工場立地件数も近年は年数件程度の低い水準にとどまっている。</p> <p>また、飯伊地域の水引・凍豆腐・半生菓子・漬物等の特色ある地場産業は、国内の高いシェアを占めている。</p> <p><u>c 商業</u></p> <p>飯伊圏域の商業は、商店数、従業者数、商品販売額とも平成11年以降、年々減少が続いている。</p> <p>飯伊圏域の商品販売額の約8割を飯田市が占め、松川町、高森町を含めると9割以上となり、飯伊圏域全体が飯田市を中心とする第1次商圏に包括されている。</p> <p>なお、店舗面積1,000㎡超の大規模小売店舗は、平成26年1月末現在で39店舗となっている。</p> <p><u>d 林業</u></p> <p>飯伊圏域の森林率は86%で、県平均の78%を大きく上回っている。</p> <p>森林資源は、建築用材、土木用材、木質バイオマス燃料として利用されており、根羽スギや遠山スギとしてブランド化された木材もある。また、マツタケをはじめとするキノコ等の特用林産物も、林業生産額の多くを占めている。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>工 都市整備の状況</p> <p>(7) 道路・交通施設の状況</p> <p>a 幹線道路網</p> <p>飯伊圏域の主な幹線道路網としては、中央自動車道、三遠南信自動車道を はじめ、一般国道 6 路線 (うち 1 路線は三遠南信自動車道 (一般国道 474 号))、主要地方道 13 路線、一般県道 36 路線があり、地域の骨格を形成して いる。一般国道・県道等、県管理分の改良率は平成 24 年 3 月末現在、約 50% となっており、県平均の 65% に比べ低い水準となっている。その主な理由 として、飯伊圏域の急峻な地形により、橋りょう、トンネル等の構造物が多 く必要となることがあげられる。</p> <p>なお、三遠南信自動車道は、飯田山本インターチェンジ～天龍峡インター チェンジ間が平成 20 年 4 月に開通し、現在、天龍峡インターチェンジ～喬 木インターチェンジ間及び青崩峠道路の整備が進められている。</p> <p>b 鉄道</p> <p>J R 飯田線は、飯伊圏域の主要な公共交通機関で地域住民の重要な交通手 段となっているが、その利用は年々減少しており、特に飯伊圏域の主要駅で ある J R 飯田駅の減少が著しい。</p> <p>なお、飯田市にリニア中央新幹線長野県駅 (仮称) の設置が公表され、駅 及び駅周辺の機能、施設のあり方に関する検討が本格化する予定である。</p> <p>(1) 都市計画施設の整備状況</p> <p>a 都市計画道路</p> <p>都市計画道路は、3 市町の都市計画区域内で計 51 路線あり、平成 25 年 3 月末現在、総延長の約 5 割が改良済みとなっている。</p> <p>b 都市公園</p> <p>都市計画公園は、3 市町の都市計画区域内で、49 カ所、面積 208.2ha が 計画決定されているが、そのうち、平成 25 年 3 月末現在、45 カ所、面積 159.3ha が開設済みとなっている。</p> <p>都市計画決定されていないその他の都市公園を含めた開設済み都市公園 の面積は都市計画区域の人口 1 人あたり 14.2 m²/人となっている。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>c. 下水道 <u>生活排水の処理は公共下水道、合併処理浄化槽、農業集落排水等によって行われており、平成 25 年 3 月末現在、これら長野県全体の普及率は 96.6%となっている。</u> <u>このうち飯伊圏域の公共下水道の普及率は、飯田市 82.1%、松川町 41.8%、高森町 53.5%となっている。</u></p> <p>d. その他の都市計画施設 <u>飯田市では、ごみ焼却場、汚物処理場、火葬場等の都市計画施設が計画決定されており、整備済みとなっているが、現在、関係市町村による一般廃棄物の広域処理を担う新たなごみ処理施設が計画されている。</u> <u>また、高森町では新たな火葬場の設置が予定されている。</u></p> <p>オ 観光の動向 <u>飯伊圏域は、豊かな自然、温泉、地域固有の民俗芸能や祭り、観光レクリエーション施設等、多様な観光資源を有しているが、平成 15 年以降、観光客数、消費額とも減少傾向が続いている。</u> <u>平成 24 年の観光客数は、約 384 万人で県外客が約 7 割を占めているが、日帰り客が約 8 割を占める通過型の観光地となっている。</u> <u>飯伊圏域内の観光客数が多い上位 5 件の観光地は、屋神温泉、下條温泉郷、親田高原、園原の里、松川高原・まつかわ温泉清流苑、天龍峡・天竜川下りの順となっている。</u></p> <p>カ 自然環境 <u>飯伊圏域は、南アルプスや中央アルプスに囲まれ、飯伊圏域の約 86%を占める森林、高原や溪谷等、豊かな自然環境に恵まれている。</u> <u>景勝地の多くは、南アルプス国立公園、天竜奥三河国立公園、中央アルプス国立公園、天竜小渋水系県立公園、県自然環境保全条例に基づく郷土環境保全地域に指定されている。</u> <u>また、豊かな水資源は県民共有の貴重な財産であり、将来にわたって保全を図るため、「長野県水環境保全条例」に基づく水道水源保全地区の指定をはじめ、名水百選・信州の名水・秘水の選定など、水資源の保全に努めている。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>キ 災害の危険性</p> <p><u>飯伊圏域は急峻で複雑な地形、脆弱な地質にあり、県内の他と比べて年間降水量の多い地域であることから、これまで天竜川等の河川の氾濫、土石流、地すべり等の自然災害に見舞われており、昭和36年、昭和58年には大規模な災害が発生し甚大な被害を受けている。</u></p> <p><u>特に、中山間地域では急峻な地形であることから、各所に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域及び特別警戒区域が指定されている。</u></p> <p><u>また、飯伊圏域内では、地震防災に関する対策を強化する必要がある地域として、飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、下條村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村の11市町村が「東海地震に係る地震防災強化地域」に指定されている。</u></p> <p>ク 環境対策</p> <p><u>地球温暖化対策に関する取り組みとして、長野県地球温暖化防止活動推進員の設置等が行われているほか、飯田市では、国の環境モデル都市に選定され、「飯田市環境モデル都市行動計画」に基づき、太陽光市民共同発電事業等、地元企業・市民・NPOによる先進的な環境政策を展開している。</u></p> <p>(2) 圏域の主要課題</p> <p><u>前述の飯伊圏域の現状を踏まえるとともに、近年の都市を取り巻く社会経済情勢の変化を踏まえ、飯伊圏域全体における広域的・共通的な主要課題を次のように整理する。</u></p> <p>ア 中心市街地空洞化への対処</p> <p><u>飯田市の中心市街地や松川町・高森町の既存商店街等では、近年の社会経済の進展や郊外部の宅地化の進行に伴って、居住人口の減少、高齢化の進行、空き店舗の増加や商業活動の停滞など、中心市街地の空洞化が生じていることから、次のような課題への対応が必要である。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進等</u> ● <u>アクセスしやすい交通体系の整備・交通環境の充実</u>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>●市街地周辺等における無秩序な宅地化の抑制、コンパクトな市街地の形成等</p> <p>●健康・医療・福祉、子育て等の生活支援機能の充実、生活環境の充実等</p> <p>イ 地域間の連携</p> <p>これからの地域づくりは、圏域を構成する市町村や地域が自立し、個性を発揮するとともに、広域的な役割分担の中で多様性を認め合いながら互いに支え合うことが必要である。</p> <p>飯伊圏域全体の活力と魅力を高めていくため、次のような課題への対応が必要である。</p> <p>●広域連携の強化 (圏域外都市との連携)</p> <p>●中心都市飯田市との連携の強化 (医療、教育、商業機能の集積する飯田市との連携など)</p> <p>●地域間の連携の強化 (産業・観光の振興、医療機関のアクセス確保・救急医療、冬期積雪の交通確保など)</p> <p>●公共交通など生活の足の確保 (日常生活に必要なバス路線の維持・確保など)</p> <p>ウ 人口減少・高齢化に対応した地域活性化</p> <p>飯伊圏域 14 市町村のうち、7 町村が過疎町村となっており、飯伊圏域の高齢化率は県平均を上回り、高齢化傾向が顕著である。</p> <p>今後は、人口減少社会・高齢化社会を見据えた地域活性化に向け、次のような課題への対応が必要である。</p> <p>●過疎地域への対応 (歴史文化を活かした観光交流の推進、グリーンツーリズム等による交流人口の拡大等)</p> <p>●高齢化社会への対応 (高齢者をはじめ誰もが安心して住み続けられる住環境づくりなど)</p> <p>●観光振興への対応 (自然や温泉等、圏域の優れた観光資源を活かした魅力ある観光地づくりなど)</p> <p>●地域産業の育成・活性化への対応 (農業、商業、工業等)</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>エ 環境の保全と活用</p> <p>(7) 豊かな自然環境・水資源・生物多様性の保全への対応</p> <p>飯伊圏域は、南アルプス、中央アルプスに囲まれ、雄大な山岳景観、森林や高原、渓谷等の優れた自然環境に恵まれており、自然公園地域に指定されている。</p> <p>こうした地域のかげがえのない自然資源を保全し、未来へと引き継ぐため、良好な自然環境の保全とレクリエーションへの利用促進、豊かな水資源の保全、生物の生息環境の保全等、生物の多様性に配慮した都市づくりなどの取り組みが必要である。</p> <p>(1) 計画的な土地利用への対応</p> <p>近年、飯田市及び高森町の市街地周辺（用途地域外）や幹線道路周辺において宅地化が進行し、良好な田園景観や営農環境への影響が懸念されている。</p> <p>アルプスの山並みに抱かれた良好な田園景観を維持保全するため、優良農地や森林の保全、適切な宅地化の誘導など計画的な土地利用の推進を図る必要がある。</p> <p>オ リニア中央新幹線等の整備を見据えた都市づくり</p> <p>リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備により、飯伊圏域の新たな都市の発展が期待されていることから、早期の整備促進を図るとともに、国際空港等へのアクセス向上によるグローバル化への対応、交流人口の拡大、適切な土地利用の誘導、長野県の南の玄関口及び広域交通の結節点としての機能強化、豊かな自然環境や伝統芸能・生活文化の保全と活用など、これらの整備効果を最大限に活かした都市づくりが求められている。</p> <p>カ 災害に備えた都市づくりへの対応</p> <p>飯伊圏域は、中山間地域をはじめ、地形・地質的に災害が発生しやすい地域で、自然災害の危険性が指摘されている。また、飯伊圏域 11 市町村が東海地震の地震防災強化地域に指定されていることから、東日本大震災をはじめ、今後の発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等を踏まえ、地震・火災・水害・土砂災害に対する総合的な防災・減災対策の強化が必要である。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p><u>こうしたなか、三遠南信自動車道は、巨大地震が発生した場合の緊急輸送道路としての役割を有していることから、早期の整備促進が求められている。</u></p> <p><u>キ 低炭素型都市づくりへの対応</u></p> <p><u>地球温暖化問題への関心が高まるなか、その主な要因となっている温室効果ガスの削減は都市づくり分野においても大きな課題となっている。</u></p> <p><u>今後は、「都市の低炭素化の促進に関する法律」や「長野県環境エネルギー戦略～第三次長野県地球温暖化防止県民計画～」等に基づき、県民、事業者、市町村、関係団体等の役割による取組みや連携により、持続可能で低炭素な環境エネルギー地域社会（経済は成長しつつ、温室効果ガス総排出量とエネルギー消費量の削減が進む経済・社会構造）の構築に向けた都市づくりが求められている。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>2. 飯伊圏域の都市計画の目標</p> <p>(1) 圏域の基本理念</p> <p>飯伊圏域の主要課題を踏まえ、飯伊圏域が一体として圏域づくり・都市づくりに取り組みにあたって、飯伊圏域の将来像と基本理念を次のように設定する。</p> <p>【将来像】 個性の連携、元氣あふれる「イアンバイ南信州」 ～自立した地域が連携し、多彩な自然と共生しつつ、活力ある南信州づくりを目指す～</p> <p>【基本理念】</p> <p>ア 自然豊かな人にやさしいまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな自然環境、水資源、森林資源、美しい田園景観の保全 ● 生物の多様性の維持・保全に配慮した都市づくり ● 計画的な土地利用の推進、優良農地の維持・保全 ● 自然環境と共生した美しい農山村づくり <p>イ 生きがいや誇りの持てる安全・安心な都市圏の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者や障がい者、子どもたち等に対する医療・福祉・教育・文化等の生活支援施設の充実 ● 少子高齢化に対応した、安全・安心に暮らせる人にやさしい都市づくり・生活環境の充実 ● ユニバーサルデザインによる施設空間、歩行空間の確保 ● 中山間地域の過疎対策の推進 <p>ウ 地域特性を活かした活力ある都市圏の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域固有の歴史文化や文化財等の地域資源の保存継承と観光等の都市づくりへの活用 ● 中心市街地の活性化（中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進等） ● 地域の拠点や観光交流拠点の魅力づくりと活力の向上

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>● <u>観光・農業・商業・工業等の地域産業の振興</u></p> <p>エ <u>多様なふれあいのある文化交流都市圏の創造</u></p> <p>● <u>飯伊圏域内外の交流・連携を支える交通体系や情報ネットワークの整備の推進</u></p> <p>● <u>地域の多様な拠点間の連携強化（都市拠点、近隣都市拠点、広域交通・地域振興拠点、観光交流拠点、文化交流拠点）</u></p> <p>オ <u>個性と創造力に満ちた元気ある都市圏の創造</u></p> <p>● <u>行政と住民等の協働による元気ある自立した都市づくりの推進</u></p> <p>● <u>広域的な機能分担と連携による一体的な都市づくりの推進</u></p> <p>カ <u>リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備を見据えた都市圏の創造</u></p> <p>～整備効果を最大限に活かした都市づくり（守るべきものを守り、備えるべきものは備える）～</p> <p>● <u>グローバル化に対応した都市づくり</u></p> <p>● <u>交流人口の拡大（移住・交流を促進する情報発信や受け入れ体制の整備）</u></p> <p>● <u>適切な土地利用の誘導</u></p> <p>● <u>長野県の南の玄関口及び広域交通の結節点にふさわしい都市づくり</u></p> <p>● <u>豊かな自然環境、歴史遺産、伝統芸能及び生活文化の保全並びに景観や緑の保全とこれらを活かした都市づくり</u></p> <p>● <u>道路交通・情報ネットワークの強化（リニア中央新幹線長野県駅（仮称）や高規格幹線道路インターチェンジなどへのアクセス強化）</u></p> <p>キ <u>災害に強い都市圏の創造</u></p> <p>● <u>地震、水害、土砂災害等に対する防災・減災対策の強化等</u></p> <p>● <u>地域における防災都市づくりの推進</u></p> <p>ク <u>低炭素型社会の実現に向けた都市圏の創造</u></p> <p>● <u>地球温暖化対策に応え、持続可能な地域づくりとするための低炭素型都市づくり（集約型都市構造への転換、太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用など）</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>(2) 圏域の将来都市構造 <u>飯伊圏域は飯田市を中心とする都市地域、段丘地域に広がる田園地域、豊かな自然と伝統文化を持つ中山間地域と3つの特色ある地域で構成されている。</u> <u>恵まれた自然環境、歴史文化、産業等地域の特性を最大限に活かしながら自立的な都市圏の形成を図るため、飯伊圏域の将来都市構造を次のように設定する。</u></p> <p>ア 拠点 <u>飯伊圏域では、都市拠点（飯田中心市街地）を核に、飯伊圏域内の多様な拠点がそれぞれの役割に応じた機能分担がなされ、それらが有機的に連携した「拠点ネットワーク型都市構造」の構築をめざす。</u></p> <p>(7) 都市拠点 <u>飯伊圏域の主要な都市機能が集積する飯田中心市街地については、都市拠点として位置づけ、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進、都市機能の強化と都市空間の魅力づくり等を図る。</u></p> <p>(4) 近隣都市拠点 <u>飯伊圏域の飯田市、松川町、高森町の都市部において、行政文化施設や学校、商業施設等が集積し、生活の中心となっているところについては近隣都市拠点として位置づけ、公共施設や身近な商業施設、生活利便施設の充実やまちなみ環境の向上を図る。</u></p> <p>(7) 広域交通・地域振興拠点 <u>飯田市に予定されているリニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺については、広域交通・地域振興拠点として位置づけ、各拠点の機能が相互に高まるよう連携を図るとともに、適切な土地利用を検討する。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>(イ) 交流拠点</p> <p>a 観光交流拠点 <u>飯伊圏域内の主要な観光地や観光・文化交流施設周辺については、観光交流拠点として位置づけ、観光交流機能の強化や魅力づくりを図るとともに、拠点の相互の有機的な連携を促進する。</u></p> <p>b 文化交流拠点 <u>飯伊圏域内の祭り、伝統芸能、工芸品等、代表的な歴史文化資源のある箇所を文化交流拠点と位置づけ、歴史文化資源の保全とまちづくりへの活用及び相互の連携を促進する。</u></p> <p>イ 交流・連携軸 <u>飯伊圏域内外の交流・連携を促進するため、次のような交流・連携軸の強化を図る。</u></p> <p>(7) 広域連携軸 <u>～高規格・骨格幹線道路ネットワーク（交流・連携を促進する交通ネットワークの整備）～</u> <u>・県内外の各地域との交流・連携の拡大や物流の効率化を図るため、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備に併せて骨格幹線道路の整備促進を図る。</u></p> <p>(4) 地域連携軸 <u>～地域の拠点を結ぶ主要幹線道路（地域の拠点間や中山間地とを結び地域づくりを支援）～</u> <u>・地域の拠点間や中山間地域との交流・連携の促進や時間・距離の短縮を図るため、住民生活に密着した主要な幹線道路の計画的・効率的な整備促進を図る。</u></p> <p>(7) 骨格的連携軸 <u>都市地域における骨格的な交流・連携を図るため、都市地域を連携する道路や、広域交通・地域振興拠点と都市拠点等を結ぶ骨格道路の整備促進を図る。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

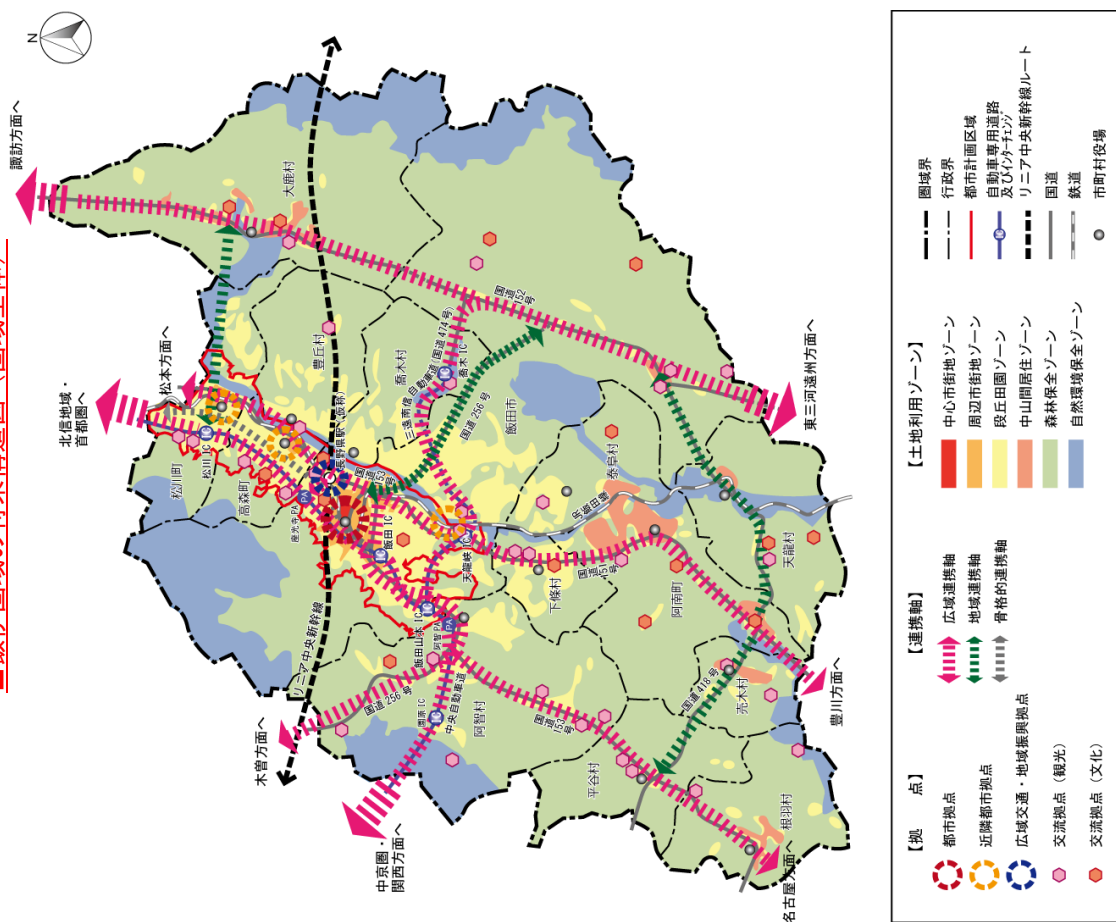
旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p>ウ 土地利用</p> <p><u>飯伊圏域を次の４つの土地利用ゾーンに区分し、各々の地域特性に応じた都市づくりを推進する。</u></p> <p>(7) 市街地ゾーン（中心市街地ゾーン、周辺市街地ゾーン）</p> <p>a 中心市街地ゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯伊圏域の拠点として都市的利便性や快適性を享受しつつ、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進、多様で高度な都市サービス機能の充実、整備を図る。 ・都市的な賑わいをはじめ、高齢化社会に対応した居住環境の整備や緑地空間が一体となったゆとりといるおいのある都市的空間の形成を図る。 <p>b 周辺市街地ゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接する田園空間との共生を図りつつ、計画的な市街地形成を図る。 ・補完的な都市サービス機能を充実すると共に、うるおいのある居住環境の形成を図る。 <p>(4) 段丘田園ゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市街地ゾーン」を囲む地域として、緑豊かな美しい景観や自然環境との調和を図りつつ、里山田園景観と共生した良好な居住環境の整備を図る。 ・地域の特性を生かしつつ、個性ある農業の振興と良好な農村景観の保全を図る。 <p>(ウ) 中山間地域ゾーン（中山間居住ゾーン、森林保全ゾーン、自然環境保全ゾーン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「段丘田園ゾーン」を囲む地域として、雄大な南アルプスや中央アルプスに代表される豊かな緑と、清らかな水環境等の自然環境の保全を図る。 ・雄大な山岳観光資源や、豊富な森林資源、個性ある民俗芸能等を活かしつつ、農林産業、観光産業や屋外レクリエーション機能を充実し、交流人口の拡大や地域活性化を促進する。 <p>(エ) 計画的な土地利用の誘導ゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白地地域や幹線道路沿道地域については、適切な土地利用の誘導を図る。

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)

新 (変更計画)

■飯伊圏域の将来構造図(圏域全体)

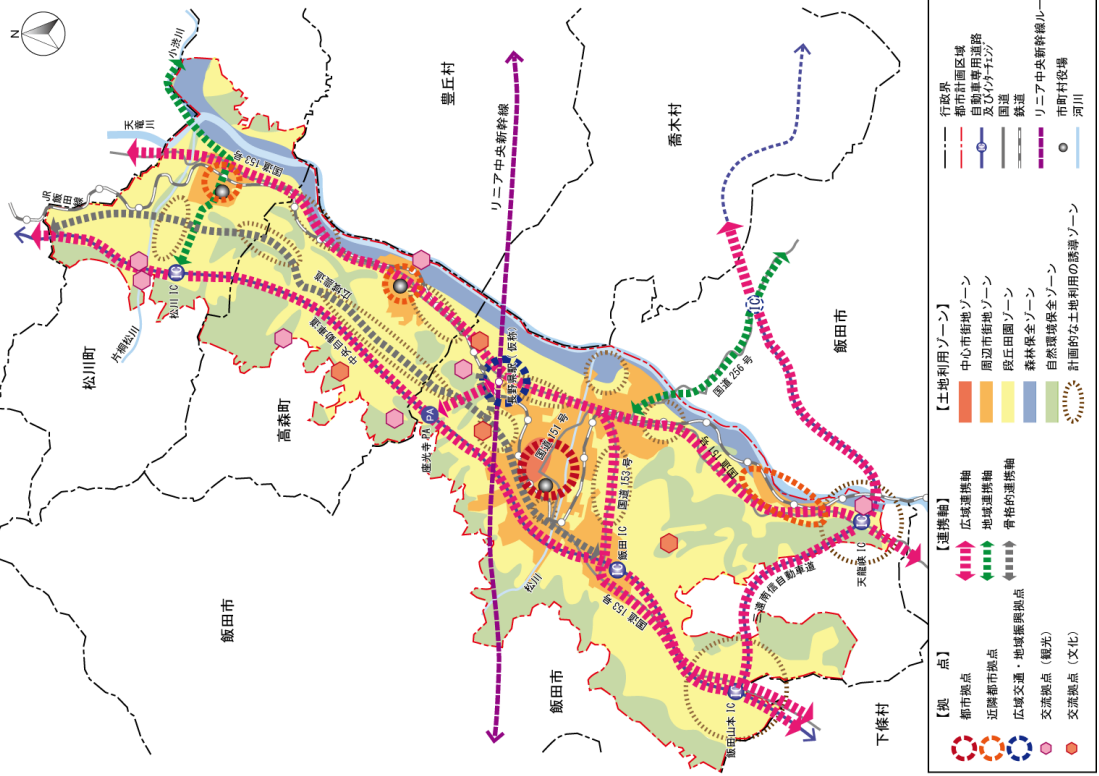


飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)

新 (変更計画)

■都市計画区域の将来構想図(飯田、松川、高森)



飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>1. 都市計画の目標</p> <p>本計画は、都市づくりに対する合意形成の促進を図るため、飯田都市計画区域を対象として、県が広域的見地から、関係市町村や住民の意向を反映しながら、都市計画の目標とその実現に向けた基本的な方針を示すものである。</p> <p>1.1 都市計画区域の範囲と目標年次</p> <p>(1) 都市計画区域の範囲 都市計画区域の名称：飯田都市計画区域 対象市町村：飯田市 範囲：飯田市の一部</p> <p>(2) 目標年次 都市計画の基本的な方向：平成 32 年 都市施設などの整備目標：平成 22 年</p>	<p>3. 都市計画の目標</p> <p>(1) 飯田都市計画区域の現状と課題 本区域が位置する飯田市は、東に南アルプス、西に中央アルプスを望み、豊富な水量を誇る天竜川や豊かな森林に囲まれるなど、豊かな自然環境に恵まれている。 また、古くから交通の要衝、飯田城の城下町として栄え、産業、行政文化等の主要な都市機能が集積する飯伊圏域の中心都市として発展し続けている。 しかしながら、今日、人口減少社会、少子高齢化社会の進行、地球温暖化問題、中心市街地の空洞化、地域産業の停滞など、本区域をとりまく社会経済情勢も大きく変化しており、また、東日本大震災を教訓とした災害に強い都市づくりへの対応、市街地の拡散を抑制したコンパクトな都市づくりなど、これらの課題に対応した持続可能な安全で活力ある都市づくりが求められている。 さらに、今後、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備により、新たな都市の発展が期待されており、これらの整備効果を最大限に活かした都市づくりが求められている。 こうした本区域を取り巻く情勢と本区域の広域的な位置づけを求められるなかで、都市計画の目標とその実現に向けた基本的な方針を以下に示す。</p> <p>(2) 飯田都市計画区域の範囲と目標年次</p> <p>ア 都市計画区域の範囲 ◆都市計画区域の名称：飯田都市計画区域 ◆対象市町村：飯田市 ◆範囲：飯田市の一部</p> <p>イ 目標年次 おおむね 20 年後の都市の姿を展望した上で、おおむね 10 年間の都市計画の基本的方向を定めるものとする。 ◆都市計画の基本的な方向：平成 42 年 ◆都市施設などの整備目標：平成 32 年（中間年：平成 27 年）</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>1.2 都市づくりの基本理念 飯田都市計画区域の都市づくりにあたっての基本理念としては、飯伊圏域全体を捉え、</p> <p style="text-align: center;">個性の連携、元氣あふれる「イアンバイ南信州」 ～自立した地域が連携し、多彩な自然と共生しつつ、活力ある南信州づくりを目指す～</p> <p>とし、その実現のための方針としては、次のとおりとする。</p> <p>1. <u>自然豊かな人にやさしいまちづくり</u> 飯田都市計画区域においては、特に、周辺部の自然環境の保全と市街地の立体的都市景観の活用に関するものとする。</p> <p>2. <u>生きがいや誇りの持てる安心なまちづくり</u> 飯田都市計画区域においては、特に、高齢者や青少年などの社会的弱者にも暮らしやすいまちづくりに配慮するものとする。</p> <p>3. <u>地域特性を生かした活力あるまちづくり</u> 飯田都市計画区域においては、特に、中心市街地が地域の個性創出に果たしてきた歴史的役割と依然としてその空洞化が進みつつある現状とを踏まえ、既存の都市集積を活かした居住者の回帰や特色ある商業の再構築施策、或いは新たな都市基盤整備などによる再構築に努め、住民主体の賑わいと活力のあるまちづくりに配慮するものとする。</p> <p>4. <u>多様なふれあいのあるまちづくり</u> 飯田都市計画区域においては、特に、飯伊圏域の中心都市として、圏域全体に亘る人々の産業経済活動や文化活動、或いはその他日常生活における交流と連携を深める役割を担うことが必要である。そのため、その中核となる飯田都市市街地における都市の計画的な整備・更新に努めるとともに、それらを支える交通基盤の整備を、隣接する町村との調整を図りながら推進するものとする。</p> <p>5. <u>個性と創造力に満ちた元氣あるさとづくり</u> 飯田都市計画区域においては、特に、周辺地域の中心都市として人やモノ或いは情報などの交流の場を提供することによって培われてきた特色ある文</p>	<p>(3) 都市づくりの基本理念 <u>本</u>区域の都市づくりにあたっての基本理念としては、飯伊圏域全体を捉え、</p> <p style="text-align: center;">個性の連携、元氣あふれる「イアンバイ南信州」 ～自立した地域が連携し、多彩な自然と共生しつつ、活力ある南信州づくりを目指す～</p> <p>とし、その実現のための方針としては、次のとおりとする。</p> <p><u>ア</u> <u>自然豊かな人にやさしいまちづくり</u> <u>本</u>区域においては、周辺部の自然環境の保全と市街地の立体的都市景観の活用に配慮するものとする。</p> <p><u>イ</u> <u>生きがいや誇りの持てる安心なまちづくり</u> <u>本</u>区域においては、<u>高齢化社会に対応し、誰もが暮らしやすいまちづくりに配慮するものとする。</u></p> <p><u>ウ</u> <u>地域特性を活かした活力あるまちづくり</u> <u>本</u>区域においては、<u>地域固有の歴史文化や文化財等の地域資源を保存継承し、観光等の都市づくりへ活用する。</u>特に、中心市街地が地域の個性創出に果たしてきた歴史的役割と依然としてその空洞化が進みつつある現状とを踏まえ、既存の都市集積を活かした居住者の回帰や特色ある商業の再構築施策、或いは新たな都市基盤整備などによる再構築に努め、住民主体の賑わいと活力のあるまちづくりに配慮するものとする。</p> <p><u>エ</u> <u>多様なふれあいのあるまちづくり</u> <u>本</u>区域においては、飯伊圏域の中心都市として、圏域全体に亘る人々の産業経済活動や文化活動、或いはその他日常生活における交流と連携を深める役割を担うことが必要である。そのため、その中核となる飯田都市市街地における都市の計画的な整備・更新に努めるとともに、それらを支える交通基盤の整備を、隣接する町村との調整を図りながら推進するものとする。</p> <p><u>オ</u> <u>個性と創造力に満ちた元氣あるまちづくり</u> <u>本</u>区域においては、<u>飯伊圏域</u>の中心都市として人やモノ或いは情報などの交流の場を提供することによって培われてきた特色ある文化を中心に都市の</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>化を中心に都市の個性が形づくられてきた。これら歴史の伝承を図る中で都市の賑わいと輝きを高め、風土に根ざした飯田らしい雰囲気を感じることのできる市街地を整備するとともに、都市の個性を高める新しい文化の創造を支援するものとする。</p>	<p>個性が形づくられてきた。これら歴史の伝承を図る中で都市の賑わいと輝きを高め、風土に根ざした飯田らしい雰囲気を感じることのできる市街地を整備するとともに、都市の個性を高める新しい文化の創造を支援するものとする。</p> <p>カリニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備を見据えたまちづくり <u>本区域においては、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備を見据え、「守るべきものを守り、備えるべきものは備える」という理念のもと、長野県の南の玄関口の役割を担う都市として、グローバル化への対応、交流人口の拡大、適切な土地利用の誘導、道路交通・情報ネットワークの強化、豊かな自然環境や歴史遺産、伝統芸能・生活文化並びに景観や緑の保全と活用など、整備効果を最大限に活かした活力あるまちづくりを推進するものとする。</u></p> <p>キ 災害に強いまちづくり <u>本区域においては、地形構造や地質的に自然災害の危険性が指摘されていることから、東日本大震災等の大規模災害を教訓に、地震、火災、水害、土砂災害等に対する防災・減災対策を強化し、災害に強いまちづくりを推進するものとする。</u></p> <p>ク 低炭素型社会の実現に向けたまちづくり <u>本区域においては、「都市の低炭素化の促進に関する法律」や「長野県環境エネルギー戦略～第三次長野県地球温暖化防止県民計画～」等を踏まえ、集約型都市構造への転換、車依存型社会からの脱却、太陽光発電等の自然エネルギーの活用等によるCO2排出量の削減を図るなど、低炭素型社会の構築に向けた都市づくりをめざす。</u> <u>特に、飯田市は、国の環境モデル都市に選定されていることから、引き続き「飯田市環境モデル都市行動計画」に基づき、市街地の低炭素化の推進をめざすものとする。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>1.3 地域ごとの市街地像</p> <p>1) 中心市街地地域 (橋北・橋南・東野) いわゆる「丘の上」に広がる市街地部は、飯伊圏域全体を対象とする公共・公益的施設や地域の風土に育まれた特色ある商業・業務の集積地である。今後ともストックを生かして賑わいと活力のある安全で快適な地域とするために、商業・業務・福祉等の都市的機能の向上を図るとともに、水や段丘崖を積極的に活用して潤いと緑の保全に努める。更に、バリアフリーで利便性が高くしかも親しみやすい生活空間を確保することによって老若混住した都市居住を促進し、圏域の中心市街地にふさわしい都市環境の再構築や純化を図る。</p> <p>2) 北部地域 (丸山・羽場) 中心市街地の北、風越山の山麓に位置する丸山・羽場地区は、元々のはのかな田園地域であったが、中心市街地の外縁部にあって早くから宅地化が進んだ地域である。昭和 40 年代以降継続して土地区画整理事業が施行され、整然とした住宅地が整備されてきていることから、既存農業に配慮しつつも、引き続き住宅地としての活用を図る。また、風越山から続く里山や樹林地が断続的に展開しており、生態系の保持や潤いのある居住環境整備の観点から、これら緑の保全に努める。</p> <p>3) 東部地域 (上郷・座光寺) 上郷地区と座光寺地区からなる北部地域は、バイパス整備や広域農道整備に伴い、宅地化の無秩序な進行為懸念されている地域で、都市的土地利用と農地利用の相互の環境が適切に確保されるべき地域である。 一般国道 153 号の現道沿道地域を沿道型土地利用エリアとして位置づけ、交通利便性を活用した現状の都市的土地利用を継続し、バイパス沿道については現状の農地利用を継続する。</p>	<p>(4) 地域毎の市街地像 ア 地域毎の将来像 (7) 中心市街地地域 (橋北・橋南・東野) いわゆる「丘の上」に広がる中心市街地は、飯伊圏域全体を対象とする公共・公益的施設や地域の風土に育まれた特色ある商業・業務の集積地である。今後ともストックを生かして賑わいと活力のある安全で快適な地域とするために、商業・業務・文化・医療・福祉・生活支援等の都市的機能の向上を図るとともに、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、公共交通の充実、歴史的なまち並みの保全、水や段丘崖を積極的に活用してうるおいと緑の保全に努める。更に、高齢化社会に対応し、ユニバーサルデザインによる利便性が高くしかも親しみやすい生活空間を確保することによって老若混住した居住を促進し、飯伊圏域の中心市街地にふさわしい賑わいと活力ある都市環境の創出を図る。</p> <p>(4) 北部地域 (丸山・羽場) 中心市街地の北、風越山の山麓に位置する丸山・羽場地区は、元々のはのかな田園地域であったが、中心市街地の外縁部にあって早くから宅地化が進んだ地域である。昭和 40 年代以降継続して土地区画整理事業が施行され、整然とした住宅地が整備されてきていることから、既存農業に配慮しつつも、引き続き住宅地としての活用を図る。また、風越山から続く里山や樹林地が断続的に展開しており、生態系の保持やうるおいのある居住環境整備の観点から、これら緑の保全に努める。</p> <p>(7) 東部地域 (上郷・座光寺) 上郷地区と座光寺地区からなる東部地域は、一般国道 153 号や広域農道整備に伴い、無秩序な宅地化の進行為懸念されている地域で、都市的土地利用と農地利用の相互の環境が適切に確保されるべき地域である。 一般国道 153 号の沿道地域を沿道型土地利用エリアとして位置づけ、交通利便性を活用した現状の都市的土地利用を継続し、リニア中央新幹線長野県駅(仮称)周辺においては、周辺環境との調和を図りつつ、適切な土地利用を検討する。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>4) 中部地域 (県・伊賀良・松尾)</p> <p>県地区は、松川の河岸段丘による変化に富んだ地形のなかにあり、既存の東西方向の展開に加え、近年一般国道 153 号バイパスとこれに連絡する南北方向の都市的土地利用展開が強く見られる地域である。流水の活用や河岸段丘・風越山の景観を活用し、変化と多様な集積のある地域として、住商工の混合する活気のあるまちづくりを図る。</p> <p>伊賀良地区は、中央自動車道飯田インターチェンジに接続する一般国道 153 号飯田バイパスを中心とした幹線道路整備に伴って沿道の都市的土地利用が進行したほか、土地区画整理事業によって都市的土地利用の空間が創出されようとしている。これらの地域については、引き続き都市的土地利用の集積を図る。また、地区全域に広がる農業地帯の中で、中心市街地に近いところ程散発的・小規模な宅地開発が進行し、土地利用のまとまりに欠けるという課題を有するが、適切な規制・誘導により目的のまとまりしたまとまりのある地区の整備を進めながら、地区全体として農業との共存を図る。</p> <p>松尾地区は、一般国道 151 号沿線を中心にした商業、天竜川沿岸地域に物流・精密機械器具製造・漬物などの地場産業を中心とした工業、また、市内でも比較的温暖な気候による宅地化など、様々な機能が混在すると共に、市内で唯一の大学が立地する地域である。今後とも、これらの多様性を活かしたミクスْتُースの地域として整備していく。</p>	<p>(1) 中部地域 (県・伊賀良・松尾)</p> <p>県地区は、松川の河岸段丘による変化に富んだ地形のなかにあり、東西方向の既存市街地に加え、近年一般国道 153 号バイパスとこれに連絡する南北方向の都市的土地利用展開が強く見られる地域である。流水の活用や河岸段丘・風越山の景観を活用し、変化と多様な集積のある地域として、住商工の混合する活気のあるまちづくりを図る。</p> <p>伊賀良地区は、中央自動車道飯田インターチェンジに接続する一般国道 153 号飯田バイパス整備に伴って沿道の都市的土地利用が進行したほか、土地区画整理事業によって<u>新たな住宅市街地が形成されつつある</u>。これらの地域については、引き続き都市的土地利用の集積を図る。</p> <p>また、地区全域に広がる農業地帯の中で、中心市街地に近いところ程散発的・小規模な宅地開発が進行し、土地利用のまとまりに欠けるという課題を有するが、適切な規制・誘導により目的のまとまりしたまとまりのある地区の整備を進めながら、地区全体として農業との共存を図る。</p> <p>松尾地区は、一般国道 151 号沿線を中心にした商業、天竜川沿岸地域に物流・精密機械器具製造・漬物などの地場産業を中心とした工業、また、市内でも比較的温暖な気候による宅地化など、様々な機能が混在すると共に、市内で唯一の大学が立地する地域である。今後とも、これらの多様性を活かした<u>複合的な土地利用を図る</u>地域として整備していく。</p>
<p>5) 南部地域 (川路・竜丘・山本)</p> <p>竜丘地区は、元々は養蚕などを中心とした農業地帯であったが、都市の郊外化に伴って宅地開発が進み、農・住の混在化が進んでいる他、地区内では、時又地籍から桐林地籍に商業の中心が移り、一般国道 151 号沿線の一部には<u>中規模の商業集積が現出している</u>。</p> <p>今後とも、これら沿道型の商業集積が過大にならないように留意しながら、全体として農・住が均衡した低層住居系の地域景観を保持する。</p> <p>川路地区は、里山と住居とが均衡した地域であり、今後ともこの地域景観が保持されるよう、土地利用に留意する。</p>	<p>(2) 南部地域 (川路・竜丘・山本)</p> <p>川路地区は、里山と住居とが均衡した地域であり、今後ともこの地域景観が保持されるよう、土地利用に留意する。</p> <p>天竜川治水対策事業によって生み出された<u>川路・竜丘</u>地区にまたがる<u>天龍峡エコバレー</u>地域は、両地区の伝統的な地域景観とは異なり、今後、新しい視点で土地利用・地域づくりが期待される地域である。<u>名勝天龍峡と周辺の観光資源を活かし</u>、時代の要請でもある環境と人の営みとの調和に留意しながら、住・商・工・農の様々な機能が連関して展開するモデル的な地域づくりを推進する。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>天竜川治水対策事業によって生み出された<u>竜丘・川路</u>地区にまたがる<u>天竜峡エコバレー</u>地域は、両地区の伝統的な地域景観とは異なり、今後新しい視点で土地利用・地域づくりが期待される地域である。時代の要請でもある環境と人の営みとの調和に留意しながら、住・商・工・農の様々な機能が連関して展開するモデル的な地域づくりを推進する。</p> <p>山本地区は、自然的又は農業的土地利用を中心に景観にも優れた田園や里山地域を有している地区であるが、三遠南信自動車道が整備され、飯田山本インターチェンジ開設に伴うアクセス道路が整備された。<u>今後、土地利用・需要が多様化することが予想される地域となるが、現存する良好な居住環境や自然景観の保全、農業との調和を図りながら、農・住が均衡した地域景観を保持する。</u></p>	<p>竜丘地区は、元々は養蚕などを中心とした農業地帯であったが、都市の郊外化に伴って宅地開発が進み、農・住の混在化が進んでいる他、地区内では、時又地籍から桐林地籍に商業の中心が移り、一般国道 151 号沿線の一部には商業集積が<u>進んでいる</u>。</p> <p>今後とも、これら沿道型の商業集積が過大にならないように留意しながら、全体として農・住が均衡した低層住居系の地域景観を保持する。</p> <p>山本地区は、自然的又は農業的土地利用を中心に景観にも優れた田園や里山地域を有している地区であるが、三遠南信自動車道が整備され、飯田山本インターチェンジ開設に伴うアクセス道路が整備された<u>ことから、今後、土地利用・需要が多様化することが予想される。このため、計画的な土地利用の推進を図り、現存する良好な居住環境や自然景観の保全、農業との調和を図りながら、農・住が均衡した地域景観を保持する。</u></p> <p>イ 将来都市構造 <u>飯伊圏域の都市構造を踏まえ、本区域の将来都市構造を次のように位置づけ、飯田中心市街地を核に、多様な拠点が役割に応じて機能分担がなされ、相互に有機的に連携する「拠点ネットワーク型都市構造」の構築をめざす。</u> (7) 拠点 a 都市拠点 <u>J R 飯田駅周辺の中心市街地を都市拠点として位置づけ、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住の促進、交通アクセスや交通環境の向上、都市機能の強化と都市空間の魅力づくり等を図る。</u> b 近隣都市拠点 <u>天龍峡エコバレー地域は、近隣都市拠点として位置づけ、名勝天龍峡をはじめ豊かな地域資源を活かして観光、環境、産業、生活などの機能の強化と魅力づくりを図る。</u> c 広域交通・地域振興拠点 <u>リニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺については、広域交通・地域振興拠点として位置づけ、各拠点の機能が相互に高まるよう連携を図る。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
	<p><u>(イ) 主要な連携軸</u></p> <p><u>a 広域連携軸</u> 広域的な都市間の交流・連携を担う軸で、中央自動車道、三遠南信自動車道、一般国道 151 号、153 号を位置づける。</p> <p><u>b 地域連携軸</u> 地域間の交流・連携を担う軸で、国道 256 号を位置づける。</p> <p><u>c 骨格的連携軸</u> 都市地域における骨格的な交流・連携を担う軸で、広域交通・地域振興拠点と中心市街地等を結ぶ骨格道路などを位置づける。</p> <p><u>(ウ) 土地利用ゾーン</u> 主要な土地利用ゾーンとして以下のように区分し、計画的な土地利用の推進を図る。</p> <p><u>a 商業系</u> (中心市街地、幹線道路沿道、J R 飯田線主要駅周辺の近隣商業地など)</p> <p><u>b 工業系</u> (松尾・鼎・川路・竜丘地区等の工業集積地など)</p> <p><u>c 住宅系他</u> (既成市街地やその周辺の住宅地、農業集落地など)</p> <p><u>d 農地系</u> (市街地周辺に広がる農業地域)</p> <p><u>e レクリエーション系</u> (大規模公園など)</p> <p><u>f 緑地系</u> (本区域の北部から西部及び段丘崖線に広がる森林地域)</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>2. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針</p> <p>2.1 区域区分の決定の有無</p> <p><u>本都市計画に区域区分を定めない。</u></p> <p>なお、区域区分を定めないとした根拠は、次のとおりである。</p> <p>① 県による同一基準での判断結果</p> <p>県では、人口の動向、土地利用の状況に着目し、県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性を高いと判断した。その概要は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地（用途地域）内の人口増加よりも市街地外の人口増加数の方が多い。 ・人口の伸びや2・3次産業従業者数の伸びが見られ、市街地拡大の可能性がある。 ・市街地内道路面積が標準以下などにより計画的な市街地整備の必要性がある。 <p>② 地域特性を考慮した区域区分の検討</p> <p>本区域の市街地外においては、農業振興地域の整備に関する法律に定められた農用地区域森林法に定められた地域森林計画対象森林、保安林指定などの他法令によって指定されているとともに、飯田市が制定している「飯田市環境基本条例」等によって規制・誘導されている。また、都市計画制度による土地利用の規制・誘導を進め、用途地域を市街地整備の中心として位置付け、周囲の田園との土地利用の区分を明確にし、計画的な土地利用を推進してきた。</p> <p>今後このような方策を継続し、自然と調和したまちづくりを進める方針であるため、急激かつ無秩序な市街化は進行しないものと考えられる。</p>	<p>4. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針</p> <p>(1) 区域区分の決定の有無</p> <p><u>本都市計画に区域区分を定めない。</u></p> <p>なお、区域区分を定めないとした根拠は、次のとおりである。</p> <p>ア 県による同一基準での判断結果</p> <p>県では、人口の動向、土地利用の状況等に着目し、県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性をやや高いと判断した。その概要は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の推移は、市街地内では減少傾向、市街地外では増加傾向と逆転現象が生じており、さらに、市街地外での農地転用率は県平均値よりも高いことから、市街地外への宅地化の拡散抑制の必要性は高い。 ・行政区域人口は10万人以上で都市の集積性は高いが、人口の伸び率は全体として減少傾向にあり、第2次・3次産業の従業者数の伸び率も県平均値を下回っていることから、市街地拡大の可能性は低い。 ・市街地内の道路面積は、住宅地として望ましい標準的な目安を上回っているが、市街地内の都市的土地利用率は県平均より低いため、計画的な市街地整備の必要性は高い。 <p>イ 地域特性を考慮した区域区分の検討</p> <p>本区域の市街地外においては、「農業振興地域の整備に関する法律」に定められた農用地区域、「森林法」に定められた地域森林計画対象森林、保安林などの他法令によって指定されているとともに、飯田市が制定している「飯田市環境基本条例」や「飯田市土地利用調整条例」等によって、一定の環境の保全等が図られている。また、都市計画制度による土地利用の規制・誘導を進め、用途地域を市街地整備の中心として位置付け、周囲の田園との土地利用の区分を明確にし、計画的な土地利用を推進してきた。</p> <p>今後このような方策を継続し、自然と調和した都市づくりを進める方針であるため、急激かつ無秩序な市街化は進行しないものと考えられる。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>また、<u>区域区分制度</u>の導入について、その必要性や効果、規制内容などについて十分な説明と議論が必要であり、地域住民の合意形成が不可欠である。</p> <p>③ <u>区域区分以外の各種都市計画手法の適用を前提として「区域区分」は行わない</u></p> <p>本区域は、①では区域区分の必要性が高いと判断されたが、②に示す地域特性を踏まえ、<u>区域区分は行わないこととする。</u></p> <p>ただし、区域区分制度は開発許可制度と連動して、良好な居住環境や農村環境を形成するために効果的かつ体系化された法制度であることから、その活用に向けて継続的な検討及び地域への働きかけを行うものとする。</p> <p><u>当面は区域区分制度以外の都市計画手法による土地利用の規制・誘導を進め、必要な都市基盤の整備、充実を図るとともに、優良農地や農村環境の保全など周辺環境と調和した計画的な土地利用を図る。</u></p> <p>このような本区域の状況と考え方を踏まえて、以下のような方針とする。</p>	<p><u>一方、区域区分の導入については、その必要性や効果、規制内容などについて十分な説明と議論、さらに、</u>地域住民の合意形成が不可欠である。</p> <p>③ <u>区域区分以外の各種都市計画手法の適用を前提として「区域区分」は行わない</u></p> <p>本区域は、<u>ア</u>では区域区分の必要性が<u>やや高い</u>と判断されたが、<u>イ</u>に示す地域特性や人口動向を踏まえると、今後、<u>急激な市街化は考えにくい。</u></p> <p><u>このため、当面は区域区分以外の都市計画手法による土地利用の規制・誘導を進め、必要な都市基盤の整備・充実を図るとともに、優良農地や農村環境の保全など周辺環境と調和した計画的な土地利用を図ることが適切である。</u></p> <p>ただし、区域区分は開発許可制度と連動して、良好な居住環境や農村環境を形成するために効果的かつ体系化された法制度であることから、その活用に向けて継続的な検討及び地域への働きかけを行うものとする。</p> <p>このような本区域の状況と考え方を踏まえて、以下のような方針とする。</p>
<p>本区域は、今後、他の法令との適切な連携のもとで、各種都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現を前提として、当面、区域区分を定めない。</p>	<p>本区域は、今後、他の法令との適切な連携のもとで、<u>区域区分以外の各種都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現を前提として、当面、区域区分を定めない。</u></p> <p><u>なお、市街地が行政区域を越えて連たんしている区域では、実質的な一体の都市としての都市計画区域の再編を検討し、一体の都市としての区域区分の有無について検討する必要がある。</u></p>

旧 (現行計画)

(参考)

「区域区分」とは

「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」といわれている。

「区域区分」を「する」か「しない」かは県で判断

平成 12 年 5 月の改正以前の都市計画法では、「線引き」をするか、しないかは国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。しかし、高度成長期の「都市型社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成 12 年 5 月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。

2.2 区域区分の方針

前項で記述のとおり本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくり実現に向け、今後の人口、産業規模について以下のとおり参考標記する。

(1) おおむねの人口

本区域の将来におけるおおむねの人口を、次のとおり想定する。

表－1. おおむねの将来人口

区 分	年 次	平成 12 年 (基準年)	平成 22 年 (基準年の 10 年後)
都市計画区域内人口		94.4 千人	おおむね 95.5 千人

(注) 平成 12 年欄は「都市計画基礎調査による実績値を、平成 22 年欄はコー

ホート法による将来推計値を示す

新 (変更計画)

(参考)

「区域区分」とは

「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」といわれている。

「区域区分」を「する」か「しない」かは県が判断

平成 12 年 5 月の改正以前の都市計画法では、「区域区分」を「する」か、「しない」かは国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。

しかし、高度成長期の「都市化社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成 12 年 5 月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。

(2) 区域区分の方針

前項で記述のとおり本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくりの実現に向け、今後の人口について以下のとおり参考標記する。

ア おおむねの人口

本区域の将来におけるおおむねの人口を、次のとおり想定する。

表－1 おおむねの将来人口

区 分	年 次	平成 17 年 (基準年)	平成 27 年 (中間年)	平成 32 年 (目標年)
都市計画区域内人口		88.8 千人	おおむね 90.5 千人	おおむね 89.0 千人

(注) 平成 17 年基準年人口は、「国勢調査」及び「都市計画基礎調査」による統計値。(山本地区 (平成 20 年都市計画区域指定) を含まない。)

平成 27 年及び平成 32 年欄の都市計画区域人口は、国立社会保障・人口問題研究所によるコーホート要因法により算出した行政区域人口から、回帰式による都市計画区域外人口を減じて算定。(山本地区を含む。)

旧（現行計画）		新（変更計画）	
<div>(2) 産業の規模</div> <div>本区域の将来における産業の規模を、次のとおり想定する。</div>			
表－2. 産業の規模			
次	年	平成 12 年 （基準年） 生産規模については 平成 11 年	平成 22 年 （基準年の 10 年後） 工業出荷額については 平成 23 年
区分	工業出荷額	2,620 億円 (H11)	3,220 億円 (H23)
	卸小売販売 額	3,195 億円 (H11)	3,291 億円
就業 構造	第一次産業	6.5 千人 (10.8%)	6.2 千人 (11.1%)
	第二次産業	22.2 千人 (36.8%)	19.1 千人 (34.2%)
	第三次産業	31.7 千人 (52.4%)	30.6 千人 (54.7%)
(注) 平成 12 年欄は「都市計画基礎調査」による実績値を、平成 22 年欄は、平成 17 年の「国勢調査」による将来推計値を示す。			

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>3. 主要な都市計画の決定の方針</p> <p>3.1 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 主要用途の配置の方針</p> <p>1) 商業地</p> <p>① 中心市街地 (通称「丘の上」)</p> <p>モータリゼーションの進展や少子高齢化、或いは環境共生といった時代のニーズを満たし、将来にわたって圏域の中核業務機能や地域都市文化等の発信地としての役割を担うため、中核的商業機能を J R 飯田線飯田駅から中央通り、銀座等の商店街や本町の再開発地域を中心とした地域に集約・再編する。</p> <p>そして、その周辺に近隣住民の日常生活のための各種地域密着型サービスの提供を担う地域を整備するとともに、住環境の整備と生活支援機能を強化し、地方都市における新たな中心市街地としての集積を高めるものとする。</p> <p>② 幹線道路沿道</p> <p>一般国道 153 号飯田バイパス及び座光寺・上郷地区の一般国道 153 号沿道等については、自動車利用特化型のショッピングセンターや大型専門店群の集積地であり、中心市街地の商業機能を補完する広域型ないし準広域型の商業機能を担うものとして、現状の交通利便性を活用した都市的土地利用を継続するものとする。</p> <p>また、竜丘地区の一般国道 151 号沿道にも準広域型の商業機能が集積しているが、これら地域については、周辺の住環境等との調和を図ることに留意する。</p> <p>今後、三遠南信自動車道の天龍峡インターチェンジ並びに飯田山本インターチェンジの設置に伴うアクセス道路が整備されること及び、一般国道 153 号飯田バイパスが南北に延伸されるに伴う、これら沿道地域や主要地方道飯島飯田線沿道地域については、周辺の自然環境や住環境、更には農業などとの調和を図る中で、新たな都市の郊外化に繋がることのないよう、特定用途制限地域の指定や土地利用条例等により抑制的・計画的な集積を図る。</p>	<p>5. 主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>A 主要用途の配置の方針</p> <p>(7) 商業地</p> <p>a 中心市街地 (通称「丘の上」)</p> <p>車社会の進展や少子高齢化、或いは環境共生といった時代のニーズを満たし、将来にわたって<u>飯伊圏域</u>の中核業務機能や地域都市文化等の発信地としての役割を担うため、中核的商業機能を J R 飯田駅から中央通り、銀座等の商店街や本町の再開発地域を中心とした地域に集約・再編し、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住促進等を図る。</p> <p>そして、その周辺に近隣住民の日常生活のための各種地域密着型サービスの提供を担う地域を整備するとともに、住環境の整備と<u>少子高齢化社会に対応した</u>生活支援機能を強化し、地方都市における新たな中心市街地としての集積を高めるものとする。</p> <p>b 幹線道路沿道</p> <p>一般国道 153 号飯田バイパス及び座光寺・上郷地区の一般国道 153 号沿道等については、自動車利用特化型のショッピングセンターや大型専門店群の集積地であり、中心市街地の商業機能を補完する広域型ないし準広域型の商業機能を担うものとして、現状の交通利便性を活用した都市的土地利用を継続するものとする。</p> <p>また、竜丘地区の一般国道 151 号沿道にも準広域型の商業機能が集積しているが、これら地域については、周辺の住環境等との調和を図ることに留意する。</p> <p>中央自動車道及び三遠南信自動車道インターチェンジへのアクセス道路や新たな幹線道路沿道地域については、周辺の自然環境や住環境、更には農業などとの調和を図る中で、新たな都市の郊外化に繋がることのないよう、特定用途制限地域の指定や土地利用条例等により抑制的・計画的な集積を図る。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>③ 近隣型商業地 <u>松尾伊那八幡駅周辺</u>などでは、主として近隣レベルの住民の日常生活のニーズに応える最寄り品を中心とした商店街を形成しており、今後とも、生活関連としての商業機能の維持増進を図る。</p> <p>2) 工業地 <u>松尾地区</u>などの既存工業集積地は、道路や企業用地内の緑化などによる環境対策をさらに進めつつ、交通拠点施設との連絡性強化など生産活動基盤の拡充を図る。 <u>鼎地区</u>などに点在する家内工業的企業は、地域工場産業の重要な担い手であることから、<u>周辺の住環境</u>などとの調和を図る中で、<u>継続的に立地する</u>。 <u>川路・竜丘地区</u>では、<u>飯田市の天竜川エコバレープロジェクト</u>に対応した、<u>環境関連産業やベンチャー企業群の集積を高め、新しい環境産業のモデルゾーン</u>として緑に包まれたフアクトリーパークを整備する。</p> <p>3) 住宅地 i. 橋北・橋南・東野・丸山・羽場地域 橋北・橋南・東野の中核的業務・商業地を除く地域は、<u>環境共生を踏まえたユニバーサルデザイン</u>による都市型居住地域として再編する。また、<u>再開発地区は、立体的なミクスTUREを進め、中層階に居住ゾーンを整備する</u>。 宮ノ上地区については、<u>利便性の高い住宅地の形成</u>を図る。 丸山羽場地区の中央自動車道以西で既に宅地化が進んでいる地区等は、<u>周囲に展開する近郊型農業との調和</u>を図る中で、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。 羽場大瀬木線沿道部については、<u>区画整理事業によって創出された良好な居住環境の保持に十分留意しながら沿道型住宅地の形成</u>を図る。 丸山羽場地区の市街地に隣接する地区は、<u>地域住民と行政が「まちづくり」という共通の視点・目標にたって十分な議論を行い、地域のニーズに応じた協働のまちづくりを進めるものとする</u>。</p>	<p>c 近隣型商業地 <u>JR伊那八幡駅周辺</u>などでは、主として近隣レベルの住民の日常生活のニーズに応える最寄り品を中心とした商店街を形成しており、今後とも、生活関連としての商業機能の維持増進を図る。</p> <p>(4) 工業地 既存工業集積地は、道路や企業用地内の緑化などによる環境対策をさらに進めつつ、交通拠点施設との連絡性強化など生産活動基盤の拡充を図る。 川路・竜丘地区では、<u>天竜川エコバレープロジェクトをはじめとして、三遠南信南信自動車道天竜峡インターチェンジからのアクセスの利便性を活かした環境関連産業の集積を図る</u>。</p> <p>(ウ) 住宅地 a 橋北・橋南・東野・丸山・羽場地域 橋北・橋南・東野の中核的業務・商業地を除く地域は、<u>環境への配慮や、ユニバーサルデザイン</u>による都市型居住地域として再編する。また、<u>中心市街地の高度利用や居住促進を図るため、計画的な再開発の促進を図る</u>。 宮ノ上地区については、<u>利便性の高い住宅地の形成</u>を図る。 丸山・羽場地区の中央自動車道以西で既に宅地化が進んでいる地区等は、<u>周囲に展開する近郊型農業との調和</u>を図る中で、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。 羽場大瀬木線沿道部については、<u>区画整理事業によって創出された良好な居住環境の保持に十分留意しながら沿道型住宅地の形成</u>を図る。 丸山・羽場地区の市街地に隣接する地区は、<u>地域住民と行政が「まちづくり」という共通の視点・目標にたって十分な議論を行い、地域のニーズに応じた協働のまちづくりを進めるものとする</u>。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>* ユニバーサルデザイン：障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず、多様な人々が気持ちよく使えるように、あらかじめ都市や生活環境を計画しようとする考え方</p> <p>ii. 上郷・座光寺地域 上郷桜畑地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。 J R 飯田線伊那上郷駅付近については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。</p> <p>iii. 鼎地域 矢高中央公園周辺の地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。</p> <p>iv. 伊賀良地域 西原地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。 大森、野池地区等については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。</p> <p>v. 松尾・川路・竜丘・山本地域 松尾常盤台地区については、利便性の高い中低層住宅地の形成を図る。 松尾水城地区等については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。</p>	<p>b. 上郷・座光寺地域 上郷桜畑地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。 J R 伊那上郷駅付近については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。 <u>リニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺においては、周辺環境との調和を図りつつ、適切な土地利用を検討する。</u></p> <p>c. 鼎・伊賀良・松尾地域 矢高中央公園周辺の地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。 <u>西の原地区等は、生活道路をはじめとする都市基盤施設等の整備を進めつつ、うるおいある環境を有する低層住宅地の形成を図る。</u> 大森、野池地区等については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。 <u>松尾常盤台地区については、利便性の高い中低層住宅地の形成を図る。</u> <u>松尾水城地区等については、周辺環境との調和に留意しつつ、質の高い居住環境の形成を図る。</u></p> <p>d. 川路・竜丘・山本地域 川路地区は、里山と住居とが均衡した地域であり、今後ともこの地域景観が保持されるよう、土地利用に留意する。 <u>天竜川治水対策事業によって生み出された川路・竜丘地区にまたがる天龍峡エコバレー地域は、三遠南信自動車道天龍峡インターチェンジからのアクセス利便性の向上、名勝天龍峡と周辺の観光資源を活かし、緑豊かな自然環境と調和した土地利用の形成を図る。</u> <u>竜丘地区は、都市化が進展しており、全体として都市と田園が調和した低層住居系の土地利用の形成を図る。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>(2) 土地利用の方針</p> <p>1) 土地の高度利用に関する方針</p> <p>「丘の上」と呼ばれる飯田市の中心市街地は、安土桃山時代の町割り以来の古い歴史を持ち、多くの商業、業務施設および官公庁施設が集積している。近年、人口の空洞化や高齢化、郊外部での新たな商業集積が進む中で、都市活動の比重が低下しつつあるが、今なお飯伊圏域の拠点として市民生活を支える多様な都市サービスの提供を担っている。</p> <p>引き続き圏域における拠点性を維持・拡充するため、土地の高度利用を図り、商業機能や消費サービス機能を強化していく。</p> <p>その際、新しい文化の創出につながるような多様な交流を実現する施策の支援・促進に努め、都市基盤整備においてもりんご並木をはじめ特徴ある街並みと流水を活用するなどして潤いのある魅力的な空間を整備し、来街者の滞留とリピートを促して、賑わいと活力のあるまちづくりに努める。</p> <p>また、中心市街地の衰退の原因のひとつは人口の空洞化にあることから、再開発による住宅の供給や、生活支援サービスの充実など、中心市街地での定住人口の維持に努める。また高齢社会に対応して公共空間のバリアフリー化に努めるとともに、中心市街地へ至る公共交通体系の整備によりアクセス条件の改善にも努める。</p> <p>2) 居住環境の改善又は維持に関する方針</p> <p>老朽建物の密集や生活道路などの公共施設が未整備な地区については、居住環境の改善や防災上の観点から、地域特性に応じた適切な手法により環境改善を図る。</p>	<p>山本地区は、三遠南信自動車道飯田山本インターチェンジからのアクセス利便性を活かしつつ、良好な自然環境や田園環境と調和した計画的な土地利用の推進を図る。</p> <p>イ 土地利用の方針</p> <p>(7) 土地の高度利用に関する方針</p> <p>「丘の上」と呼ばれる飯田市の中心市街地は、安土桃山時代の町割り以来の古い歴史を持ち、多くの商業、業務施設及び官公庁施設が集積している。近年、人口の空洞化や高齢化、郊外部での新たな商業集積が進む中で、都市活動の比重が低下しつつあるが、今なお飯伊圏域の都市拠点として市民生活を支える多様な都市サービスの提供を担っている。</p> <p>引き続き飯伊圏域における都市拠点としての拠点性を維持・強化するため、土地の高度利用を図るとともに、「飯田市中心市街地活性化基本計画」に基づき、商業機能や消費サービス機能を強化していく。</p> <p>その際、新しい文化の創出につながるような多様な交流を実現する施策の支援・促進に努め、都市基盤整備においてもりんご並木をはじめ特徴ある街並みと流水を活用するなどしてうるおいのある魅力的な空間を整備し、来街者の滞留とリピートを促して、賑わいと活力のあるまちづくりに努める。</p> <p>また、中心市街地の衰退の原因のひとつは人口の空洞化にあることから、再開発等による都市型住宅の供給や、生活支援サービスの充実など、中心市街地での定住人口の維持及び居住の促進に努める。また高齢化社会に対応して公共空間のユニバーサルデザインに努めるとともに、安全・快適な歩行環境の整備、中心市街地へ至る公共交通体系の整備によりアクセス条件の改善にも努める。</p> <p>(4) 居住環境の改善又は維持に関する方針</p> <p>老朽建物の密集する地区や生活道路などの公共施設が未整備な地区については、居住環境の向上や防災上の観点から、地域特性に応じた適切な手法により環境改善を図る。</p> <p>面整備が完了した地区においては、良好な住環境の維持と良好なまちなみの形成を図る。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>③) 優良な農地との健全な調和に関する方針 市街地周辺から周囲の山麓部に展開する農地は、食料生産の場であると同時に、洪水防止機能、水資源涵養機能の他にも多様な動植物の生息地としても機能している。また、そこに展開する谷地水田、棚田は農民が先祖から延々と受け継いできたものであり、点在する集落をも含め美しい景観を形成するとともに、地域文化の集成として貴重な財産の一つである。 これら<u>農業・農村地域</u>の多面的な機能を将来的にも継承し続けるべく、<u>保全を原則とする</u>。 なお、遊休農地等の有効利活用や農業に関わる観光・レクリエーション機能の導入などについては、周辺環境への影響に十分留意しながらより計画的に対応する。</p> <p>4) 災害防止の観点から必要な市街地の抑制に関する方針 急傾斜地の崩壊、土石流、<u>地滑り</u>の土砂災害の恐れのある地域において、住民の生命及び身体を保護するため、建築物の立地抑制等を図る区域を「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等として指定を行うことを推進する。</p> <p>5) 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針 本区域は水と緑に恵まれた雄大な自然環境を有しており、特に自然公園に指定されている天竜川と松川の河岸段丘によって形成された独特の地形により、市全体が立体的で特徴ある景観をつくっている。 河岸段丘の傾斜地に存する斜面樹林や、多様な価値を有する里山については、自然環境の重要な要素として保全・育成しつつレクリエーション機能の充足を図るとともに、<u>河川</u>については、治水機能にも十分留意しながら<u>水源</u>の確保と親水性の向上に努める。</p>	<p>(ウ) 優良な農地との健全な調和に関する方針 市街地周辺から周囲の山麓部に展開する農地は、食料生産の場であると同時に、洪水防止機能、水資源涵養機能の他にも多様な動植物の生息地としても機能している。また、そこに展開する谷地水田、棚田は農民が先祖から延々と受け継いできたものであり、点在する集落をも含め美しい景観を形成するとともに、地域文化の集成として貴重な財産の一つである。 これら<u>農地</u>の多面的な機能を将来的にも継承し続けるため、「<u>飯田市農業振興地域整備計画</u>」に基づき、<u>優良農地として保全を図る</u>。 なお、遊休農地等の有効利活用や農業に関わる観光・レクリエーション機能の導入などについては、周辺環境への影響に十分留意しながらより計画的に対応する。</p> <p>(イ) 災害防止の観点から必要な市街地の抑制に関する方針 急傾斜地の崩壊、土石流、<u>地すべり</u>の土砂災害のおそれのある地域において、住民の生命及び身体を保護するため、建築物の立地抑制等を図る区域を「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に<u>指定することにより、適切な土地利用を図る</u>。 また、<u>砂防法、地すべり等防止法、急傾斜地崩壊防止法により、指定された区域内及び保安林においては、土地の形質変更等、土砂災害を誘発する行為を制限する</u>。</p> <p>(オ) 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針 本区域は水と緑に恵まれた雄大な自然環境を有しており、特に自然公園に指定されている天竜川と松川の河岸段丘によって形成された独特の地形により、市全体が立体的で特徴ある景観をつくっている。 河岸段丘の傾斜地に存する斜面樹林や、多様な価値を有する里山については、<u>良好な都市環境を維持する上でも重要な要素であることから、「生物多様性ながの県戦略」に基づき、生物多様性に配慮しながら、自然資源の保全を図る</u>。 河川については、治水機能にも十分留意しながら<u>水資源</u>の確保と親水性の向上に努める。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>6) 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針</p> <p>一般国道 153 号飯田バイパスや広域農道などの幹線道路沿道を中心に都市化が進み、農地の宅地化が<u>無秩序に進んでいる</u>。都市的土地利用と農業地域との棲み分けによる共存のために農地の集約化や宅地化の<u>規制</u>などの適切な対応が求められる。そのため、<u>幹線道路沿道については、適切な土地利用規制を行っていく。</u></p> <p>なお、土地利用制限を特に必要とする幹線道路沿道については、関係機関と調整を図りながら、<u>特定用途制限地域や土地利用条例等により規制を行っていく。</u></p> <p><u>用途地域の指定のない地域については、容積率制限等によって無秩序な都市化を抑制していく必要がある</u>、<u>建ぺい率・容積率・斜線制限については区域毎に制限を定める。歴史的経緯等による家屋集積の実態を踏まえ、「時又中央地区」、「天竜峡地区」は個別の容積率・建ぺい率・斜線制限を定める。</u></p> <p>3.2 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 交通施設の都市計画の決定の方針</p> <p>1) 基本方針</p> <p>i. 交通体系の整備の方針</p> <p>本区域は、広域連携軸として位置づけられる中央自動車道及び現在整備が進められている三遠南信自動車道が分岐する<u>飯伊圏域における交通要衝地であり、また飯伊圏域の中心都市としての役割を担っている。</u></p> <p>圏域の住民生活や産業活動を支えるうえで必要な各地域拠点との交流・連携を促進するとともに、飯田市街地における交通集中を解消し、スムーズな交通流動の確保と中心市街地の活性化に寄与するための総合的な交通ネットワークを構築する必要がある。</p> <p>そのため広域道路ネットワークの一環をなす一般国道 151 号及び 153 号・一般国道 153 号飯田バイパス・<u>都市計画道路羽場大瀬木線などで構成される都市環状道路を骨格的交通軸と位置づけ、計画的・重点的に整備を図る。</u></p>	<p>(カ) 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針</p> <p>一般国道 153 号飯田バイパスや広域農道などの幹線道路沿道を中心に都市化が進み、農地の宅地化が進んでいるが、都市的土地利用と農業地域との棲み分けによる共存のために農地の集約化や宅地化の<u>抑制</u>などの適切な対応が求められる<u>ことから、幹線道路沿道については、計画的な土地利用の誘導を図る。</u></p> <p>なお、土地利用制限を特に必要とする幹線道路沿道については、関係機関と調整を図りながら、<u>必要に応じて用途地域の拡大、特定用途制限地域などの手法により、適切な土地利用の誘導を図る。</u></p> <p><u>リニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺については、周辺環境との調和を図りつつ、適切な土地利用を検討する。</u></p> <p><u>また、用途地域の指定のない地域についても、幹線道路沿道と同じように、用途地域の拡大や特定用途制限地域などの手法により適切な土地利用の誘導を図る。</u></p> <p>(2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>A 交通施設の都市計画の決定の方針</p> <p>(7) 基本方針</p> <p>a 交通体系の整備の方針</p> <p>本区域は、広域連携軸として位置づけられる中央自動車道及び現在整備が進められている三遠南信自動車道が分岐する交通要衝地であり、飯伊圏域の中心都市としての役割を担っている。</p> <p><u>本区域内に設置が予定されているリニア中央新幹線長野県駅（仮称）と中心市街地等との交通体系を検討し、飯伊圏域の住民生活や産業活動を支えるうえで必要な各地域拠点との交流・連携を促進するとともに、飯田市街地における交通集中を解消し、スムーズな交通流動の確保と中心市街地の活性化に寄与するための総合的な交通ネットワークを構築する必要がある。</u></p> <p>そのため、<u>広域道路ネットワークの一環をなす一般国道 151 号及び 153 号・一般国道 153 号飯田バイパス、都市計画道路羽場大瀬木線などで構成される都市環状道路や高規格幹線道路インターチェンジへのアクセス道路を骨格的交通軸と位置づけ、計画的・重点的に整備を図る。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>また、都市計画道路整備プログラムなどにより、骨格的交通軸を補完し、地域の経済活動や生活を支える道路を投資効果に照らして緊急性の高い路線から計画的に整備を図る。</p> <p>さらに、J R 飯田線やバス交通など、通学や高齢者など車を持たない人の移動に不可欠な公共交通体系の存続・拡充を図り、環境にやさしく移動の移動に優れた公共交通体系の整備を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●骨格的交通軸を優先的・重点的に整備する。 ●市民の交通移動性の向上のために、地域道路網の整備改良を計画的に推進する。 ●地域の地形や環境に調和した、歩行者や運転者に安全で快適な、親しみと潤いのある美しい道路づくりを推進する。 ●住民誰もが便利に使える公共交通条件の整備、確保に努める。 ●新たな魅力づくりを支える交通基盤整備の推進に努める。 <p>ii. 整備水準の目標</p> <p>■道路</p> <p>都市計画道路については、平成 18 年度末現在、改良率は 53%であり、主要幹線道路、幹線道路のほか、広域農道をあわせ、おおむね 20 年後には市街地全体として 3.5km/k m² (都市計画中央審議会 (昭和 58 年 5 月中間答申) による整備水準の目標の目安値) 程度となることを目標とする。</p>	<p>また、<u>都市計画決定されてから長期間未着手となっている路線もあり、都市計画道路整備プログラムなどにより、都市計画道路網の見直しを図り、骨格的交通軸を補完し、地域の経済活動や生活を支える道路を投資効果に照らして緊急性の高い路線から計画的に整備を図る。</u></p> <p>さらに、J R 飯田線やバス交通など、通学や高齢者など車を持たない人の移動に不可欠な公共交通の<u>利用促進と存続・拡充を図り、環境にやさしく移動の移動に優れた公共交通体系の整備を図る。</u></p> <p><u>以上を踏まえ、本区域の交通体系の整備の方針は次のとおりとする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●骨格的交通軸を優先的・重点的に整備する。 ●市民の交通移動性の向上と<u>防災機能の強化を図るため</u>、地域道路網の整備改良を計画的に推進する。 ●地域の地形や環境に調和した、歩行者や運転者に安全で快適な、親しみと<u>うるおいのある美しい道路づくり</u>を推進する。 ●住民誰もが便利に使える公共交通条件の整備、確保に努める<u>とともに、公共交通の利用促進による環境負荷の小さい低炭素型都市づくりを促進する。</u> ●新たな魅力づくりを支える交通基盤整備の推進に努める。 ●<u>長期間未着手となっている都市計画道路の見直しを図る。</u> <p>b 整備水準の目標</p> <p>(a) 道路</p> <p>都市計画道路については、<u>44 路線、約 80km が都市計画決定されており、平成 25 年 3 月末現在、整備率は総延長の約 56%となっている。</u></p> <p><u>今後とも、計画的な道路の配置と整備の推進を図る。</u></p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>2) 主要な施設の配置の方針</p> <p>■ 主要幹線道路：広域的な都市間の交通流動を担う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中央自動車道 ● 三遠南信自動車道 ● 都市計画道路 3.3.4 羽場大瀬木線 (主要地方道飯島飯田線) ● 都市計画道路 3.3.5 大門今宮線 ● 都市計画道路 3.4.6 北方飯沼線 (一般国道 153 号バイパス) ● 都市計画道路 3.4.7 中央通り線 (一般国道 151 号等) ● 都市計画道路 3.3.39 大門座光寺線 (主要地方道飯島飯田線等) ● 都市計画道路 3.3.40 桐林大明神原線 <p>■ 幹線道路：主要幹線を補完し、本区域の都市構造の骨格形成を担う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都市計画道路 3.4.16 下山妙琴原線 (一般県道青木東鼎線) ● 都市計画道路 3.3.19 時又中村線 (一般県道時又中村線) ● 都市計画道路 3.5.22 小沼飯田線 (一般県道市場桜町線) ● 都市計画道路 3.6.25 知久町中村線 (一般国道 256 号等) <p>3) 主要な施設の整備目標</p> <p>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。</p>	<p>(1) 主要な施設の配置の方針</p> <p>a 道路</p> <p>(a) 主要幹線道路：広域的な都市間の交通流動を担う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中央自動車道 ● 三遠南信自動車道 ● 都市計画道路 3.3.4 号 羽場大瀬木線 (主要地方道飯島飯田線) ● 都市計画道路 3.3.5 号 大門今宮線 ● 都市計画道路 3.4.6 号 北方飯沼線 (一般国道 153 号バイパス) ● 都市計画道路 3.4.7 号 中央通り線 (一般国道 151 号等) ● 都市計画道路 3.3.39 号 大門座光寺線 (主要地方道飯島飯田線等) ● 都市計画道路 3.3.40 号 桐林大明神原線 ● リニア中央新幹線長野県駅 (仮称) のアクセス道路 <p>(b) 幹線道路：主要幹線を補完し、本区域の都市構造の骨格形成を担う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都市計画道路 3.4.16 号 下山妙琴原線 (一般県道青木東鼎線) ● 都市計画道路 3.4.12 号 日之出町江戸町線 ● 都市計画道路 3.4.19 号 時又中村線 (一般県道時又中村線) ● 都市計画道路 3.5.22 号 小沼飯田線 (一般県道市場桜町線) ● 都市計画道路 3.6.25 号 知久町中村線 (一般国道 256 号等) ● リニア中央新幹線長野県駅 (仮称) のアクセス道路 <p>b 駐車場</p> <p>各拠点において、今後の需要を見定めながら駐車場の整備を推進する。</p> <p>(7) 主要な施設の整備目標</p> <p>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)		新 (変更計画)	
表－4. おおむね10年以内に整備することを予定する施設		表－2 おおむね10年以内に整備することを予定する施設	
都市施設	名称等	都市施設	名称等
道 路	●三遠南信自動車道	●三遠南信自動車道	
	●都市計画道路3・3・4 羽場大瀬木線 (主要地方道飯島飯田線)	●都市計画道路3・3・4 羽場大瀬木線 (主要地方道飯島飯田線)	
	●都市計画道路3・4・6 北方飯沼線 (一般国道153号バイパス)	●都市計画道路3・4・7 中央通り線 (一般国道151号)	
	●都市計画道路3・4・7 中央通り線 (一般国道151号)	●都市計画道路3・4・16 下山妙琴原線 (一般県道青木東鼎線)	
	●都市計画道路3・4・16 下山妙琴原線 (一般県道青木東鼎線)	●都市計画道路3・4・23 号飯田中津川線 (主要地方道飯田南木曽線)	
		●リニア中央新幹線長野県駅 (仮称) のアクセス道路	

(2) 下水道及び河川の都市計画の決定の方針

1) 基本方針

i. 下水道及び河川の整備の方針

これからの市街化の動向等を見据えつつ、河川等の水質保全とともに生活環境の改善を図り、健全な都市環境の形成を図る。

また、降水時の雨水等の流出を抑制し、災害の発生を未然に防止すべく、森林や農地の保全を含む総合的な流出抑制策を講ずる。

■下水道

下水道の全体計画区域を早期整備し、河川等の水質の保全及び市街地における浸水防止等を図る。

■河川

本区域には一級河川天竜川をはじめ、南大島川、土曾川、野底川、松川、毛賀沢川、新川、茂都計川、久米川や、これらの支川がある。このため、流域内の土地利用の動向、地域社会と河川との関わり、市街地での水害に対する安全確保の状況等を踏まえた治水対策を進める。

改修や施設整備にあたっては、安全確保に必要な機能を確保するとともに、区域内の利水状況、自然の河川の持つ環境保全、レクリエーション利用等の多面的な機能を活かした水辺環境の形成に留意する。

1 下水道及び河川の都市計画の決定の方針

(7) 基本方針

a 下水道及び河川の整備の方針

これからの市街化の動向等を見据えつつ、河川等の水質保全とともに生活環境の改善を図り、健全な都市環境の形成を図る。

また、降水時の雨水等の流出を抑制し、災害の発生を未然に防止すべく、森林や農地の保全を含む総合的な流出抑制策を講ずる。

(a) 下水道

公共下水道普及率は、平成25年3月末現在82.1%となっている。今後も、既存施設の適正な維持管理と必要に応じた修繕や改築に努める。

(b) 河川

本区域には一級河川天竜川をはじめ、南大島川、土曾川、野底川、松川、毛賀沢川、新川、茂都計川、久米川、毛賀沢川や、これらの支川がある。このため、流域内の土地利用の動向、地域社会と河川との関わり、市街地での水害に対する安全確保の状況等を踏まえた治水対策を進める。

河川の改修や施設整備にあたっては、安全確保に必要な機能を確保するとともに、区域内の利水状況、自然の河川の持つ環境保全、レクリエーション利用等の多面的な機能を活かした水辺環境の形成に留意する。

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>ii. 整備水準の目標</p> <p>■ 下水道 (汚水)</p> <p>既成市街地や市街地開発事業が行われる地区などを優先しつつ、計画区域内の面整備を完了する。</p> <p>(雨水)</p> <p>飯田処理区の整備を推進する。</p> <p>■ 河川</p> <p>本区域の河川は、一級河川の治水機能の向上を目指すとともに、その他の河川を含め、親水性の向上と周辺環境と調和した多自然型の河川整備に努める。</p> <p>2) 主要な施設の配置の方針</p> <p>■ 下水道</p> <p>本区域の公共下水道(特定環境保全公共下水道を含む)は分流式とし、飯田地区、川路地区、竜丘地区などを対象として整備を進める。</p> <p>また、松尾浄化管理センター、川路浄化センター、竜丘浄化センターは、人口の定着状況や処理区域内の面的整備事業などの進捗にあわせ、段階的に整備する。</p> <p>■ 河川</p> <p>一級河川については、河川の適正な維持管理、災害時の迅速な対応及び水防活動等への協力などに努め、民生の安定を図る。特に円悟沢川については、丸山羽場第二地区の土地区画整理事業と調整を図りながら整備を進め、それより下流についても住民の合意形成の図られた計画での河川整備に努め、民生の安定を図る。また、新戸川については住宅密集地での安全性の向上と生活環境の整備に努め、民生の安定を図る。松川については、既設ダムの再開発により、洪水調節と安定した水の供給を確保し、民生の安定を図る。</p>	<p>b 整備水準の目標</p> <p>a) 下水道 (汚水)</p> <p>平成25年度末には集合処理区内の整備が概ね完了し、今後は計画的維持管理と健全経営に努める。</p> <p>(雨水)</p> <p>既存施設を最大限に活用するなかで、安全な都市づくりのため総合的な観点に立ち雨水排水路の整備と宅地内からの雨水排出の抑制を図る。</p> <p>(b) 河川</p> <p>天竜川等の一級河川の治水機能の向上を目指すとともに、その他の河川を含め、親水性の向上と周辺環境に調和した「多自然川づくり」による河川整備に努める。</p> <p>(4) 主要な施設の配置の方針</p> <p>a 下水道</p> <p>既存施設の適正な維持管理と必要に応じた修繕や改築に努める。</p> <p>b 河川</p> <p>一級河川については、河川の適正な維持管理、災害時の迅速な対応及び水防活動等への協力などに努め、民生の安定を図る。特に円悟沢川については、住民の合意形成の図られた計画での河川整備に努め、民生の安定を図る。また、松川については、既設ダムの再開発により、洪水調節と安定した水の供給を確保し、民生の安定を図る。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧（現行計画）		新（変更計画）																		
<p><u>(3) 主要な施設の整備目標</u></p> <p>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。</p> <p>表一5. おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設</p> <table><tr><th>都市施設</th><th>名 称 等</th></tr><tr><td rowspan="4">下水道</td><td>飯田市公共下水道飯田処理区</td></tr><tr><td>飯田市公共下水道川路処理区</td></tr><tr><td>飯田市特定環境保全公共下水道竜丘処理区</td></tr><tr><td>飯田市特定環境保全公共下水道山本処理区</td></tr><tr><td rowspan="3">河 川</td><td>新戸川</td></tr><tr><td>円悟沢川</td></tr><tr><td>松川</td></tr></table>		都市施設	名 称 等	下水道	飯田市公共下水道飯田処理区	飯田市公共下水道川路処理区	飯田市特定環境保全公共下水道竜丘処理区	飯田市特定環境保全公共下水道山本処理区	河 川	新戸川	円悟沢川	松川	<p><u>(ウ) 主要な施設の整備目標</u></p> <p>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。</p> <p>表一3. おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設</p> <table><tr><th>都市施設</th><th>名 称 等</th></tr><tr><td rowspan="3">河 川</td><td>天竜川</td></tr><tr><td>円悟沢川</td></tr><tr><td>松川</td></tr></table>		都市施設	名 称 等	河 川	天竜川	円悟沢川	松川
都市施設	名 称 等																			
下水道	飯田市公共下水道飯田処理区																			
	飯田市公共下水道川路処理区																			
	飯田市特定環境保全公共下水道竜丘処理区																			
	飯田市特定環境保全公共下水道山本処理区																			
河 川	新戸川																			
	円悟沢川																			
	松川																			
都市施設	名 称 等																			
河 川	天竜川																			
	円悟沢川																			
	松川																			
<p><u>(3) その他の都市施設の都市計画の決定の方針</u></p> <p>1) 基本方針</p> <p>健康で文化的な都市環境の向上と良好な生活環境の確保をめざし、人口動態や市街化状況などに応じながら長期的展望から必要と判断されるその他の施設の整備を図る。</p>		<p><u>(7) その他の都市施設の都市計画の決定の方針</u></p> <p><u>(7) 基本方針</u></p> <p>高齢化社会の進展や多様化する生活様式に対応し、健康で文化的な都市生活や機能的な都市活動の確保を目標として、その他の都市施設の整備を行う。</p> <p><u>(1) 主要な施設の配置の方針</u></p> <p>a ごみ焼却場</p> <p>ごみ焼却場としては、南信州広域連合で運営している桐林クリーンセンターがあるが、地球温暖化対策などの時代的要請に基づき、南信州広域連合による一般廃棄物の広域処理を担う新たなごみ焼却施設の整備を図る。</p> <p>b 火葬場</p> <p>火葬場として飯田市斎苑を位置づけ、機能の維持及び向上を図る。</p> <p><u>(ウ) 主要な施設の整備目標</u></p> <p>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。</p>																		

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)										
<p>3.3 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 主要な市街地開発事業の決定の方針</p> <p>1) 土地区画整理事業</p> <p>丸山羽場第二地区では、中心市街地の活性化や生活拠点づくりの観点から、土地区画整理事業の導入により、公共施設の整備改善にあわせて良好な居住環境を創出する計画的なまちづくりを進める。</p> <p>2) 市街地再開発事業</p> <p>橋南地区においては、再開発の推進により、飯伊地域の消費者に高度で多様な消費サービスを提供する商業機能を整備するとともに、市民の文化活動を支援し地域文化を発信する拠点を生み出す。</p> <p>(2) 市街地整備の目標</p> <p>おおむね 10 年以内に実施することを予定する市街地開発事業は、次のとおりとする。</p> <p>表－6. おおむね 10 年以内に実施することを予定する市街地開発事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>市街地開発事業の種類</th><th>名称等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地区画整理事業</td><td>丸山羽場第二地区土地区画整理事業</td></tr> <tr> <td>市街地再開発事業</td><td>橋南第二地区第一種市街地再開発事業</td></tr> </tbody> </table>	市街地開発事業の種類	名称等	土地区画整理事業	丸山羽場第二地区土地区画整理事業	市街地再開発事業	橋南第二地区第一種市街地再開発事業	<p>表－4 おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>都市施設</th><th>名称等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ごみ焼却場</td><td>南信州広域連合による新たなごみ焼却施設</td></tr> </tbody> </table> <p>(3) 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>ア 主要な市街地開発事業の決定の方針</p> <p>(7) 土地区画整理事業</p> <p>本区域で計画決定されている土地区画整理事業地区は全て完了しているが、今後良好な市街地の形成を図るため、公共施設の整備改善など、計画的な市街地整備の促進を図る。</p> <p>(1) 市街地再開発事業</p> <p>橋南地区第二地区の再開発事業は、平成 18 年 6 月に事業が完了したが、中心市街地の高度利用や居住促進を図るため、計画的な再開発の促進を図る。</p>	都市施設	名称等	ごみ焼却場	南信州広域連合による新たなごみ焼却施設
市街地開発事業の種類	名称等										
土地区画整理事業	丸山羽場第二地区土地区画整理事業										
市街地再開発事業	橋南第二地区第一種市街地再開発事業										
都市施設	名称等										
ごみ焼却場	南信州広域連合による新たなごみ焼却施設										

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>3.4 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 基本方針</p> <p>本区域は、中央アルプス県立<u>自然公園</u>に属する風越山を背後に控え、天竜小渋水系県立<u>自然公園</u>及び天竜奥三河国定公園に属する、天竜川を見下ろす水と緑に恵まれた雄大な自然環境を有している。</p> <p>また、天竜川と松川の河岸段丘によって形成された独特の地形により、市全体が立体的で特徴ある景観をつくっており、さらに南アルプスの優れた眺望にも恵まれている。</p> <p>河岸段丘の傾斜地などにはアカマツ林や斜面樹林が多く存在し、自然環境の重要な要素となっている。さらに山麓一体には多様な価値を有する里山が連なっている。</p> <p>これらの自然環境資源については、環境保全機能をはじめ、生態系保持機能、レクリエーション機能、防災機能、景観形成機能など様々な役割を担っている。</p> <p>このような自然環境資源の機能を踏まえ、恵まれた自然環境の保全とともに、都市内で必要とされる緑地の確保については、次のように進める。</p> <p>【緑地の確保水準目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都市にうるおいややすさをもたらす緑の骨格を成す森林地帯の保全・育成、公園緑地等の整備・保全を図る。 ●市街地背後に広がる風越山を中心とした森林地帯は、市民等のレクリエーション機能を充足しつつ自然環境保全を図る。 ●天竜川や松川、野底川などの河川については、貴重な水資源として捉え、治水機能にも十分留意しながら親水性の向上に努める。 	<p>(4) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針</p> <p>ア 基本方針</p> <p>(7) 自然環境の特徴と現況、整備又は保全の必要性</p> <p>本区域は、中央アルプス県立公園に属する風越山を背後に控え、天竜小渋水系県立公園及び天竜奥三河国定公園に属する天竜川を見下ろす水と緑に恵まれた雄大な自然環境を有している。</p> <p>また、天竜川と松川の河岸段丘によって形成された独特の地形により、市全体が立体的で特徴ある景観をつくっており、さらに南アルプスの優れた眺望にも恵まれている。</p> <p>河岸段丘の傾斜地などにはアカマツ林や斜面樹林が多く存在し、自然環境の重要な要素となっている。さらに山麓一体には多様な価値を有する里山が連なっている。</p> <p>これらの自然環境資源については、環境保全機能をはじめ、<u>生物多様性の保全</u>・生態系保持機能、レクリエーション機能、防災機能、景観形成機能など様々な役割を担っている。</p> <p>このような自然環境資源の機能を踏まえ、恵まれた自然環境の保全とともに、都市内で必要とされる緑地の確保については、次のように進める。</p> <p>(イ) 緑地の確保目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●<u>りんご並木や桜並木、通り町の並木、扇町公園などの中心市街地の緑や市街地周辺に分布する農地、社寺林や屋敷林、古木・大木などの身近な緑地資源の保全に努める。</u> ●都市にうるおいややすさをもたらす緑の骨格を成す森林地帯の保全・育成、公園緑地等の整備・保全を図る。 ●市街地背後に広がる風越山を中心とした森林地帯は、<u>水源の保全、土砂流出防備</u>、市民等のレクリエーション機能を充足しつつ自然環境保全を図る。 ●天竜川や松川、野底川などの河川については、貴重な水資源として捉え、治水機能にも十分留意しながら親水性の向上に努める。 ●<u>都市化の進展等に伴って生物の多様性の減少が危惧されているなか、「生物多様性ながの県戦略」に基づき、生物多様性の保全を図る。</u>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>(2) <u>主要な緑地の配置の方針</u></p> <p>1) <u>環境保全系統</u></p> <p>① <u>森林地帯</u></p> <p>本区域の外縁および伊賀良から竜丘にかけての森林地帯は、景観機能はもとより、動植物の生息・生育地として、また、都市的活動による環境への負荷を軽減する場、また、観光利用を含めた市民の憩いの場としての利用など、都市を構成する骨格的緑地としてその保全・復元に努める。</p> <p>② <u>天竜川・松川他、河川沿い</u></p> <p>天竜川などの主要な河川及びその周辺は、水資源としての役割や治水対策などに十分留意しながら緑とともに都市にうるおいを与える水と緑の環境軸として、緑の拠点等を効果的に連携するネットワークの形成に努める。</p> <p>2) <u>レクリエーション系統</u></p> <p>近隣住民の憩いとふれあいの場として、開放空間の確保による居住・就業環境の向上などを期待し得る都市公園等を適切に配置する。</p> <p>また、これら都市公園は、公共施設や観光・レクリエーション施設などを含め、各種拠点を有機的に連携するネットワークの形成に努める。</p>	<p>(7) <u>緑地の確保目標水準</u></p> <p>本区域で都市計画決定されている公園は42箇所(面積193.2ha)であり、そのうち38箇所(面積144.4ha)が開設済みで、整備率は75%となっている。(平成25年3月末現在)また、都市公園以外にも児童遊園や農村公園、その他の公園や広場等が設置されており、公園緑地の整備水準は高い。</p> <p>今後は、人口動向などによる将来的な需要を見定め、「長野県都市公園条例」等を踏まえながら、適正な公園配置を検討する。</p> <p>なお、平成32年における緑地確保目標を15㎡/人とする。</p> <p>1) <u>主要な緑地の配置の方針</u></p> <p>(7) <u>環境保全系統</u></p> <p>a <u>森林地帯</u></p> <p>本区域の外縁及び伊賀良から竜丘にかけての森林地帯は、景観機能はもとより、動植物の生息・生育地として、また、都市的活動による環境への負荷を軽減する場、また、観光利用を含めた市民の憩いの場としての利用など、都市を構成する骨格的緑地としてその保全・復元に努める。</p> <p>b <u>天竜川・松川他、河川沿い</u></p> <p>天竜川などの主要な河川及びその周辺は、水資源としての役割や治水対策などに十分留意しながら緑とともに都市にうるおいを与える水と緑の環境軸として、緑の拠点等を効果的に連携するネットワークの形成に努める。</p> <p>c <u>松尾から座光寺にかけての段丘</u></p> <p>松尾から座光寺にかけて連なる段丘の緑は、地域景観を構成する重要な緑地資源であり、保全に努める。</p> <p>(4) <u>レクリエーション系統</u></p> <p>近隣住民の憩いとふれあいの場として、居住環境の向上も期待し得る都市公園等を将来的な需要を見定めながら、適切に配置する。</p> <p>また、これら都市公園は、公共施設や観光・レクリエーション施設などを含め、各種拠点を有機的に連携するネットワークの形成に努める。</p> <p>さらに、公園の長寿命化に努めるとともに、利用ニーズの変化に対応する</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>3) 防災系統</p> <p>① 市街地地域 市街地内については、大規模災害時における災害対策機能（一次避難地や広域避難場所等）にも十分留意しつつ、都市公園を計画的に配置する。</p> <p>② 里山部 がけ崩れ等、土砂災害はもとより、降水時等における河川への負担を軽減する貯水機能を確保するためにも、間伐等の手入れが遅れ荒廃の恐れがある森林をも含め、緑化の保全・再生・創出に努める。</p> <p>③ 工業地等 工業用地等については、騒音や振動などの周辺部に対する環境阻害の軽減等はもとより、周辺環境との調和にも留意し、敷地内緑化の促進に努める。</p> <p>4) 景観構成系統</p> <p>① 山並み景観 雄大な景観を有する森林地帯は、本地区の骨格的な景観資源であることから、保全に努める。</p> <p>② 農村風景 自然条件とともに風格のある民家や手入れの行き届いた果樹園など、人々の暮らしと産業の営みが、特色のある美しい農村の風景を形作っている。体験農業やグリーンツーリズムなど観光・レクリエーション機能の導入などによる多機能化にも努めながら、住民による主体的かつ持続的な取り組みにより、景観保全に努める。</p>	<p><u>ため、ユニバーサルデザインの導入など、誰もが使いやすいものとするよう努める。</u></p> <p>(ウ) 防災系統</p> <p>a 市街地地域 市街地内については、大規模災害時における災害対策機能（一次避難地や広域避難場所等）にも十分留意しつつ、都市公園を計画的に配置する。</p> <p>b 里山部 <u>森林は、がけ崩れ等の土砂災害はもとより、降水時等における河川への負担を軽減する貯水機能など、防災上重要な役割を果たしているため、荒廃が進みつつある民有林を含め、森林の保全・再生・創出に努める。</u></p> <p>c 工業地等 工業用地等については、騒音や振動などの周辺部に対する環境阻害の軽減等はもとより、<u>水害への予防対策（地下浸透による雨水流出の抑制）の観点から、周辺環境との調和にも留意した敷地内緑化の促進に努める。</u></p> <p>(イ) 景観構成系統</p> <p>a 山並み景観 雄大な景観を有する森林地帯は、本<u>区域</u>の骨格的な景観資源であることから、保全に努めるとともに、<u>雄大な南アルプス等の優れた眺望を損なわないよう配慮する。</u></p> <p>b 農村風景 自然条件とともに風格のある民家や手入れの行き届いた果樹園など、人々の暮らしと産業の営みが、特色のある美しい農村の風景を形作っている。体験農業やグリーンツーリズムなど観光・レクリエーション機能の導入などによる多機能化にも努めながら、住民による主体的かつ持続的な取り組みにより、景観保全に努める。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

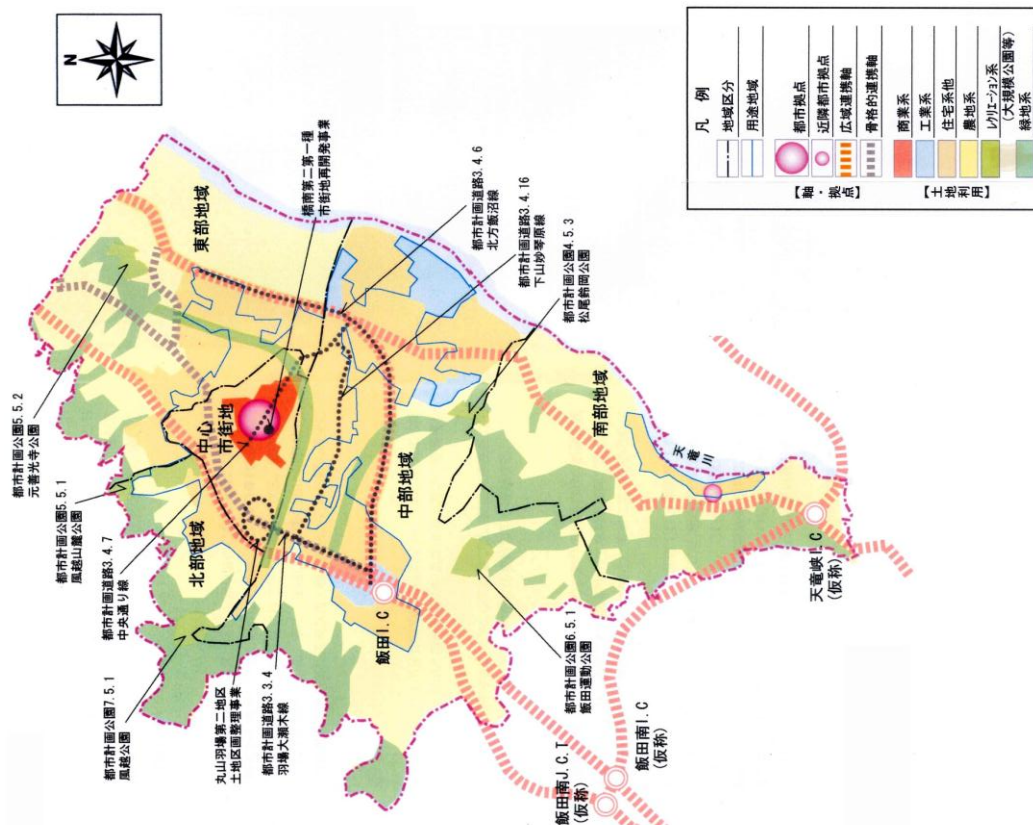
旧 (現行計画)	新 (変更計画)
<p>③ 水辺の景観 地域の独自性を顕著に示す主要な河川については、自然共生型の改修事業などにより、親水性の確保と同時に、自然環境の景観の保全、周辺環境・景観との調和に努める。</p> <p>(3) 実現のための具体の都市計画制度の方針 1) 公園緑地等の整備目標及び配置方針 憩いとやすらぎの場、スポーツ・交流の場として、都市生活に密着した根幹的施設であるとともに、災害時における避難地等として防災機能を発揮するなど、安全でゆとりある生活の実現のため公園緑地の整備に努める。</p> <p>2) 緑地保全地区等の指定目標及び指定方針 主要な緑地については、適正な指定を行い、保全を図る。</p> <p>(4) 主要な緑地の確保目標 おおむね 10 年以内に整備予定の主要な公園等の公共空地は、次のとおりとする。</p>	<p>c 水辺の景観 地域の独自性を顕著に示す主要な河川については、自然共生型の改修事業などにより、親水性の確保と同時に、自然環境の景観の保全、周辺環境・景観との調和に努める。</p> <p>d まちなみの景観 <u>中心市街地のシンボルとなっているりんご並木や桜並木などについては、保全を図る。</u> <u>また、道路や河川、公園、官公庁施設、文化施設、学校などの公共施設をはじめ、住宅地や集落地、工場等の緑化を促進し、緑豊かであるまちなみ景観の創出を図る。</u></p> <p>ウ 実現のための具体の都市計画制度の方針 <u>(7) 公園緑地等の整備目標及び配置方針</u> 憩いとやすらぎの場、スポーツ・交流の場として、都市生活に密着した根幹的施設であるとともに、災害時における避難地等として防災機能を発揮するなど、安全でゆとりある生活の実現のため<u>今後の人口動向や市街化の状況を勘案し、公園緑地の整備に努める。</u></p> <p><u>(4) 緑地保全地域等の決定目標及び決定方針</u> <u>森林などの主要な緑地については、緑地保全に関する適正な指定を行い、保全を図る。</u></p> <p><u>(7) 主要な緑地の確保目標</u> おおむね 10 年以内に整備予定の主要な公園等の公共空地は、次のとおりとする。</p>

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)		新 (変更計画)	
表－7. おおむね 10 年以内に整備予定の主要な公園等の公共空地		表－5. おおむね 10 年以内に整備予定の主要な公園等の公共空地	
都市公園	名称等	都市公園	名称等
地区公園	都市計画公園 4. 5. 3 松尾鈴岡公園	街区公園	都市計画公園 2. . 2. . 6 東栄公園
総合公園	都市計画公園 5. 5. 1 風越山麓公園		
	都市計画公園 5. 5. 2 元善光寺公園		
運動公園	都市計画公園 6. 5. 1 飯田運動公園	近隣公園	都市計画公園 3. . 3. . 1 中央公園
風致公園	都市計画公園 7. 5. 1 風越公園		
広域公園	都市計画公園 9. 6. 1 南信州広域公園		

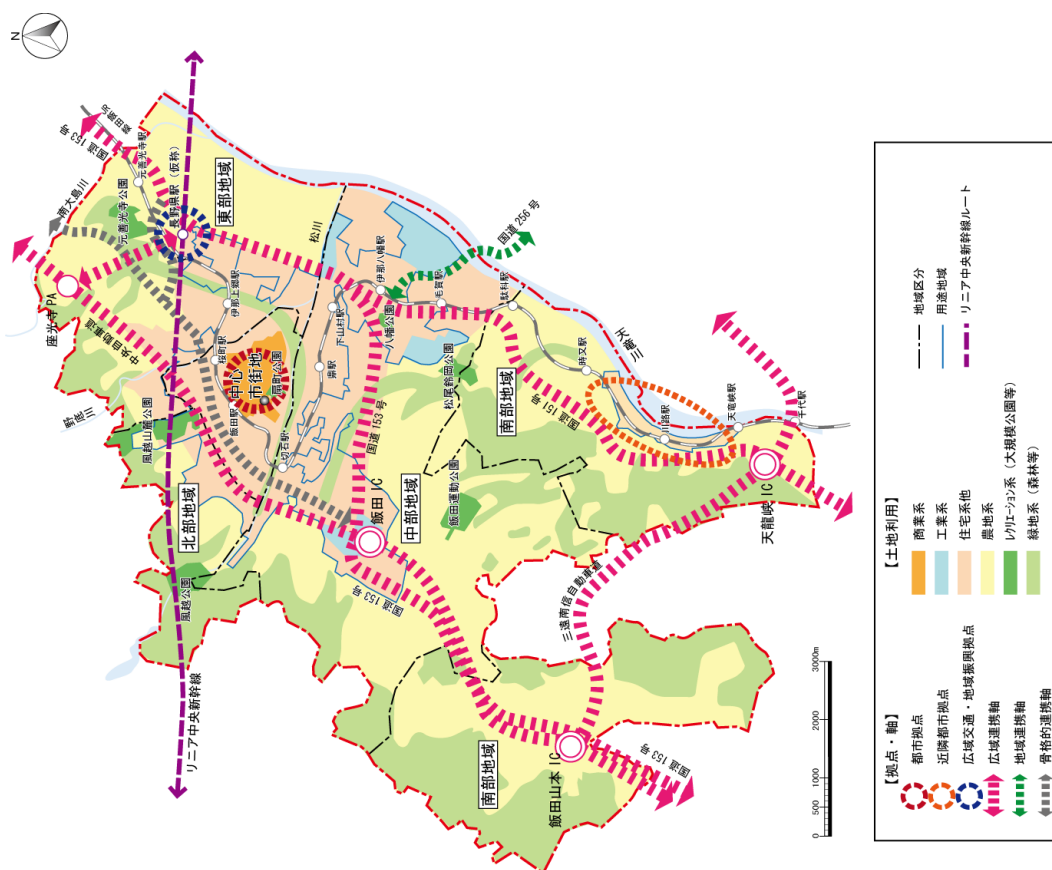
4. 附图

【都市構造図（飯田都市計画）】



6. 附图

【都市構造図（飯田都市計画）】

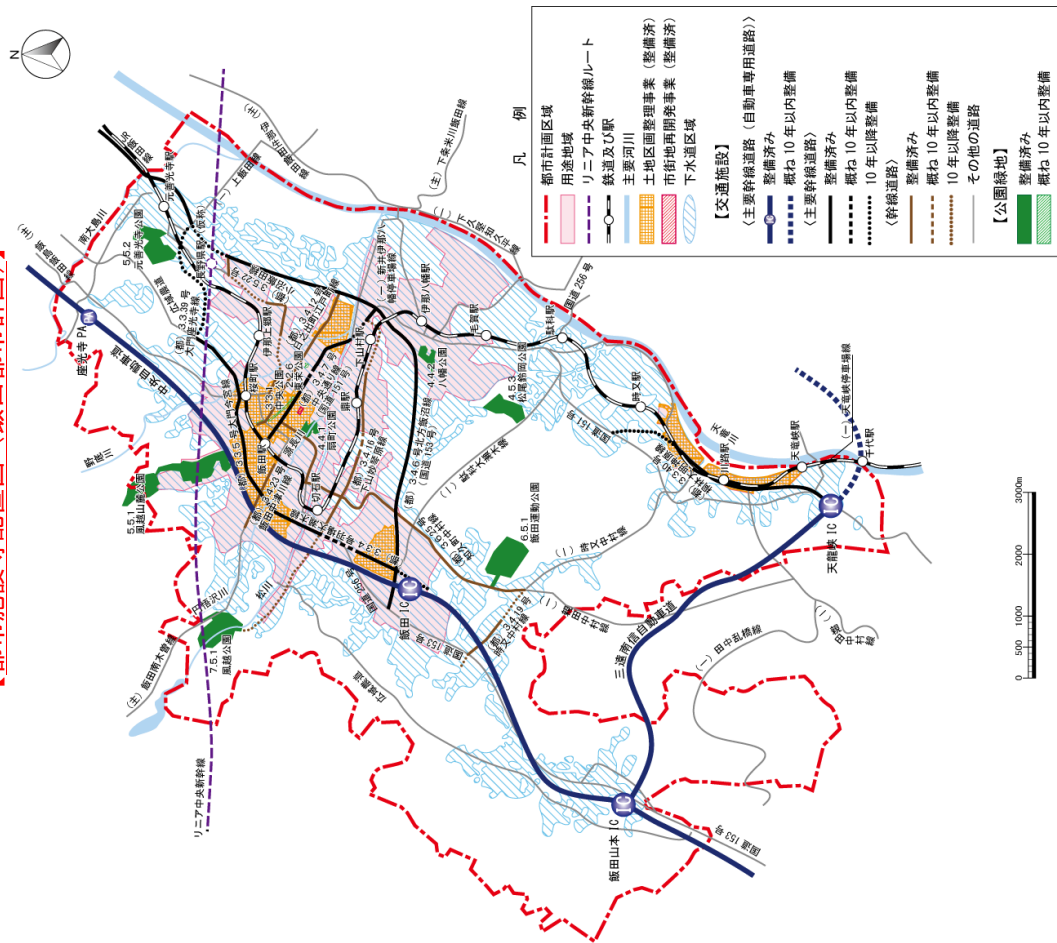


飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(素案) 新旧対照表

旧 (現行計画)

新 (変更計画)

【都市施設等配置図 (飯田都市計画)】



（参考）都市計画の策定の経緯の概要

飯田都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更（長野県決定）

事 項	時 期	備 考
パブリックコメント	平成 25 年 3 月 1 日（金）から 平成 25 年 3 月 31 日（日）まで	公述申出なし につき中止
公聴会のための素案の閲覧	平成 26 年 4 月 15 日（火）から 平成 26 年 5 月 9 日（金）まで	
公聴会 （都市計画法第 16 条第 1 項）	平成 26 年 5 月 11 日（日）	
関東地方整備局長事前協議	平成 26 年 6 月 26 日（木）	
関東地方整備局長事前協議回答	平成 26 年 7 月 14 日（月）	
市町村意見聴取 （都市計画法第 18 条第 1 項）	平成 26 年 7 月 31 日（木）	意見書なし
市町村意見聴取回答	平成 26 年 8 月 27 日（水）	
計画案の公告 （都市計画法第 17 条第 1 項）	平成 26 年 9 月 18 日（木）	
計画案の縦覧 （都市計画法第 17 条第 1 項）	平成 26 年 9 月 18 日（木）から 平成 26 年 10 月 2 日（木）まで	
長野県都市計画審議会 （都市計画法第 18 条第 1 項）	平成 26 年 11 月 5 日（水）	
国土交通大臣本協議 （都市計画法第 18 条第 3 項）	平成 26 年 11 月 下旬	（以下予定）
国土交通大臣本協議回答	平成 26 年 12 月 下旬	
決定告示 （都市計画法第 20 条第 1 項）	平成 26 年 12 月 下旬	

飯田都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（案）の変更箇所について

計画書 ページ	項目	旧 (第181回長野県都市計画審議会)	新 (第183回長野県都市計画審議会)	変更理由
11	エ多様なふれあいのあ る文化交流都市圏の創 造	・3行目 文学交流拠点	・3行目 <u>文化</u> 交流拠点	・正確な表現とするため修正
13	(エ) 交流拠点	・5行目 b <u>文学</u> 交流拠点 ・6行目 文学交流拠点と位置付け	・5行目 b <u>文化</u> 交流拠点 ・6行目 <u>文化</u> 交流拠点と位置付け	・正確な表現とするため修正
20	(ア) 中心市街地地域 (橋北・橋南・東野)	・7行目 高齢化社会に対応し、 <u>バリアフリー</u> で利便性が 高く	・7行目 高齢化社会に対応し、 <u>ユニバーサルデザインに よる利便性</u> が高く	・県下の区域マスタープランにおける統一表現に修正
28	(ア) 土地の高度利用に 関する方針	・15行目 公共空間の <u>バリアフリー</u> に努める	・15行目 公共空間の <u>ユニバーサルデザイン</u> に努める	・県下の区域マスタープランにおける統一表現に修正
31	(イ) 主要な施設の配置 の方針	—	・11行目及び18行目 <u>リニア中央新幹線長野県駅（仮称）のアクセス 道路</u>	・関係機関との調整により追加
32	(ウ) 主要な施設の整備 目標	—	・表中 <u>リニア中央新幹線長野県駅（仮称）のアクセス 道路</u>	・関係機関との調整により追加
39	都市施設等配置図	・図中 <u>3・2・6 東栄公園</u>	・図中 <u>2・2・6 東栄公園</u>	・誤字の修正